－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科研究						
担当教員	河瀬　里子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	音楽によるコミュニケーションの基礎力を養う。
授業の概要	楽典の基礎知識や歌うことを学ぶとともに、子どもと音楽の関わりを幼児・児童期の発達とともに概観する。様々な音楽表現をDVDなどで鑑賞する
到達目標	子どもの音楽的発達や子どもと音楽の関わりを知り、実際の子どもに関わるための基本知識について学ぶこと。声による表現や、特色ある子どもの音楽教育について学ぶことで、自分自身の音楽的な表現力の重要性に気付くこと。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明 第２回　楽典１ 第３回　楽典２ 第４回　子どもの音楽的発達１：発達のみちすじ 第５回　子どもの音楽的発達２：音楽的な成長 第６回　声による表現１：子どもと歌 第７回　声による表現２：教師の声 第８回　中間試験　及び　特色ある音楽教育について 第９回　わらべうたの実習 第10回　わらべうたの創作 第11回　子どもと楽器 第12回　リズム・アンサンブル１ 第13回　リズム・アンサンブル２ 第14回　リズム・アンサンブルのグループ発表 第15回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の授業で学ぶテキストの箇所は予習しておくこと。 テキスト掲載の教材曲は、音楽実技１、音楽実技２、保育内容表現１の授業における弾き歌いの課題曲となるものです。毎回の授業で歌った曲は、復習して暗唱しておくこと。
授業方法	講義と実習
評価基準と評価方法	平常点 30%　中間試験と 発表 30%　期末試験 40%
教科書	「幼児の音楽教育」音楽教育研究協会編
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科研究						
担当教員	河瀬　里子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	音楽によるコミュニケーションの基礎力を養う。
授業の概要	楽典の基礎知識や歌うことを学ぶとともに、子どもと音楽の関わりを幼児・児童期の発達とともに概観する。様々な音楽表現をDVDなどで鑑賞する
到達目標	子どもの音楽的発達や子どもと音楽の関わりを知り、実際の子どもに関わるための基本知識について学ぶこと。声による表現や、特色ある子どもの音楽教育について学ぶことで、自分自身の音楽的な表現力の重要性に気付くこと。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明 第２回　楽典１ 第３回　楽典２ 第４回　子どもの音楽的発達１：発達のみちすじ 第５回　子どもの音楽的発達２：音楽的な成長 第６回　声による表現１：子どもと歌 第７回　声による表現２：教師の声 第８回　中間試験　及び　特色ある音楽教育について 第９回　わらべうたの実習 第10回　わらべうたの創作 第11回　子どもと楽器 第12回　リズム・アンサンブル１ 第13回　リズム・アンサンブル２ 第14回　リズム・アンサンブルのグループ発表 第15回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の授業で学ぶテキストの箇所は予習しておくこと。 テキスト掲載の教材曲は、音楽実技１、音楽実技２、保育内容表現１の授業における弾き歌いの課題曲となるものです。毎回の授業で歌った曲は、復習して暗唱しておくこと。
授業方法	講義と実習
評価基準と評価方法	平常点 30%　中間試験と 発表 30%　期末試験 40%
教科書	「幼児の音楽教育」音楽教育研究協会編
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科指導法						
担当教員	奥村　正子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	小学校音楽科の授業者に必要な知識、技能について学ぶ。
授業の概要	小学校学習指導要領「音楽科」の内容を理解する。表現・鑑賞の教材研究を行う。
到達目標	小学校学習指導要領「音楽科」の目標を達成するために、その内容について理解すること。「音楽科」を担当するために必要な具体的・実践的な知識と技能を身につけること。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明・小学校学習指導要領「音楽科」の目標と内容 第２回　わが国の音楽教育の歴史と動向 第３回　「歌う」（１）：子どもの音楽的発達と歌唱教材 第４回　「歌う」（２）：自分の声・声の知識・指導の実際 第５回　「楽器を弾く」（１）：音を奏でる・色々な楽器 第６回　「楽器を弾く」（２）：合奏実習 第７回　アンサンブルの発表と楽典の確認 第８回　「聴く」（１）：世界の様々な音楽 第９回　「聴く」（２）：日本の伝統音楽（ゲストスピーカーによる箏曲のワークショップ） 第10回　「音楽をつくる」（１）：リズムを中心に 第11回　「音楽をつくる」（２）：声や音の重なりを中心に 第12回　「動く」：音楽と身体 第13回　　指導計画と授業づくり 第14回　　音楽科の評価 第15回　　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	共通歌唱教材は、弾き歌いができるように練習をしておくこと。 次回の授業までに、指定したテキストの該当箇所を予習してくること。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点30%　発表（模擬授業など）30%　試験40% 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	教員養成課程「小学校音楽科教育法」　編著者：有本真紀他　発行者：教育芸術社
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	井原　由紀						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	井原　由紀						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村　正子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	奥村　正子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	河瀬　里子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	河瀬　里子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	木本　雅子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	木本　雅子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	幸野　紀子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	幸野　紀子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	長尾　智絵						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	長尾　智絵						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	横山　由美子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技I						
担当教員	横山　由美子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。 中間試験と期末試験を実施する。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第２回　ピアノの基礎技能１　姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第３回　ピアノの基礎技能２　フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第４回　グレード毎の課題曲の解説　及び個人レッスン 第５回　読譜のために　及び個人レッスン 第６回　拍子について　及び個人レッスン 第７回　リズムについて　及び個人レッスン 第８回　中間試験　及び個人レッスン 第９回　コードネームについて　及び個人レッスン 第10回　歌うこと１：発声法　及び個人レッスン 第11回　歌うこと２：子どもの歌唱教材　及び個人レッスン 第12回　音階１　及び個人レッスン 第13回　音階２　及び個人レッスン 第14回　楽典の確認テスト　及び個人レッスン 第15回　期末試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	奥村　正子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	奥村　正子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬　里子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	河瀬　里子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	木本　雅子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	木本　雅子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	幸野　紀子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	幸野　紀子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	土井　智恵子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	土井　智恵子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	長尾　智絵						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	長尾　智絵						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	横山　由美子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技II						
担当教員	横山　由美子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。
授業の概要	「音楽実技１」と同様に、１クラスを２つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブル、VTR視聴などを行う。
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ｉ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第２回　グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン１ 第３回　コードネーム１、及び個人レッスン２ 第４回　コードネーム２、及び個人レッスン３ 第５回　弾き歌い１（歌うことを中心に）、及び個人レッスン４ 第６回　弾き歌い２（歌うことを中心に）、及び個人レッスン５ 第７回　弾き歌い３（伴奏を中心に）、及び個人レッスン６ 第８回　弾き歌い４（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン７ 第９回　中間試験と楽典の確認１ 第１０回　簡単な伴奏付け１、及び個人レッスン８ 第１１回　簡単な伴奏付け２、及び個人レッスン９ 第１２回　アンサンブル１、及び個人レッスン１０ 第１３回　アンサンブル２、及び個人レッスン１１ 第１４回　楽典の確認２、及び個人レッスン１２ 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 『おんがくのしくみ』教育芸術社　ISBN978-4-87788-377-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技III						
担当教員	奥村　正子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	「声」と「身体」による音楽表現の探求。
授業の概要	心地よい声、よく聴き取れる日本語で歌うための発声法、また子どもの音楽表現を引き出す柔軟で豊かな身体表現を学ぶ。声や楽器によるアンサルンブルを伴う劇の発表を行う。
到達目標	子どもにとって極めて重要な音楽環境である保育士や教師の「声」と「身体」による表現を、実際にチャペルでの発表を通して体得する。
授業計画	第１回　ガイダンス／授業の概要説明、及び「聖誕劇」について 第２回　声と身体１（発声の仕組み） 第３回　声と身体２（柔軟な身体、柔軟な声） 第４回　話す声・読む声１（表情、身振り、感情と声） 第５回　話す声・読む声２（朗読、台詞） 第６回　声のアンサンブル１ 第７回　声のアンサンブル２ 第８回　楽器と身体表現１ 第９回　楽器と身体表現２ 第10回　総合演習１ 第11回　総合演習２ 第12回　総合演習３ 第13回　「聖誕劇」の発表　（チャペルにおけるキャンドル・サーヴィス） 第14回　総合的な音楽表現 第15回　期末テストとまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	「聖誕劇」の歌や台詞は、できるだけ早い段階で暗唱しておくこと。
授業方法	実技
評価基準と評価方法	発表４０点　実技テスト２０点　　毎回の授業への取り組み４０点 出席回数が2/3以下の場合は評価の対象としない。
教科書	楽譜、資料等は、そのつど配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅳ						
担当教員	幸野　紀子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	実習及び採用試験に向けて、音楽表現力の更なる向上を目指す。
授業の概要	ピアノ演奏や歌唱、弾き歌いについて、これまで学んできたことを基に、「発声」「ピアノと声の音量バランス」「歌う表情」など具体的に指導する。採用試験対策として、学習指導要領や楽典についても指導する。
到達目標	音楽技能と音楽的感性の向上を目指し、教育実習や採用試験に対応できる実力の習得。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明 第２回　課題曲について1 第３回　課題曲について2 第４回　楽典の復習1 第５回　歌唱とピアノ伴奏1 第６回　歌唱とピアノ伴奏2 第７回　学習指導要領１ 第８回　中間試験 第９回　楽典の復習2 第10回　学習指導要領2 第11回　弾き歌い実習1 第12回　弾き歌い実習2 第13回　弾き歌い実習3 第14回　弾き歌い実習4 第15回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の課題について、日々の練習を怠らないこと。 採用試験
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点70点（課題への取り組み、中間試験などを総合する） 期末試験 30点 10回以上の出席がないと評価の対象としない。
教科書	「音楽科指導法」、「保育内容（表現１）」を履修した際に使用したテキスト
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	河瀬　里子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の習得。
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、　課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第２回　ピアノ奏法の基礎　及び個人レッスン１ 第３回　楽典の基礎　及び個人レッスン２ 第４回　課題曲の解説　及び個人レッスン３ 第５回　個人レッスン４ 第６回　個人レッスン５ 第７回　小テスト　及び個人レッスン６ 第８回　連弾について　及び個人レッスン７ 第９回　個人レッスン８ 第１０回　個人レッスン９ 第１１回　個人レッスン１０ 第１２回　連弾の発表　個人レッスン１１ 第１３回　個人レッスン１２ 第１４回　個人レッスン１３ 第１５回　まとめと演奏の発表（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60%　期末試験40% 出席回数が１０回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム　全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第１回めの授業で発表します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	河瀬　里子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の習得。
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、　課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第２回　ピアノ奏法の基礎　及び個人レッスン１ 第３回　楽典の基礎　及び個人レッスン２ 第４回　課題曲の解説　及び個人レッスン３ 第５回　個人レッスン４ 第６回　個人レッスン５ 第７回　小テスト　及び個人レッスン６ 第８回　連弾について　及び個人レッスン７ 第９回　個人レッスン８ 第１０回　個人レッスン９ 第１１回　個人レッスン１０ 第１２回　連弾の発表　個人レッスン１１ 第１３回　個人レッスン１２ 第１４回　個人レッスン１３ 第１５回　まとめと演奏の発表（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60%　期末試験40% 出席回数が１０回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム　全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第１回めの授業で発表します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	幸野　紀子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の習得。
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、　課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第２回　ピアノ奏法の基礎　及び個人レッスン１ 第３回　楽典の基礎　及び個人レッスン２ 第４回　課題曲の解説　及び個人レッスン３ 第５回　個人レッスン４ 第６回　個人レッスン５ 第７回　小テスト　及び個人レッスン６ 第８回　連弾について　及び個人レッスン７ 第９回　個人レッスン８ 第１０回　個人レッスン９ 第１１回　個人レッスン１０ 第１２回　連弾の発表　個人レッスン１１ 第１３回　個人レッスン１２ 第１４回　個人レッスン１３ 第１５回　まとめと演奏の発表（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60%　期末試験40% 出席回数が１０回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム　全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第１回めの授業で発表します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	土井　智恵子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の習得。
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、　課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第２回　ピアノ奏法の基礎　及び個人レッスン１ 第３回　楽典の基礎　及び個人レッスン２ 第４回　課題曲の解説　及び個人レッスン３ 第５回　個人レッスン４ 第６回　個人レッスン５ 第７回　小テスト　及び個人レッスン６ 第８回　連弾について　及び個人レッスン７ 第９回　個人レッスン８ 第１０回　個人レッスン９ 第１１回　個人レッスン１０ 第１２回　連弾の発表　個人レッスン１１ 第１３回　個人レッスン１２ 第１４回　個人レッスン１３ 第１５回　まとめと演奏の発表（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60%　期末試験40% 出席回数が１０回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム　全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第１回めの授業で発表します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	土井　智恵子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の習得。
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、　課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第２回　ピアノ奏法の基礎　及び個人レッスン１ 第３回　楽典の基礎　及び個人レッスン２ 第４回　課題曲の解説　及び個人レッスン３ 第５回　個人レッスン４ 第６回　個人レッスン５ 第７回　小テスト　及び個人レッスン６ 第８回　連弾について　及び個人レッスン７ 第９回　個人レッスン８ 第１０回　個人レッスン９ 第１１回　個人レッスン１０ 第１２回　連弾の発表　個人レッスン１１ 第１３回　個人レッスン１２ 第１４回　個人レッスン１３ 第１５回　まとめと演奏の発表（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60%　期末試験40% 出席回数が１０回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム　全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第１回めの授業で発表します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	長尾　智絵						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の習得。
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、　課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第２回　ピアノ奏法の基礎　及び個人レッスン１ 第３回　楽典の基礎　及び個人レッスン２ 第４回　課題曲の解説　及び個人レッスン３ 第５回　個人レッスン４ 第６回　個人レッスン５ 第７回　小テスト　及び個人レッスン６ 第８回　連弾について　及び個人レッスン７ 第９回　個人レッスン８ 第１０回　個人レッスン９ 第１１回　個人レッスン１０ 第１２回　連弾の発表　個人レッスン１１ 第１３回　個人レッスン１２ 第１４回　個人レッスン１３ 第１５回　まとめと演奏の発表（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60%　期末試験40% 出席回数が１０回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム　全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第１回めの授業で発表します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	横山　由美子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の習得。
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、　課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第２回　ピアノ奏法の基礎　及び個人レッスン１ 第３回　楽典の基礎　及び個人レッスン２ 第４回　課題曲の解説　及び個人レッスン３ 第５回　個人レッスン４ 第６回　個人レッスン５ 第７回　小テスト　及び個人レッスン６ 第８回　連弾について　及び個人レッスン７ 第９回　個人レッスン８ 第１０回　個人レッスン９ 第１１回　個人レッスン１０ 第１２回　連弾の発表　個人レッスン１１ 第１３回　個人レッスン１２ 第１４回　個人レッスン１３ 第１５回　まとめと演奏の発表（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60%　期末試験40% 出席回数が１０回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム　全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第１回めの授業で発表します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	横山　由美子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の習得。
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明、　課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第２回　ピアノ奏法の基礎　及び個人レッスン１ 第３回　楽典の基礎　及び個人レッスン２ 第４回　課題曲の解説　及び個人レッスン３ 第５回　個人レッスン４ 第６回　個人レッスン５ 第７回　小テスト　及び個人レッスン６ 第８回　連弾について　及び個人レッスン７ 第９回　個人レッスン８ 第１０回　個人レッスン９ 第１１回　個人レッスン１０ 第１２回　連弾の発表　個人レッスン１１ 第１３回　個人レッスン１２ 第１４回　個人レッスン１３ 第１５回　まとめと演奏の発表（期末試験）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60%　期末試験40% 出席回数が１０回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム　全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第１回めの授業で発表します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	海外教育実習／Teaching　Practice　Abroad						
担当教員	寺見　陽子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	異文化体験を通して、海外教育事情や多文化共生教育を理解するとともに、日本の保育・教育との比較検討を行い、子どもの養護と教育の本質を考える。
授業の概要	海外の子育て事情や教育事情を視察することを通して、次のような理解を深める。 ・子育てや教育の多様なあり方を理解する ・現場視察を通して、多文化共生教育の意義を理解する。 ・現場での見学・観察・実習を通して、海外の子どもの文化や保育・教育の実際を学ぶ。
到達目標	・海外教育事情を理解する ・多文化共生教育を理解する ・異文化体験を通して、日本における子どもの養育と教育のあり方につて考察する
授業計画	１．海外研修の意義と目的・実習内容について ２．オーストラリアの生活・文化と子育て・教育事情 ３．異文化理解と多文化共生教育の意義 ４．自己課題とテーマ設定、実習計画案の作成 ５．教材研究 ６．教材研究 ７．英語研修 ８．英語研修 ９．英語研修 １０．保育・教育視察（オーストラリア・アデレード） １１．見学実習（オーストラリア・アデレード） １２．観察実習（オーストラリア・アデレード） １３．計画実習（オーストラリア・アデレード） １４．プレゼンテーション（オーストラリア・アデレード） １５．自己評価とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	体調管理。日常生活における簡単な英会話に慣れておくこと。日本の文化への理解と見識を深めておくこと。
授業方法	グループ活動と個別指導
評価基準と評価方法	実習計画　３０点　　プレゼンテーション　３０点　　海外教育実習報告書　４０点
教科書	必要に応じて示す
参考書	必要に応じて示す

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	谷口　和良						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	介護等体験をもとにした事前・事後指導による教員の意識の変革と資質の向上
授業の概要	この授業では、介護等体験の意義、個人の尊厳や社会連帯の理念に対する理解を深めることを目標とするとともに、具体的に相手の人格を尊重し、対等に共生できる関係を経験することが求められる。そこで、実際に介護等体験を通して、社会福祉に関する知識と理解、障害者や高齢者に対する介護や援助のあり方、コミュニケーションの取り方、障害者や高齢者、施設利用者との連帯意識の高揚などを図っていこうとしています。
到達目標	介護等体験としての特別支援学校２日間と社会福祉施設５日間の体験実習に向けて，それぞれの学校や施設の現状把握や心構えなどを行い，有意義な介護等体験をすることをめざしています。
授業計画	○　集中講義 第１回　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング（介護等体験の意義と目的） 第２回　特別支援学校の概要と実態 第３回　特別支援学校での介護等体験に取り組む留意点と心構え 第４回　高齢者福祉と社会福祉施設に対する問題と課題（社会福祉施設の関係者の話を聞く） 第５回　社会福祉施設での介護等体験に取り組む留意点と心構え 第６回　特別支援学校での介護等体験の振り返り 第７回　社会福祉施設での介護等体験の振り返り 第８回　まとめ（介護等の体験による自己変革・改革、生命の尊厳、介護のあり方等） ○　現場体験 1.　特別支援学校において２日間 2.　社会福祉施設において５日間
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：２回生で受講した「子ども発達実習」での特別支援学校訪問のレポートを見直し，復習するとともに訪問時のことを想起しておいてください。 授業後学習：事前・事後の授業及び現場で体験したことを復習しながら整理しておき，教職現場に立った時に活用できるようにしておくことが大切です。
授業方法	授業計画にあるように、集中講義８回（事前的なもの５回と実習報告を含めた事後的なもの３回）と現場体験を行う。
評価基準と評価方法	事前・事後の授業の取り組みや体験実習などを含めて総合的に行う。なお、体験終了後、体験先から交付される「証明書」を提出しないと、体験を完了していても単位が与えられないので注意すること。 ・　平常点５０％（出席状況、授業への関心・意欲・態度、ワークシートの記入内容や授業後の感想） ・　体験実習等のレポート５０％（特別支援学校や社会福祉施設での体験記録や体験後のレポート）
教科書	
参考書	「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック」（全国特殊学校長会）ジアース教育新社

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科研究						
担当教員	守野　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「小学校における家庭科教育のあり方を考える」ことをテーマに、自分の家庭科教育の目標を持てるようになることと、学習主体の学習動機を見据えて「学びたい」「学びが楽しい」気持ちにさせる教材の吟味力を養う。
授業の概要	小学校における家庭科の学習は、発達途上の児童に、いかなる力を身につける機会を提供できるか。また、家庭科教育は、変化する社会からの要請や期待に、いかに応えることができるか。本講義を通して、現状の家庭生活の抱える問題、児童の育ちの問題などを見渡しながら、家庭科教育が、小学校高学年の段階の児童のいかなる面に働きかけ、いかなる力を伸ばすことをめざすのかを考え、具体的な学習内容を提案する機会とする。
到達目標	自分の家庭科教育の目標を持てるようになる。学習主体の学習動機を喚起する、学習内容および指導方法について考え、工夫することができるようになる。自分自身の生活についても見直し、改善する姿勢を身につける。
授業計画	第１回　オリエンテーション：小学校家庭科教育のイメージ 第２回　家庭科教育とは：その意義と現状の課題 第３回　小学生にとっての家庭生活：家族との関わり（１） 第４回　小学生にとっての家庭生活：家族との関わり（２） 第５回　小学生にとっての家庭生活：家庭生活での役割（１） 第６回　小学生にとっての家庭生活：家庭生活での役割（２） 第７回　小学生にとっての家庭生活：健康的な暮らし（１）生活習慣 第８回　小学生にとっての家庭生活：健康的な暮らし（２）食生活 第９回　小学生にとっての家庭生活：衛生的な暮らし（１）住生活 第１０回　小学生にとっての家庭生活：衛生的な暮らし（２）衣生活 第１１回　小学生にとっての家庭生活：快適な暮らし　楽しみ・工夫と改善 第１２回　自立と生活スキル（１）家事技術の習得 第１３回　自立と生活スキル（２）自己管理能力の育成 第１４回　自立と生活スキル（３）家族・身近な人とのコミュニケーション 第１５回　まとめ：今後の課題
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校、中学校、高校の家庭科の教科書を見て、どんな学習内容が含まれているか確認しておくとよい。
授業方法	講義および意見交換
評価基準と評価方法	平常点３０点（受講態度、確認テスト、発表など） 指導案の作成３０点 期末レポート４０点
教科書	中間美砂子編著『小学校家庭科指導の研究』建帛社（家庭科指導法でも使用します） 小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（講義開始後に教科書販売店に注文します）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科研究						
担当教員	守野　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「小学校における家庭科教育のあり方を考える」ことをテーマに、自分の家庭科教育の目標を持てるようになることと、学習主体の学習動機を見据えて「学びたい」「学びが楽しい」気持ちにさせる教材の吟味力を養う。
授業の概要	小学校における家庭科の学習は、発達途上の児童に、いかなる力を身につける機会を提供できるか。また、家庭科教育は、変化する社会からの要請や期待に、いかに応えることができるか。本講義を通して、現状の家庭生活の抱える問題、児童の育ちの問題などを見渡しながら、家庭科教育が、小学校高学年の段階の児童のいかなる面に働きかけ、いかなる力を伸ばすことをめざすのかを考え、具体的な学習内容を提案する機会とする。
到達目標	自分の家庭科教育の目標を持てるようになる。学習主体の学習動機を喚起する、学習内容および指導方法について考え、工夫することができるようになる。自分自身の生活についても見直し、改善する姿勢を身につける。
授業計画	第１回　オリエンテーション：小学校家庭科教育のイメージ 第２回　家庭科教育とは：その意義と現状の課題 第３回　小学生にとっての家庭生活：家族との関わり（１） 第４回　小学生にとっての家庭生活：家族との関わり（２） 第５回　小学生にとっての家庭生活：家庭生活での役割（１） 第６回　小学生にとっての家庭生活：家庭生活での役割（２） 第７回　小学生にとっての家庭生活：健康的な暮らし（１）生活習慣 第８回　小学生にとっての家庭生活：健康的な暮らし（２）食生活 第９回　小学生にとっての家庭生活：衛生的な暮らし（１）住生活 第１０回　小学生にとっての家庭生活：衛生的な暮らし（２）衣生活 第１１回　小学生にとっての家庭生活：快適な暮らし　楽しみ・工夫と改善 第１２回　自立と生活スキル（１）家事技術の習得 第１３回　自立と生活スキル（２）自己管理能力の育成 第１４回　自立と生活スキル（３）家族・身近な人とのコミュニケーション 第１５回　まとめ：今後の課題
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校、中学校、高校の家庭科の教科書を見て、どんな学習内容が含まれているか確認しておくとよい。
授業方法	講義および意見交換
評価基準と評価方法	平常点３０点（受講態度、確認テスト、発表など） 指導案の作成３０点 期末レポート４０点
教科書	中間美砂子編著『小学校家庭科指導の研究』建帛社（家庭科指導法でも使用します） 小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（講義開始後に教科書販売店に注文します）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科指導法						
担当教員	守野　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	小学校における家庭科指導の具体的内容と方法を考える
授業の概要	実際の生活と関わりある内容を取り扱う家庭科の指導において大切なことは、まず、小学校高学年という発達に応じた生活体験や生活状況を配慮した上で、興味関心を引き出し、児童の内面での学習動機付けを喚起することである。理解を促す教材やテーマは、児童にとって具体的であるとともに一般化しやすい側面を持ち合わせるものを選びたい。本講義では、児童が生活に関心を深め、自らの生活を変革する意識と実践力を身につけられるような指導方法を考える機会としたい。
到達目標	自分の家庭科教育の目標を実現できる教材の選び方、授業の組み立て方を工夫することができる。 実技指導の内容について、教材を吟味して指導計画することができる。 多様な実践例などから学び、自分で指導計画の立案ができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション：小学生の生活と生活能力 第２回　家庭科で何を教えるか：実技指導を伴う授業の計画 第３回　教材研究のための実践１：調理実習（１）料理って楽しいな（卵料理） 第４回　教材研究のための実践２：調理実習（２）家族のための和食（味噌汁） 第５回　教材研究１：家族の健康的な食生活 第６回　教材研究２：食生活に必要な技術 第７回　教材研究３：調理実習の指導のための教材作り 第８回　教材研究のための実践３：被服製作（１）フェルトを使った小物作り 第９回　教材研究のための実践４：被服製作（２）手縫いで作る小物（縫い方の確認） 第１０回　教材研究４：暮らしの中の布製品 第１１回　教材研究５：縫う技術の体験のための教材作り 第１２回　教材研究６：健康な生活のための栄養に関する学習の教材作り 第１３回　教材研究７：栄養に関する学習教材の発表　1回目 第１４回　教材研究８：栄養に関する学習教材の発表　2回目 第１５回　まとめ：総評
授業外における学習（準備学習の内容）	調理実習や被服製作の実技指導で、教材にできそうなものをリサーチし、自分で体験、実施しておくとよい。
授業方法	各回のテーマに沿った教材提案の意見交換　教材作成　授業の詳案の作成 調理実習および縫製技術を活用した作品作りを含む
評価基準と評価方法	平常点３０点（受講・取組姿勢、小テスト、発表） 指導案の作成４０点 模擬授業またはレポート３０点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	中間美砂子編著『小学校家庭科指導の研究』建帛社　（家庭科研究でも使います） 小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（家庭科研究受講時に購入してもらいます）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科指導法						
担当教員	守野　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	小学校における家庭科指導の具体的内容と方法を考える
授業の概要	実際の生活と関わりある内容を取り扱う家庭科の指導において大切なことは、まず、小学校高学年という発達に応じた生活体験や生活状況を配慮した上で、興味関心を引き出し、児童の内面での学習動機付けを喚起することである。理解を促す教材やテーマは、児童にとって具体的であるとともに一般化しやすい側面を持ち合わせるものを選びたい。本講義では、児童が生活に関心を深め、自らの生活を変革する意識と実践力を身につけられるような指導方法を考える機会としたい。
到達目標	自分の家庭科教育の目標を実現できる教材の選び方、授業の組み立て方を工夫することができる。 実技指導の内容について、教材を吟味して指導計画することができる。 多様な実践例などから学び、自分で指導計画の立案ができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション：小学生の生活と生活能力 第２回　家庭科で何を教えるか：実技指導を伴う授業の計画 第３回　教材研究のための実践１：調理実習（１）料理って楽しいな（卵料理） 第４回　教材研究のための実践２：調理実習（２）家族のための和食（味噌汁） 第５回　教材研究１：家族の健康的な食生活 第６回　教材研究２：食生活に必要な技術 第７回　教材研究３：調理実習の指導のための教材作り 第８回　教材研究のための実践３：被服製作（１）フェルトを使った小物作り 第９回　教材研究のための実践４：被服製作（２）手縫いで作る小物（縫い方の確認） 第１０回　教材研究４：暮らしの中の布製品 第１１回　教材研究５：縫う技術の体験のための教材作り 第１２回　教材研究６：健康な生活のための栄養に関する学習の教材作り 第１３回　教材研究７：栄養に関する学習教材の発表　1回目 第１４回　教材研究８：栄養に関する学習教材の発表　2回目 第１５回　まとめ：総評
授業外における学習（準備学習の内容）	調理実習や被服製作の実技指導で、教材にできそうなものをリサーチし、自分で体験、実施しておくとよい。
授業方法	各回のテーマに沿った教材提案の意見交換　教材作成　授業の詳案の作成 調理実習および縫製技術を活用した作品作りを含む
評価基準と評価方法	平常点３０点（受講・取組姿勢、小テスト、発表） 指導案の作成４０点 模擬授業またはレポート３０点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	中間美砂子編著『小学校家庭科指導の研究』建帛社　（家庭科研究でも使います） 小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（家庭科研究受講時に購入してもらいます）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	学校観察実習						
担当教員	尾崎　多						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	スクールサポーターとしての体験学習を通して、教職へのモチベーションを高める。
授業の概要	小学校現場で、週１回程度（１５回以上）児童の学習支援や学校行事の手伝いを行う。ただし、ボランティア的活動とは言え、児童に与える影響は大きいことから､十分な事前指導や説明、事後の集中講義を受ける必要がある。 実習では教育の厳しさや喜びを体験でき、教職をめざす自覚も高められるだけでなく、人間理解を深め、自己啓発ができる機会も得られる。子どもにとってもスクールサポーターと接することで、自尊感情や学ぶ意欲を高めることができるなどの得難い交流ができる。
到達目標	小学校の教育現場の実態を知る。自己の適性を知り、教職への意欲を高める。
授業計画	○実習前の講義 第１回　スクールサポーター制度の説明と質疑 第２回　実態の把握 - 主な活動内容、子どもの接し方 第３回　実習に向けてのガイダンス　心構えと心得、スクール・サポーターに求められる資質・見識 実習の記録・報告書の書き方 ○実習中の講義 第4回　実習の内実を高める方法、実習情報の交流 ○当該学校での観察実習 ○実習後の授業 第５回　反省・報告会 - 感想や経験したこと・学んだことなどの交流 第６回　講話とまとめ - 教職を目指す学生に期待すること・経験や体験をどう生かすか
授業外における学習（準備学習の内容）	配置される学校の特色、教育目標や活動内容などについて情報を収集をする。
授業方法	学校での観察実習、講義と講話、グループ討議
評価基準と評価方法	週１回程度、継続して学校観察実習を行い、実習記録、感想文を提出することを評価の条件とする。実習回数は15回以上でなくてはならない。当該学校の活動報告書､並びに事前・事後指導時におけるレポートの内容を加味して評価する。 実習校での実習意欲や態度、その活動報告書で４割。実習記録と感想文で３割。事前・事後指導時のレポートで３割という割合で総合評価をする。
教科書	資料やプリントを配付する。
参考書	講義時に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	大下　卓司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方
授業の概要	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。 第1に，各学校段階（幼稚園・保育所も含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色を習得する。 第2に，授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、教育課程・カリキュラムと授業及び評価との関わりについて理解を深める。 第3に，教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで，今日注目を浴びているカリキュラム開発の考え方の背景について理解を深め、これらかの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察する。
到達目標	・教育課程・カリキュラムに関する基本的知識を習得する ・教育課程・カリキュラムと授業・評価との関わりについて理解を深める ・教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につける ・今日注目を浴びているカリキュラム開発の考え方の背景について理解を深める ・これからの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察を深める
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業概要の説明と理想の時間割とは？ 第２回　「教育課程」と「カリキュラム」 第３回　幼稚園・保育所のカリキュラム 第４回　小学校のカリキュラム 第５回　中学校のカリキュラム 第６回　カリキュラムと授業づくり①：教科中心 第７回　カリキュラムと授業づくり②：活動（体験）中心 第８回　カリキュラムと評価①：学力問題を中心に 第９回　教育課程の歴史①：戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第10回　教育課程の歴史②：戦後の経済的発展と系統主義カリキュラム 第11回　教育課程の歴史③：「荒れ」の時代と「ゆとり」 第12回　教育課程の歴史④：新学力観と総合的な学習の時間 第13回　カリキュラムと評価②：パフォーマンス評価を中心に 第14回　カリキュラム開発とカリキュラムマネジメント① 第15回　まとめと今後の課題・筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所について予習をする。 授業後学習：授業で学んだことを整理し，ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し，理解を深める。
授業方法	講義形態による授業に加えて視聴覚教材を活用するなど，多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。
評価基準と評価方法	試験50%，レポート30%，平常点20%（授業中の小レポートなど。） 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	田中耕治他『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房.
参考書	田中耕治他『新しい時代の教育課程』（第３版）有斐閣.

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育経営論						
担当教員	根津　隆男						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「子どもたちが、共に学び、共に成長する学級・学校経営の在り方を明らかにする」
授業の概要	まず、学校教育の歴史を振り返り、１９９０年代以降の変化する社会状況の中で、現代の学校園教育は如何にあるべきか、教育基本法に立ち返り、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようになっているのかも学習する。その上で、学校教育が担う教育機能は、子どもたちに、知識・技能の習得をさせることだけでなく、心理社会的な発達を援助する側面を重視した学校経営論を構築していく。
到達目標	現在の学校園の実態を把握して、子ども在りきの学級・学校園経営を考える
授業計画	第１回：オリエンテーション　１９９０年代以降の子どもたち 第２回：学校教育の目的　教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの 第３回：教育法規　学校教育法・学校教育法施行規則 第４回：学習指導要領　全国共通の学習指導の体系として 第５回：教育課程　カリキュラムの必要性とカリキュラムにないもの 第６回：子ども理解　子どもは自ら伸びようとする力を持っている 第７回：保護者対応　保護者は味方にも敵にもなる 第８回：学校園の組織　子ども在りきの学校経営 第９回：教職員の組織　リーダーシップとフォロアーシップ 第１０回：学校経営と心の教育　鍵となるルールとリレーションをつくる 第１１回：学習指導と生徒指導　指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化 第１２回：育てる教育相談　集団の中で個を育てる 第１３回：多様な教育　理念中心型教育と状況対応型教育 第１４回：地域の中の学校　地域の核となり、地域へ発信する学校 第１５回：今学校にも求められるもの　学校教育の変わらぬ意義「人は　人によって　人になる」 定期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	学校園に出かけ、子どもとふれあい、子ども・学校の実態を知る
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・小テスト）　３０％ 演習点（興味関心度・表現力）　３０％ レポート点（子どもを中心に据えた経営論が、立てられているか）　４０％ 意欲（授業に関心を持ち、懸命に参加する） 知識（教育用語を十分理解している） 適性（教育に関する発言が的確にできる）
教科書	学習指導要領解説　総則編（平成２０年８月）　文部科学省 生徒指導提要（平成２２年３月）
参考書	教育六法 「悲鳴を上げる学校―親の“イチャモン”から“結びあい”へ―」小野田正利　旬報社

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡　靖						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析する。
授業の概要	１．近代的な学校教育制度の歴史と成り立ちを説明する。 ２．学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で再考する。 ３．カウンセリングマインドをスキルと背景から理解する。 ４．教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。 ５．「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。
到達目標	１．学生が身に付けてきた内容を教育学の概念で反省的に振り返る。 ２．教育学の理論のうち保育や教育に役立つ部分を学生が活用する。
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第２回　高校と大学の違い(1)：皆さんが気づいたズレと理由は？ 第３回　高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史 第４回　高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 第５回　学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？ 第６回　学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 第７回　学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾と勝負できるか？ 第８回　カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター 第９回　カウンセリングマインド(2)：中国の小学校から振り返る 第１０回　教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？ 第１１回　教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階 第１２回　教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 第１３回　教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 第１４回　教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 第１５回　レポートの返却と成績評価の還元
授業外における学習（準備学習の内容）	１．教科書を使いますが各自でも読んでください。 ２．参加者が自分の物語をテキストにしてください。
授業方法	１．前半は講義を中心に進めます。 ２．後半は活動を取り入れます。 ３．途中で映像も折り込みます。
評価基準と評価方法	１．平常点４０点（コメントカード、レポート発表など） ２．レポート６０点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる） ３．履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年。 ISBN:978-4-480-42460-0
参考書	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本　浩一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの発達の理解と学習支援
授業の概要	教職活動を行うためには実習などの経験に加えて知識の枠組みが有用である。心理学的知識を修得し、子どもを理解し受容する姿勢を養うことにつなげる。内容としては、子どもの認知・言語・社会性の発達についての理解、学習の動機づけや認知プロセス、学級集団、教師の力量、人格理論と心理検査および心理療法、不適応児の指導と発達アンバランス（発達障害）、特別支援教育、教育評価などである。
到達目標	効果的な学習指導や生活指導を行うために必要な心理学的知識を修得し、教育場面に応用できることを目指す。
授業計画	１．「教育活動」学ぶ楽しさとは何か。知識獲得の方法 ２．「子どもの発達」　乳幼児期から思春期までの認知発達をピアジェ理論を例に解説する。 ３．「ことばの発達と指導」　教育の基本である概念やことばの発達と指導について心理学の観点から学ぶ。 ４．「社会性の発達と「いじめ」」　対人関係の発達と「いじめ」の関連を探る ５．「発達障害」　近年注目されている発達障害について正しい知識と取り組みの姿勢を習得する。 ６．「学習」　学習活動を様々な学習理論において位置づける。 ７．「記憶」　記憶活動の仕組みを教育との関連で紹介する。 ８．「「わかる」ことのプロセス」　知識を覚えるだけでなく「わかる」ことの過程を検討する。 ９．「不適応」　不登校・ひきこもりなど、教育現場での不適応について、原因や対処法を学ぶ。 10. 「知能」　知能観を検討しつつ、頭の良さとは何かを考える。 11. 「心理アセスメント」　教育現場で有効な心理査定について、知能テストや性格テストを実習し概説する。 12. 「教師心理」　教師のストレスや教師のリーダーシップと学級経営の関係ついて。 13. 「学級集団」　集団としての学級の性質を社会心理学の観点から学ぶ。 14. 「教授・学習」　教授学習法の歴史的変遷と現代にふさわしい方法を検討する。 15. 「復習と評価」　半期授業内容の復習と確認。記述式の筆記試験を行う（持ち込み不可）。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に書きとめたノートを復習し、予告された各回の授業内容に関してインターネットや文献などで下調べを行う。
授業方法	講義、討論、視聴覚教材
評価基準と評価方法	授業中に簡単な提出物を課す（４０％）。記述式テストを学期末に行う（６０％）。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の３つの観点で評価する。
教科書	
参考書	タイトルに「教育心理学」を含む書物

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本　浩一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの発達の理解と学習支援
授業の概要	教職活動を行うためには実習などの経験に加えて知識の枠組みが有用である。心理学的知識を修得し、子どもを理解し受容する姿勢を養うことにつなげる。内容としては、子どもの認知・言語・社会性の発達についての理解、学習の動機づけや認知プロセス、学級集団、教師の力量、人格理論と心理検査および心理療法、不適応児の指導と発達アンバランス（発達障害）、特別支援教育、教育評価などである。
到達目標	効果的な学習指導や生活指導を行うために必要な心理学的知識を修得し、教育場面に応用できることを目指す。
授業計画	１．「教育活動」学ぶ楽しさとは何か。知識獲得の方法 ２．「子どもの発達」　乳幼児期から思春期までの認知発達をピアジェ理論を例に解説する。 ３．「ことばの発達と指導」　教育の基本である概念やことばの発達と指導について心理学の観点から学ぶ。 ４．「社会性の発達と「いじめ」」　対人関係の発達と「いじめ」の関連を探る ５．「発達障害」　近年注目されている発達障害について正しい知識と取り組みの姿勢を習得する。 ６．「学習」　学習活動を様々な学習理論において位置づける。 ７．「記憶」　記憶活動の仕組みを教育との関連で紹介する。 ８．「「わかる」ことのプロセス」　知識を覚えるだけでなく「わかる」ことの過程を検討する。 ９．「不適応」　不登校・ひきこもりなど、教育現場での不適応について、原因や対処法を学ぶ。 10.「知能」　知能観を検討しつつ、頭の良さとは何かを考える。 11.「心理アセスメント」　教育現場で有効な心理査定について、知能テストや性格テストを実習し概説する。 12.「教師心理」　教師のストレスや教師のリーダーシップと学級経営の関係ついて。 13.「学級集団」　集団としての学級の性質を社会心理学の観点から学ぶ。 14.「教授・学習」　教授学習法の歴史的変遷と現代にふさわしい方法を検討する。 15.「復習と評価」　半期授業内容の復習と確認。記述式の筆記試験を行う（持ち込み不可）。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に書きとめたノートを復習し、予告された各回の授業内容に関してインターネットや文献などで下調べを行う。
授業方法	講義、討論、視聴覚教材
評価基準と評価方法	授業中に簡単な提出物を課す（４０％）。記述式テストを学期末に行う（６０％）。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の３つの観点で評価する。
教科書	
参考書	タイトルに「教育心理学」を含む書物

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	根津　隆男						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	効果的な教育実習を行う
授業の概要	幼稚園・小学校教育実習で、直接、幼児・児童と触れ合うことを通して、子ども理解を深め、実習校園の教師の指導の下で、教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習校園の担当教員の指導を受ける。
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで習熟してきた教科の知識・技能を、現実の幼稚園・小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び、幼児・児童理解をさらに深める。
授業計画	事業のほとんどは、実習校園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習校園訪問　（実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習　（見学、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・研究授業　（研究保育・代表授業等） ・研究事業の反省会　（研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言） ・事後指導　（自己評価、実習記録の整理と提出）
授業外における学習（準備学習の内容）	目標に迫るための模擬授業（保育）をする。 課題解決に向けて、学校園現場に積極的に関わる。
授業方法	実習校園における実習
評価基準と評価方法	実習校園における勤務状況、実習の成績評価　５０％ 教育実習の記録等の評価　５０％　を総合して評価する
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	春　豊子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。
授業の概要	幼稚園教育実習で、直接幼児とふれあい、実習園の教師の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習園の担当教員の指導を受ける。
到達目標	幼稚園教諭としての仕事内容や役割を、幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、これまで習熟してきた教科の知識・技能と実践との関係について学び、実践力を身につける。
授業計画	授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習園訪問　（実習園へのあいさつ・実習園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習　（見学、観察、参加実習、実習記録の記入　等） ・責任実習　（部分保育、研究保育、全日保育　等） ・責任実習の反省会（責任実習後の自己評価、実習園長・指導教員等からの指導助言） ・事後指導　（自己評価、実習記録の整理と提出）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：目標にせまるための模擬保育をする。 授業後学習：課題解決に向けて、幼稚園現場とかかわる。
授業方法	実習園における実習
評価基準と評価方法	実習園における勤務状況、実習の成績評価　５０％ 教育実習の記録等の評価　５０％　を総合して評価する。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	根津　隆男						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	「効果的な教育実習を行う」
授業の概要	幼稚園・小学校教育実習で、直接子どもちと触れ合うことを通して、子ども理解を深めながら、実習校園の教師の指導の下で、教育の実際を体験する。実習期間中は、教育内容等を記録し、実習校園の担当教員の指導を受ける。
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで習熟してきた教科の知識・技能を、現実の幼稚園・小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び、子ども理解をさらに深める
授業計画	授業のほとんどは、実習公演で行われる。授業内容は、下記の通りである。 ・教育実習校園を訪問（実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習　（転落、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・研究授業　（研究保育・代表授業等） ・研究授業の反省会　（研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言） ・事後指導　（自己評価、実施を記録の整理と提出）
授業外における学習（準備学習の内容）	目標に迫るための模擬授業（研究保育）をする。 課題解決に向けて学校園現場に積極的にかかわる。
授業方法	実習校園における実習
評価基準と評価方法	実習公演における勤務状況、実習の成績評価　５０％ 教育実習の記録の評価　５０％　を総合して評価する
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	春　豊子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。
授業の概要	幼稚園教育実習で直接幼児とふれあい、実習園の教師の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習園の担当教員の指導を受ける。
到達目標	幼稚園教諭としての仕事内容や役割を、幼稚園教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで習熟してきた教科の知識・技能と実践との関係について学び、実践力を身につける。
授業計画	授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習園訪問　（実習園へのあいさつ・実習園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習　（見学、観察、参加実習、実習記録の記入　等） ・責任実習　（部分保育、研究保育、全日保育　等） ・責任実習の反省会　（責任実習後の自己評価、実習園長、担当教員等からの指導助言） ・事後指導　（自己評価、実習記録の整理と提出）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：目標にせまるための模擬保育をする。 授業後学習：課題解決に向けて、幼稚園現場とかかわる。
授業方法	実習園における実習
評価基準と評価方法	実習園における勤務状況、実習の成績評価　５０％ 教育実習の記録等の評価　５０％　を総合して評価する。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	根津　隆男						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	「学校園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す」
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまでに学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 まず教育実習の意義と目的を認識し、教育者としての使命感と自覚を強く持ち、教育実習に対する心構えをしっかりと持つ。また、学校園・子どもたちの実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。
到達目標	模擬実習を経験して、子供教職員へのあいさつの仕方や子供が主体となる授業・保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。
授業計画	第１回：オリエンテーション　：教育実習の概要 第２回：教育実習の意地　：教育実習の目的 第３回：子どもたち・学校園の実態　：最近の学校園、子どもたちの実態把握 第４回：教育実習に向けての心構え　：記録の書き方 第５回：学校園の生活　：1日の生活時点の把握 第６回：学習・保育指導①　：授業の基本・保育教材の研究と作成 第７回：学習・保育指導②　：学習（保育）指導案の作成・模擬授業（研究保育） 第８回：危機管理　：生徒指導・保護者対応 第９回：模擬実習①　：模擬授業（保育） 第１０回：模擬実習②　：模擬授業（保育）・あいさつの仕方 第１１回：教育観①　：友達の感想を知り、自分の教育観を持つ 第１２回：教育観②　：グループで教育観を交換し、全体で発表する 第１３回：教育観③　：今後の課題づくり 第１４回：教育観④　：課題解決に向けて 第１５回：まとめ　：子どもの前に立って
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティアなど、学校園現場とのかかわりを積極的にもつ
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	授業態度（興味・関心度等）　５０％ 提出物（実習計画・実習反省・指導案等）　５０％
教科書	教育実習の手引き（神戸松蔭女子学院大学作成）
参考書	小学校学習指導要領解説（平成２０年版） 幼稚園教育要領解説（平成２０年版）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	春　豊子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結びつける貴重な体験の場である。 先ず、教育実習の意義と目的を確認し、教育者としての使命感と自覚を強くもち、教育実習に対する心構えをしっかりともつ。また、幼稚園生活の様子を映像で観て、幼稚園・幼児の実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。
到達目標	模擬実習を経験して、幼児・教職員へのあいさつの仕方や幼児が主体となる保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。
授業計画	第１回　オリエンテーション　：教育実習の概要 第２回　教育実習の意義と心得　：実習生としての自覚・身だしなみ 第３回　教育実習に向けての心構え　：一日の生活時程の把握　記録の書き方 第４回　保育指導（１）　：保育の基本・基礎　保育教材の研究と作成 第５回　保育指導（２）　：保育教材の使い方 第６回　保育指導（３）　：幼稚園における子育て支援の実際 第７回　保育指導（４）　：保育指導案の作成　あいさつの仕方 第８回　模擬実習（１）　：模擬保育とディスカッション 第９回　模擬実習（２）　：模擬保育とディスカッション 第10回　模擬実習（３）　：模擬保育とディスカッション 第11回　教育観（１）　：友だちの感想を知り、自分の教育観をもつ 第12回　教育観（２）　：教育観を交換する 第13回　教育観（３）　：今後の課題づくり 第14回　教育観（４）　：課題解決に向けて 第15回　危機管理　：保護者対応
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティアなど、幼稚園現場との関わりを積極的にもつ。
授業方法	講義、演習
評価基準と評価方法	授業態度（興味・関心）５０％ 提出物　（実習計画、実習報告、指導案等）５０％　を総合して評価する。
教科書	「教育実習の手引き」（神戸松陰女子学院大学作成版）
参考書	幼稚園教育要領解説（平成２０年版）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	春　豊子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す。
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結びつける貴重な体験の場である。 先ず、教育実習の意義と目的を確認し、教育者としての使命感と自覚を強くもち、教育実習に対する心構えをしっかりともつ。また、幼稚園生活の様子を映像で観て、幼稚園・幼児の実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。
到達目標	模擬実習を経験して、幼児・教職員へのあいさつの仕方や幼児が主体となる保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。
授業計画	第１回　オリエンテーション　：教育実習の概要 第２回　教育実習の意義と心得　：実習生としての自覚・身だしなみ 第３回　教育実習に向けての心構え　：一日の生活時程の把握　記録の書き方 第４回　保育指導（１）　：保育の基本・基礎　保育教材の研究と作成 第５回　保育指導（２）　：保育教材の使い方 第６回　保育指導（３）　：幼稚園における子育て支援の実際 第７回　保育指導（４）　：保育指導案の作成　あいさつの仕方 第８回　模擬実習（１）　：模擬保育とディスカッション 第９回　模擬実習（２）　：模擬保育とディスカッション 第10回　模擬実習（３）　：模擬保育とディスカッション 第11回　教育観（１）　：友だちの感想を知り、自分の教育観をもつ 第12回　教育観（２）　：教育観を交換する 第13回　教育観（３）　：今後の課題づくり 第14回　教育観（４）　：課題解決に向けて 第15回　危機管理　：保護者対応
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティアなど、幼稚園現場との関わりを積極的にもつ。
授業方法	講義、演習
評価基準と評価方法	授業態度（興味・関心）５０％ 提出物　（実習計画、実習報告、指導案等）５０％　を総合して評価する。
教科書	「教育実習の手引き」（神戸松陰女子学院大学作成版）
参考書	幼稚園教育要領解説（平成２０年版）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育相談						
担当教員	赤津　玲子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	学校現場における様々な対人援助のための理論とコミュニケーションスキル
授業の概要	教育相談では、児童・生徒や保護者との良好な人間関係を構築することが求められる。そのためには、対人援助の理論を学ぶとともに、それに伴うコミュニケーションスキルも必要である。本講義では、教育現場において必要なカウンセリングの知識を学ぶとともに、良好な人間関係を構築するための基本的な知識を事例から学ぶ。
到達目標	児童・生徒や保護者との良好な人間関係を作るための基礎的な知識とスキルを身につける
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　様々なカウンセリング理論（１）フロイトの精神分析 第３回　様々なカウンセリング理論（２）ユングの分析心理学 第４回　様々なカウンセリング理論（３）ロジャーズの来談者中心療法 第５回　様々なカウンセリング理論（４）認知行動療法 第６回　様々なカウンセリング理論（５）ブリーフセラピー 第６回　学校現場に必要な精神医学的問題 第７回　教育相談におけるコミュニケーション（１）コミュニケーションとは何か 第８回　教育相談におけるコミュニケーション（２）基礎 第９回　教育相談におけるコミュニケーション（３）応用 第10回　教育相談現場の実際（１）保護者に対する対応ー基礎 第11回　教育相談現場の実際（２）保護者に対する対応ー応用 第12回　教育相談現場の実際（３）担任に対する対応ー基礎 第13回　教育相談現場の実際（４）担任に対する対応ー応用 第14回　学校現場で使えるリラクセーション技法 第15回　総括とテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて、講義概要のプリントを配布するので、自分なりに要点をまとめるようにしてください。
授業方法	事例を提示した具体的な講義とDVD
評価基準と評価方法	平常点　30%（出席状況、積極的な授業参加の姿勢） レポート提出　30% 学期末テスト　40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	特にありません。必要に応じて参考文献を提示します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育の方法と技術						
担当教員	大下　卓司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	教育方法・教育技術を知り、習得する
授業の概要	学校で行われるさまざまな教育やその背後にある教育学的知見、心理学的知見、法規的規程、教師としての経験、子どもの学びに着目し、それらに存在する教育方法、教育技術を知り、教員として今後これらを駆使する能力を育成する。
到達目標	（１）これまでの教育課程においてどのような学力の形成が目指されていたのかを理解できる （２）授業を教える立場からとらえ、教授と学習の関係について理解できる （３）教育方法及び教育技術について理解できる
授業計画	第１回　オリエンテーション：学校の組織と授業について 第２回　学習指導要領の変遷：日本の教育の変遷について 第３回　教育課程と授業：教育課程の法的規程について 第４回　授業の構成要素：教育目標・教材・教授行為・学習形態と、その実践 第５回　学習指導案とは何か：学習指導案の作成と教材研究について 第６回　教育の評価：教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点について学ぶ。 第７回　子どもの学びと教育方法：効果的な発問と板書の類型 第８回　教育実践事例の検討（１）：子どもをひきつける教材のあり方について考える。 第９回　教育実践事例の検討（２）：討論を取り入れた授業のあり方について考える。 第１０回　教育実践事例の検討（３）：「総合的な学習の時間」のあり方について考える。 第１１回　情報機器の活用した授業：ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。 第１２回　学習指導案づくり（１）：学習指導案のうち、単元計画を中心に実際に作成してみる。 第１３回　学習指導案づくり（２）：学習指導案のうち、本時の展開を中心に実際に作成する 第１４回　学習指導案検討会：模擬授業を行い、互いの学習指導案を検討し合うことで、改善していく。 第１５回　まとめと講義全体のふりかえり：講義で学んできたことをふりかえり、ポイントを確認する。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に教科書の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験60%、毎授業でのレポート40%で評価を行う。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行う。
教科書	『よくわかる授業論』、田中耕治編、ミネルヴァ書房、ISBN: 978-4-623-04332-3
参考書	『新しい時代の教育方法』、田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著、有斐閣、ISBN: 978-4130513203

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	大下　卓司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	学生による発表を通じて、過去の優れた教育実践に学び、現代の問題を結びつけて教育を考える
授業の概要	教育方法学の基本文献を共通テキストに設定し、担当を決めて読み進めていく。担当者は、割り当てられた部分の要約と話題提供を行い、学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。
到達目標	・やや専門的な文献の読み方・まとめ方を身につける ・発表を通じて、プレゼンテーションと質疑応答の技術、他者の意見を受け止め、応答的に議論する力を身につける ・教育実践・研究の蓄積を、自分自身の素朴な疑問や、現代日本の教育問題と結び付けて学ぶ思考を身につける
授業計画	第1回　オリエンテーション、授業の目的と進め方の説明 第2回　テキストの内容に関する説明、レジュメの作り方と発表方法の説明 第3回　資料・文献の探し方 第4回　雑誌論文を用いたレジュメ作成と発表の練習 第5回　雑誌論文を用いたレジュメ作成と発表の練習 第6回　テキスト発表とディスカッション 第7回　テキスト発表とディスカッション 第8回　テキスト発表とディスカッション 第9回　テキスト発表とディスカッション 第10回　テキスト発表の中間まとめ 第11回　テキスト発表とディスカッション 第12回　テキスト発表とディスカッション 第13回　テキスト発表とディスカッション 第14回　テキスト発表とディスカッション 第15回　総括討論とレポート課題の説明
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示したテキストの該当箇所の予習を行う。
授業方法	テキストの要約の作成・発表と全体討論
評価基準と評価方法	授業中への出席と積極的な参加を前提としながら、平常点80%とレポート課題20%で評価する。
教科書	田中耕治編『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年。
参考書	田中耕治・井ノ口淳三編『学力を育てる教育学』八千代出版、2008年。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	奥　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	美術と子どもⅠ
授業の概要	美術教育では表現と鑑賞における相互の関係を重視しています。美術の表現と鑑賞に関わるテーマを設定して、材料研究、文献や美術作品及び子どもの作品を介して、意見の相互交換を行います。子ども美術館の紹介やアウトサイダーアートなど、多様な美術の動向を共有し、文献購読、作品鑑賞、実践研究から子どもの造形行為の読み取りや子ども理解に関する課題を見出し、課題解決の道筋で、子どもの造形、美術教育関わる専門的な議論ができるようにす る。
到達目標	文献や作品、実技等を通じて美術や子どもの造形を読み取る方法を学びます。多様な美術に触れ、美術の世界を広げ、自分なりの興味の糸口を見つけることを目標とします。
授業計画	第1回　　オリエンテーション 第2回　　美術作品及び子どもの作品を通して　１ 世界の美術教育 第3回　　美術作品及び子どもの作品を通して　２ 現代美術と子どもの美術 第4回　　美術作品及び子どもの作品を通して　３ アウトサイダー・アートA 第5回　　美術作品及び子どもの作品を通して　４ アウトサイダー・アートB 第6回　　第２回～５回のまとめ 第7回　　文献購読１ 第8回　　文献購読２ 第9回　　文献購読３ 第10回　　課題の発見と文献選択 第11回　　チルドレンズミュージアム１．世界編 第12回　　チルドレンズミュージアム２．国内編 第13回　　プレゼンテーション１ 第14回　　プレゼンテーション２ 第15回　　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：課題について、各自資料を収集しておきます。 授業後学習：資料や作品などについて要点をまとめ、次回につなぐようにしてください。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	参加態度、提出物など平常点30%、発表及びレポート70%で評価します。
教科書	必要な文献を指定します。
参考書	必要に応じて紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	奥村　正子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	音楽と子どもの関わりを知る。
授業の概要	音楽教育の変遷について解説し、その中で各自が興味を持った問題を中心に討論を行う。並行して、子どものための音楽劇などを、実際に演奏する。
到達目標	幼児期・児童期の音楽教育に関する問題意識を自分なりに持つことができるようになる。
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　音楽と子ども 第３回　　文献探索の方法（図書館の利用、データベース検索、学会誌検索など）について 第４回　　音楽教育の変遷１ 第５回　　音楽教育の変遷２ 第６回　　音楽教育の変遷３ 第７回　　まとめとレポートの提出 第８回　　文献講読１ 第９回　　文献購読２ 第１０回　文献購読３ 第１１回　テーマ発見に向けて 第１２回　発表１ 第１３回　発表２ 第１４回　発表３ 第１５回　まとめと文献リストの提出
授業外における学習（準備学習の内容）	各自がテーマの発見に向けて、図書館の活用をはじめ、興味・関心を広げるために行動しよう。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点（授業への取り組み）４０％、レポート３０％　発表３０％ 出席回数が授業全体の３分の２に満たない場合、評価の対象としない。
教科書	
参考書	そのつど紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	幼児教育に携わる人材の育成
授業の概要	県や市町の教育委員会では理科を教えられる小学校の教員を求めている。今求められている教員像を念頭におきながら、学生一人ひとりにアピールできるものを一つでも多く身に付けてもらうため、教育全般にわたること、及び理科教育に関わることについての知識や技能を興味深く修得し、また具体的な調査研究をしながらその方法を身に付けることを内容とする。
到達目標	教員として必要な知識能力を高めること
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　蝶、メダカ、各植物の育成観察について 第３回　博物館教育について（1）校外実習 第４回　内外の教育者についての研究と発表（１） 第５階　内外の教育者についての研究と発表（２） 第６回　内外の教育者についての研究と発表（３） 第７回　内外の教育者についての研究と発表（４） 第８回　内外の教育者についての研究と発表（５） 第９回　博物館教育について（2）校外実習 第１０回　教育法規から見た学校教育（１） 第１１回　教育法規から見た学校教育（２） 第１２回　教育法規から見た学校教育（３） 第１３回　教育法規から見た学校教育（４） 第１４回　生物の育成観察についての発表 第１５回　中間まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館教育として水族館や青少年科学館での子どもの学習につい考える
授業方法	講義と発表、実験実習、提出物
評価基準と評価方法	発表の成果を主資料として取り組みの熱意等を考慮する
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	倉　真智子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	研究テーマの設定と講読
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから各自のテーマを見つける。
到達目標	子どもを取り巻く環境について、身近なところから問題意識をもち、その要因や考えられる要因についてディスカッションできるようにする。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　各自のテーマ設定と発表についての説明 第3回　テキスト、雑誌論文のレジュメ作成 第4回　発表およびディスカッション　１ 第5回　発表およびディスカッション　２ 第6回　発表およびディスカッション　３ 第7回　発表およびディスカッション　４ 第8回　発表およびディスカッション　５ 第9回　文献検索の方法について 第10回　各自テーマについて文献収集 第11回　文献購読　１ 第12回　文献購読　２ 第13回　文献購読　３ 第14回　文献購読　４ 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	興味、関心のある分野の書物や論文を検索しておく。
授業方法	発表、ディスカッション
評価基準と評価方法	授業への取り組み（40%）、発表（30%）、レポート（30%）
教科書	必要に応じて紹介する。また、適宜プリントを配布する。
参考書	各自の内容に応じて紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	寺見　陽子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	乳幼児の発達と育児・保育の実践と研究
授業の概要	目的：乳幼児期の子どもの発達について理解を深め、乳幼児の保育・教育の基本について学ぶ。また、実践者になるための基礎的知識・技術・実践法および研究法について学ぶ。 概要：人間性の発達について、生涯発達心理学的視点から理解を深め、乳幼児の育ちにおける生活や遊びの意義と発達環境としての家庭や養育者の役割、幼稚園・保育所における保育環境や保育者の役割について、文献や先行研究をもとに考える。さらに、乳幼児期の育児・保育における今日的課題である育児支援や地域・家庭の教育力を高める支援のあり方について、これまでの調査研究やフィールド研究から考える。
到達目標	自己課題の設定とその課題解決に向けた研究方法について学ぶと共に、乳幼児の保育・教育に関する専門的な知見を身につける。
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　グルーピングとテーマの設定・グループワーク 第３回　　乳幼児期の発達と理論について（１）・グループ研究（１） 第４回　　乳幼児期の発達と理論について（２）・九ループ研究（２） 第５回　　乳幼児期の発達と理論について（３）・グループ研究（３） 第６回　　乳幼児期の発達環境と養育・保育について（１）・グルーープ研究（４） 第７回　　乳幼児期の発達環境と養育・保育について（２）・グループ研究（５） 第８回　　乳幼児期の発達環境と養育・保育について（３）・グループ研究（６） 第９回　　養育・保育における今日的課題および保育現場の動向と課題・グループ研究（７） 第10回　　グループ研究（８） 第11回　　グループ研究（９） 第12回　　フィールド研究10） 第13回　　プレゼンテーション（１） 第14回　　プレゼンテーション（２） 第15回　　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索・文献輪読・レジメ作成・フィールドワーク・プレゼンテーション
授業方法	グループワーク及びディスカッションを中心とします。
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　小レポートとプレゼンテーション　５０点　　最終レポート　５０点
教科書	特に指定しません。
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	藤本　浩一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	教育・発達心理学の研究の進め方
授業の概要	①文献の調べ方、調査の方法、実験計画の立て方など、心理学方法論を再度確認するために簡単な実習を行う。 ②発達の基礎知識を学ぶために、「子どもの「１０歳の壁」とは何か」という新書版テキストを講読する。 ③発達アンバランス（発達障害）」「子育て」「社会性発達」その他心理学的な内容の比較的平易な資料を選び、参加者が順次発表して討論し、問題意識を深める
到達目標	教育・発達心理学の広がりを知り、個人の興味関心と結びつける
授業計画	第１回　受講生の興味に基づき、発表の準備のため、図書館での資料の調べ方などのガイダンスを行う。 第２回　受講生が順次各自の興味に基づいて短い発表を行う。 第３回　選定されたテキストの内容を概説し、発表の分担を決める。 第４回　前回選定したテキストの分担に従って個人発表を行う。 第５回　前回に引き続きテキストの分担発表を行う。 第６回　前回に引き続きテキストの分担発表を行う。 第７回　テキストに関して筆記試験を実施する。 第８回　量的研究法について習熟する。 第９回　量的研究法の具体的な事例を紹介し、理解を深める。 第１０回　質的研究の方法論について概説し、簡単な実習を行う。 第１１回　質的研究の論文を紹介し、各自討論する。 第１２回　質的研究の実際を体験する。 第１３回　実験計画法について概説し、各自のテーマに従った実験計画を考える。 第１４回　実験計画法の２回目 第１５回　各自のテーマに従った事件計画を完成させて提出する。
授業外における学習（準備学習の内容）	発表準備、文献・ネット検索など
授業方法	発表、討論、実習、講義
評価基準と評価方法	発表・レジメ作成（５０％）、筆記試験と平常点（５０％） なお、発表・レジメの評価は、努力（２）、わかりやすさ（２）、理解度（３）の割合で行う。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	松岡　靖						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	教育の理論と自分の問題をつなげて調べ考える。
授業の概要	１．教育の理論・哲学・思想に関する本から、学生が担当部分を報告する。 ２．いろんな論点について、学生が質疑応答して、教員は背景を解説する。 ３．やや専門的な本のまとめ方、プレゼンの技法、意見の理解力を伸ばす。
到達目標	１．現代日本の教育問題を学生が発見して自分なりに答えられる。 ２．学生が経験した問題を深めるために情報と論理を活用できる。
授業計画	１．皆さんの動機と目標 ２．発表・質疑・レポートの説明 ３．教育の意義はどこに？ ４．幼児教育の特徴とは？ ５．教育思想の歴史とは？ ６．現代日本の教育問題 ７．保・幼・小の関係は？ ８．大学教育から生涯学習へ ９．図書館の論文ガイダンス 10. 学生による中間報告(1) 11. 学生による中間報告(2) 12. 学生による中間報告(3) 13. 学生の発表と質疑(1) 14. 学生の発表と質疑(2) 15. 成績説明と授業批評
授業外における学習（準備学習の内容）	１．各自の発表に責任を持って取り組むこと。 ２．自分の物語こそ教科書に仕立ててほしい。
授業方法	１．前半は教科書を使った報告と質疑を中心とする。 ２．後半は学生による個人発表と議論を中心とする。
評価基準と評価方法	平常点30点、発表20点、レポート50点。
教科書	倉戸直実監修『教育原理』聖公会出版、2009年。 ISBN:978-4-88274-196-1
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	大下　卓司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	関心を持った教育実践や教育問題に沿って各自が内容を掘り下げる
授業の概要	学生が、各自の興味・関心に応じて文献（教育方法学の理論書、実践記録など）を選び、毎回の授業で交代で発表し、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。授業の進め方は、「教育発達演習Ａ」の延長ではあるが、4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などについて指導する。また、問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できることをめざす。
到達目標	・4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などを身につける ・問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できるようになる。
授業計画	第1回　オリエンテーション、授業の目的と進め方の説明 第2回　テキストの内容と使用方法に関する説明、レポートの書き方の指導 第3回　「教育発達演習A」のレポートの報告・検討会 第4回　「教育発達演習A」のレポートの報告・検討会 第5回　「教育発達演習A」のレポートの報告・検討会 第6回　テキスト発表とディスカッション 第7回　テキスト発表とディスカッション 第8回　テキスト発表とディスカッション 第9回　テキスト発表とディスカッション 第10回　テキスト発表のまとめ 第11回　自由テーマによる発表とディスカッション 第12回　自由テーマによる発表とディスカッション 第13回　自由テーマによる発表とディスカッション 第14回　自由テーマによる発表とディスカッション 第15回　総括討論
授業外における学習（準備学習の内容）	・前半は授業中に指示したテキスト該当箇所を予習する ・後半は、自分のテーマについて事前に調べる。発表者以外の学生も、発表者のテーマに沿った基本資料を、発表者と相談したうえで指示する。
授業方法	レジュメの作成・発表と全体討論
評価基準と評価方法	授業中への出席と積極的な参加を前提としながら、平常点80%とレポート課題20%で評価する。
教科書	田中耕治編『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準、2009年
参考書	田中耕治・井ノ口淳三編『学力を育てる教育学』八千代出版、2008年

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	奥　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	美術と子どもⅡ
授業の概要	子どもの造形、美術教育の分野で、教育発達演習Aにおいて見出した課題をさらに専門的に研究する方法を修得します。各自がテーマを持って発表し、学生間で討議する経験を積む。この過程で卒業研究の課題の発見、課題へのアプローチの仕方、文献研究や実践的、実証的研究の方法及び論文作成法を身につけることができるようにします。
到達目標	研究の方法を理解し、前期に学び、検討した子どもの造形や多様な美術等から、課題を見つけ、卒業研究のテーマを設定することを目標とします。
授業計画	第1回　夏季研修報告 第2回　論文の読み方と発表の仕方 第3回　論文購読 第4回　論文購読 第5回　論文購読 第6回　資料収集・教材研究：文献検索、子どもの作品収集等 第7回　資料収集・教材研究：現地研修（授業時間外に別途日時を設定） 第8回　資料収集・教材研究：第6回～第9回のいずれかで現地研修を実施予定 第9回　資料収集・教材研究： 第10回　資料整理の方法 第11回　資料整理の方法 第12回　テーマ設定とレポート作成 第13回　発表１ 第14回　発表２ 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表などに備えて、充分に資料などを検討しておいてください。 授業後学習：検討した課題について要点をまとめ、疑問があれば次回に質問できるようにしてください。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	参加態度、提出物など平常点30%、発表及びレポート70%で評価します。
教科書	使用しません。
参考書	必要に応じて紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	奥村　正子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもと音楽の関わりについて、自分の問題意識を明らかにする。
授業の概要	幼児期・児童期の音楽教育に関する研究論文を講読する。各自の問題意識に関連した文献を収集し、その内容を全員で議論し、教員が解説する。授業の進め方は「教育発達演習A」の延長であるが、最終回には、研究計画と文献リストを提出する。
到達目標	音楽教育に関する問題意識を持ち、卒業研究のテーマ設定を行う。
授業計画	第１回　　テーマ設定に向けて 第２回　　文献探索の方法について 第３回　　特色ある音楽教育１ 第４回　　特色ある音楽教育２ 第５回　　特色ある音楽教育３ 第６回　　研究手法について 第７回　　文献講読１ 第８回　　文献講読２ 第９回　　文献購読３ 第１０回　文献購読４ 第１１回　レポートの提出とまとめ 第１２回　発表１ 第１３回　発表２ 第１４回　発表３ 第１５回　研究計画と文献リストの提出
授業外における学習（準備学習の内容）	図書館の活用、文献収集をはじめ、テーマ設定のために積極的に行動しよう。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点（授業への取り組み）４０％、レポート３０％　発表３０％ 出席回数が授業全体の３分の２に満たない場合、評価の対象としない。
教科書	
参考書	そのつど紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	幼児教育に携わる人材の育成
授業の概要	県や市町の教育委員会では理科を教えられる小学校の教員を求めている。今求められている教員像を念頭におきながら、学生一人ひとりにアピールできるものを一つでも多く身に付けてもらうため、教育全般にわたること、及び理科教育に関わることについての知識や技能を興味深く修得し、また具体的な調査研究をしながらその方法を身に付けることを内容とする。
到達目標	教員として必要な知識能力を高めること
授業計画	第１回　調査と統計処理の方法と実践（１） 第２回　調査と統計処理の方法と実践（２） 第３回　調査と統計処理の方法と実践（３） 第４回　調査と統計処理の方法と実践（４） 第５階　調査と統計処理の方法と実践（５） 第６回　博物館学習について(1)校外実習 第７回　論文の構成と書き方(１) 第８回　論文の構成と書き方(２) 第９回　論文の構成と書き方(３) 第１０回　理科実験の方法と指導法（１） 第１１回　理科実験の方法と指導法（２） 第１２回　理科実験の方法と指導法（３） 第１３回　理科実験の方法と指導法（４） 第１４回　博物館学習について（2）校外実習 第１５回　発表とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館教育として水族館や青少年科学館等での子どもの学習につい考える
授業方法	講義と発表、実験実習、提出物
評価基準と評価方法	発表の成果を主資料として取り組みの熱意等を考慮する
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	倉　真智子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	研究課題の精選と課題検討
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから各自のテーマを見つける。
到達目標	子どもを取り巻く環境について理解し、それらの要因について討論し、関連した文献等の購読を行う。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　各自のテーマ設定と発表についての説明 第3回　テキスト、雑誌論文のレジュメ作成 第4回　発表およびディスカッション　１ 第5回　発表およびディスカッション　２ 第6回　発表およびディスカッション　３ 第7回　発表およびディスカッション　４ 第8回　発表およびディスカッション　５ 第9回　文献検索の方法について 第10回　各自テーマについて文献収集 第11回　文献購読　１ 第12回　文献購読　２ 第13回　文献購読　３ 第14回　文献購読　４ 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞やコラム等、身近な情報の収集をしておく。
授業方法	発表、ディスカッション
評価基準と評価方法	授業への取り組み（40%）、購読発表（30%）、発表レポート（30%）
教科書	必要に応じて紹介する。また、適宜プリントを配布する。
参考書	各自の内容に応じて紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	寺見　陽子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	乳幼児の発達と保育の実践・研究
授業の概要	目的：自己課題を明確化させ、実践方法や研究方法について学ぶ。 概要：ここでは「教育発達演習Ａ」での研究をもとに、自己研究課題を焦点化させ、卒業研究に向けて文献や研究論文を購読するとともに、乳幼児の発達研究や保育実践研究の方法論について学ぶ。グループでプロポーザルを作成し、その「流れに沿って、研究・実験・調査・観察等を実施し、結果をまとめ考察する。さらに今後の課題を明らかにする。
到達目標	自己課題の明確化と研究方法を学ぶ
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　自己課題の設定と研究法について 第3回　文献輪読・グループディスカッション（１） 第4回　文献輪読・グループディスカッション（２） 第5回　文献輪読・グループディスカッション（３） 第6回　文献輪読・グループディスカッション（４） 第7回　文献輪読・グループディスカッション（５） 第8回　中間報告 第9回　文献購読・プロポーザルの作成（１） 第10回　グループ・サーベイ（１） 第11回　グループ・サーベイ（２） 第12回　グループ・サーベイ（３） 第13回　プレゼンテーション（１） 第14回　プレゼンテーション（２） 第15回　報告書の作成と総括
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索・文献輪読・グループ研究とフィールドサーベイ
授業方法	グループワークを中心とします。
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　小レポート（30）・プレゼンテーション（20）・報告書（50）
教科書	必要に応じて示します。
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	藤本　浩一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	生涯発達心理学
授業の概要	各自文献を調べて順番を決めて発表する授業を継続する。主としてインターネットの論文検索でテキスト全文が手に入る論文を選び、予め読んで要約を作成し、当日配布して発表する。専門誌の投稿論文には詳細な統計分析などがあるので、パソコン教室で平易な統計ソフトを使う練習なども取り入れる。卒業研究に向けて各自のテーマを意識し、予備調査を行い、関連文献を収集する。
到達目標	個人の興味関心を心理学研究の流れに乗せる
授業計画	第１回目　図書館蔵書検索と学術誌検索の実習 第２回目　心理学論文購読「発達心理学研究」 第３回目　心理学論文購読「教育心理学」 第４回目　各自論文発表 第５回目　論文発表のつづき 第６回目　論文発表その３ 第７回目　データ収集計画 第８回目　データ収集計画発表 第９回目　データ収集の実習 第１０回目　PCにてデータ解析の実習（エクセル） 第１１回目　PCにてデータ解析の実習（HPにてカイ二乗） 第１２回目　PCにてデータ解析の実習（グラフ化） 第１３回目　PCにて発表準備（パワーポイント） 第１４回目　パワーポイントでの個人発表（１） 第１５回目　引き続きパワーポイントにて個人発表（２）
授業外における学習（準備学習の内容）	発表要旨作成、論文検索と講読。
授業方法	発表、討論、実習、講義
評価基準と評価方法	発表・レジメ作成（７０％）、授業中の取り組みの熱意（３０％） なお、発表・レジメの評価は、努力（２）、わかりやすさ（２）、理解度（３）の割合で行う。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	松岡　靖						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	働く希望をもって進路を模索しよう。
授業の概要	１．教育に必要な「希望」についての本から、学生が担当部分を報告する。 ２．いろんな論点について、学生が質疑応答して、教員が背景を解説する。 ３．「卒業研究」に向けて、資料の探し方、問いの立て方などを練習する。
到達目標	１．保育・教育の基礎知識を増やし、進路選択をスムーズにする。 ２．「問い→追求→答え」というレポートの組み立てに習熟する。
授業計画	１．前期の振り返りと後期の見通し ２．教科書(1)：希望とは何なのか？ ３．教科書(2)：希望は失われたか？ ４．教科書(3)：なぜ失われたのか？ ５．教科書(4)：希望をめぐる物語とは？ ６．教科書(5)：努力は無駄なのか？ ７．教科書(6)：希望を取り戻すために ８．教科書(7)：キャリア教育の役割 ９．図書館の論文ガイダンス 10．学生による中間報告(1) 11．学生による中間報告(2) 12．学生による中間報告(3) 13．学生による発表と質疑(1) 14．学生による発表と質疑(2) 15．成績説明と授業批評
授業外における学習（準備学習の内容）	１．各自の発表に責任を持って取り組むこと。 ２．自分の物語をテキストに仕立ててほしい。
授業方法	１．前半は教科書を使った報告と質疑を中心とする。 ２．後半は学生による個人発表と議論を中心とする。
評価基準と評価方法	平常点30点、発表20点、レポート50点。
教科書	玄田有史『希望のつくり方』岩波新書、2010年。 ISBN:978-4-00-431270-3
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職基本演習／教職実践演習						
担当教員	谷口　和良						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	小学校教員・幼稚園教員を目指す実践的な演習
授業の概要	本授業は、学生がこれまでの教職課程に関する履修や教職課程外での様々な活動を通じて、教員としての資質や能力が有機的に統合させ、形成してきているかを自己点検・確認することである。そして、教員になるために自分に不足している知識や技能などを補い、教員として必要な実践的な指導力の向上を図ることである。
到達目標	学習指導について学習指導案研究、模擬授業、授業参観などにより実践的な授業力を高める。また、学級経営や生徒指導について、事例研究やグループによる課題演習などを通して具体的で指導的な実践力をの育成する。
授業計画	第　１回　　オリエンテーション：本演習のねらいや授業概要 第　２回　　教職課程の履修を振り返り、教員としての自己点検・確認して自己の課題の把握 第　３回　　授業における基本的な展開や教師の役割、評価などについて検討 第　４回　　グループに分かれて学習指導案の作成 第　５回　　模擬授業の実施とその授業評価・授業修正 第　６回　　模擬授業の実施とその授業評価・授業修正 第　７回　　授業参観またはビデオ試写にもとづく授業評価及び授業検討（リフレクション） 第　８回　　小学校学級担任の役割と学級経営の在り方 第　９回　　小学校の担任としての学級づくりの具体化（経営方針や学級目標、係活動など） 第１０回　　問題行動の事例とその対策方法の検討（不登校的な児童について） 第１１回　　問題行動の事例とその対策方法の検討（暴力的な子や学力遅進的な子など） 第１２回　　児童理解についての今日的課題及びその対策 第１３回　　問題行動児童の保護者との連携の在り方についての事例とその対策 第１４回　　ロールプレイ等による担任と保護者との対応の在り方 第１５回　　まとめ：自分に対する教員としての資質と能力についての自己評価と課題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って，授業内容を踏まえこれまでの他の講義や実習などから該当する内容を復習しておいてください。 授業後学習：授業で学んだことを復習整理し，要点をまとめておくようにしてください。そして，次に授業や実習及び就職した際に生かせるようにしておくことが大切です。授業中に理解できなかったことは，次の授業に質問したり課題にしたりして，実践に生かせるようにしてください。
授業方法	参加型の授業を中心にし、全体やグループでディスカッションをしたり、グループで指導案や対応策などを作成し合ったり発表し合ったりします。
評価基準と評価方法	・平常点５０％（出席状況、授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業後の意見・感想記録） ・学期末レポート５０％（教員として必要な資質や能力関するようなもの）
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職指導						
担当教員	根津　隆男						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「教職実務に必要な知識を学び、教師の資質を構築する」
授業の概要	まず、法規に位置付けられた冬教育の理念をとらえ、学校教育を理解していくうえでの指針とする。 次に、現在の学校教育での子どもたちの実態・教師の指導の実情を把握し、教師としての使命感を持つ。 さらに、教師としての職務を遂行するために必要な知識・技術を身につけ、子どもたちへの関わり方を理解する。
到達目標	参加型の授業を随所に取り入れ、学校現場を想定した模擬体験を繰り返し、実践力による資質を身に付ける。
授業計画	第１回：オリエンテーション　：授業内容の説明と教職を目指す心構えについて 第２回：教育法規　：法律に示されている学校教育 第３回：教師のな実態　：教師の多忙な実態把握 第４回：子どもの実態　：社会的スキルの不足・人間関係能力・自尊感情の低下 第５回：教師の使命　：教師の子どもへの思いと若手教師の教育観 第６回：学級経営　：学級集団を活用して子どもを育てる 第７回：指導計画　：学校・学年・学級行事、年間指導計画づくり 第８回：教科指導　：問題解決的な授業の構築 第９回：教科外指導　：子どもを成長させる特別活動・生徒指導 第１０回：生徒指導　：よりよい集団作りを通して個を育てる（グループワーク） 第１１回：模擬体験①　：社会的スキルのトレーニング 第１２回：模擬体験②　：文章の書き方 第１３回：教材研究　：教材研究のキーワード 第１４回：模擬授業①　：子どもが主役になれる学級指導案作り 第１５回：模擬授業②　：模擬授業体験交流
授業外における学習（準備学習の内容）	学校園現場に出かけ、学校園の実情を、身を以て体感しておく
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度・小テスト等）　４０％ 演習点（教師としての基礎基本を身につけているか）３０％ レポート点（経営計画）　３０％
教科書	
参考書	教育六法 学習指導要領解説（一般）　文部科学省 小学校教科書「社会」　文部科学省 ソーシャルスキル教育で学級をつくる　相川充、小林正幸編　図書文化賞

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	寺見　陽子・山口　照代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	教職課程を完成教育とするために、教職科目と教科科目の担当教員が連携して実施する。講義や演習、ロールプレイを交えた実践事例研究、フィールドワーク、プレゼンテーションや討論などの授業形態を組み合わせ、実践場面での対応を想定した活動を行う。
授業の概要	保育実習・教育実習での実践経験を学生がエピソード記録にまとめ、その事例を素材に活動を展開する。事例をもとにしたロールプレイのテーマは、(1) 使命感や責任感・教育的愛情等に関する事項、(2) 社会性や対人関係能力に関する事項、(3) 子ども理解や学級経営等に関する事項、(4) 教科・保育内容等の指導力に関する事項とする。その検討を踏まえて履修カルテ（ポートフォリオ）を再構成し発表を行う。
到達目標	大学で学んだ教育・保育に関する理論や指導法について総括するとともに、フィールドワークや実習といった実戦経験を省察し、教員や保育士となる上で最低限度必要とされる資質や能力と照らし合わせて、何が自己にとって課題であるのかを考察する。そして、資質や見識、知識や理論、実践的指導力を高め、教員・保育士生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。
授業計画	第１回　オリエンテーション－履修カルテにより「教員の使命・責任・実践」などを討論 第２回　実践のPDCAサイクル－実践の省察と教師・保育士の成長、エピソード記録の書き方 第３回　今日の社会における子どもの教育課題－現職教員・保育士による講演と対話 第４回　実践事例研究(1)－活動の計画と実施（評価と記録・環境・言葉かけ・指導技術） 第５回　実践事例研究(2)－授業の計画と実施（評価と記録・環境・言葉かけ・指導技術） 第６回　実践事例研究(3)－集団づくりと子どものケア 第７回　実践事例研究(4)－学級経営と子どものケア 第８回　実践事例研究(5)－教職員・地域住民・保護者との協議 第９回　実践事例研究(6)－特別なニーズをもつ子どもとのかかわり 第10回　フィールドワーク(1)－幼稚園・保育所の実地見学とヒアリング 第11回　フィールドワーク(2)－小学校の実地見学とヒアリング 第12回　模擬授業(1)－模擬保育と検討会 第13回　模擬授業(2)－模擬授業と検討会 第14回　履修カルテ（ポートフォリオ）発表会(1)－保育者として 第15回　履修カルテ（ポートフォリオ）発表会(2)－教師として
授業外における学習（準備学習の内容）	教職課程の履修カルテを活用して、後半の模擬授業や発表会を準備すること。
授業方法	オムニバス方式で、寺見が第２・３・１２・１４回を担当。松岡が第１・１３・１５回を担当。 谷口が第５・７・９・１１回を担当。寺見・山口が第４・６・８・１０回を担当。
評価基準と評価方法	担当教員が学生の教員としての資質を見極め、第１２～１５回の学生による発表を重視する。
教科書	なし。
参考書	適宜に担当教員が作成・配付する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡　靖・谷口　和良						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	教職課程を完成教育とするために、教職科目と教科科目の担当教員が連携して実施する。講義や演習、ロールプレイを交えた実践事例研究、フィールドワーク、プレゼンテーションや討論などの授業形態を組み合わせ、実践場面での対応を想定した活動を行う。
授業の概要	保育実習・教育実習での実践経験を学生がエピソード記録にまとめ、その事例を素材に活動を展開する。事例をもとにしたロールプレイのテーマは、(1) 使命感や責任感・教育的愛情等に関する事項、(2) 社会性や対人関係能力に関する事項、(3) 子ども理解や学級経営等に関する事項、(4) 教科・保育内容等の指導力に関する事項とする。その検討を踏まえて履修カルテ（ポートフォリオ）を再構成し発表を行う。
到達目標	大学で学んだ教育・保育に関する理論や指導法について総括するとともに、フィールドワークや実習といった実戦経験を省察し、教員や保育士となる上で最低限度必要とされる資質や能力と照らし合わせて、何が自己にとって課題であるのかを考察する。そして、資質や見識、知識や理論、実践的指導力を高め、教員・保育士生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。
授業計画	第１回　オリエンテーション－履修カルテにより「教員の使命・責任・実践」などを討論 第２回　実践のPDCAサイクル－実践の省察と教師・保育士の成長、エピソード記録の書き方 第３回　今日の社会における子どもの教育課題－現職教員・保育士による講演と対話 第４回　実践事例研究(1)－授業の計画と実施（評価と記録・環境・言葉かけ・指導技術） 第５回　実践事例研究(2)－活動の計画と実施（評価と記録・環境・言葉かけ・指導技術） 第６回　実践事例研究(3)－学級経営と子どものケア 第７回　実践事例研究(4)－集団づくりと子どものケア 第８回　実践事例研究(5)－特別なニーズをもつ子どもとのかかわり 第９回　実践事例研究(6)－教職員・地域住民・保護者との協議 第10回　フィールドワーク(1)－小学校の実地見学とヒアリング 第11回　フィールドワーク(2)－幼稚園・保育所の実地見学とヒアリング 第12回　模擬授業(1)－模擬授業と検討会 第13回　模擬授業(2)－模擬保育と検討会 第14回　履修カルテ（ポートフォリオ）発表会(2)－教師として 第15回　履修カルテ（ポートフォリオ）発表会(2)－保育者として
授業外における学習（準備学習の内容）	教職課程の履修カルテを活用して、後半の模擬授業や発表会を準備すること。
授業方法	オムニバス方式で、寺見が第２・３・１３・１５回を担当。松岡が第１・１２・１４回を担当。 谷口が第４・６・８・１０回を担当。寺見・山口が第５・７・９・１１回を担当。
評価基準と評価方法	担当教員が学生の教員としての資質を見極め、第１２～１５回の学生による発表を重視する。
教科書	なし。
参考書	適宜に担当教員が作成・配付する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職総合演習						
担当教員	松岡　靖						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	現代日本で多文化教育を構想する。
授業の概要	１．現代日本が多文化社会である事実を出発点に、諸外国の歴史や現状を解説する。 ２．国内の文化的差異として、地域・民族・国籍・障がいについて発表し議論する。
到達目標	１．社会統合の理念として多文化主義と多文化教育を理解すること。 ２．メディアにあふれる情報を多文化教育の視点から分析すること。
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第２回　「多文化」ってどういうこと？：身近な違いに敏感に 第３回　多文化教育の背景：世界各地にみる歴史と現状 第４回　国籍による多様性(1)：在日ゲストを迎えて語り合う 第５回　国籍による多様性(2)：同化のゴールとしての「帰化」 第６回　国籍による多様性(3)：新井英一「清河への道」を聴く 第７回　地域や民族による多様性(1)：音楽でみる沖縄の戦後 第８回　地域や民族による多様性(2)：ウチナンチュと国語・社会 第９回　地域や民族による多様性(3)：先住民族アイヌの歴史 第10回　地域や民族による多様性(4)：アイヌ民族の同化と異化 第11回　国籍による多様性(4)：外国人学校の子どもたちは？ 第12回　国籍による多様性(5)：日系人労働者の子どもたちは？ 第13回　障害にかかわる多様性(1)：スローイズビューティフル？ 第14回　障害にかかわる多様性(2)：手話による「ろう文化宣言」 第15回　レポートの発表：学生による発表と教員によるコメント
授業外における学習（準備学習の内容）	１．自分たちの発表準備に責任を持ってください。 ２．参加者が自分の物語をテキストにしてほしい。
授業方法	１．前半は教員による講義を中心に進めます。 ２．後半は学生の発表や質疑を中心に行います。
評価基準と評価方法	１．平常点５０点（コメントカード、授業貢献、グループ発表など） ２．レポート５０点（多文化教育の知識を踏まえた考察をテーマとする）
教科書	とくに指定せずに授業で資料を紹介･配付する。
参考書	とくに指定せずに授業で資料を紹介･配付する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職論						
担当教員	尾崎　多						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	教職の意義と教員の役割
授業の概要	教育課程の出発点として、教職の意義と役割を理解する。また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ、教員として働く意欲を引き出すことをめざす。そのために、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。第1に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得する。第2に、教員の職務内容を知り、これからの時代に求められる教師像についての理解する。第3に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。
到達目標	・教職の意義と役割について理解する。 ・教員の職務内容を知る。 ・教職の特徴とその現状に関する基本的な知識を習得する。 ・これからの時代に求められる教師像について理解する。 ・教職の専門性に関する認識を深める。
授業計画	第1回　オリエンテーション、及び、教職に関する基礎的知識 第2回　保育所・幼稚園 第3回　小学校・中学校 第4回　教員の職務内容と義務 第5回　教員の資格、教員に求められる資質・能力・技能 第6回　教師としての生き方をさぐる 第7回　学校教育の歴史 第8回　子どもにつけたい力 第9回　学習指導 - カリキュラム開発と授業づくり 第10回　学級づくり 第11回　学校づくり 第12回　地域・社会との連携 第13回　教職をめぐる改革動向と教師の専門性 第14回　教員養成段階における学び 第15回　教員採用をめぐる今日的動向
授業外における学習（準備学習の内容）	指導計画を参考にして、参考書などの該当する箇所を読む。授業後には、学んだことを整理し理解を深める。
授業方法	対話型の模擬授業・演習を中心に行う。
評価基準と評価方法	テスト5割　レポートなどの提出物3割　平常点2割で評価する。 履修カルテの評価は、「意欲」、「知識」、「適性」の3観点で行う。
教科書	プリントを配布する。
参考書	高谷哲也編著『教師の仕事と求められる力量』（現場と結ぶ教職シリーズ第17巻）あいり出版 他については、講義時に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	倉・藤本・松岡・大下						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。
授業の概要	１．大学四年間の学習の進め方について、四人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 ２．履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 ３．各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。
到達目標	１．学生一人一人が大学四年間の学習計画をデザインできること。 ２．レポートを発表することで専門的な学習への動機づけを強めること。 ３．自ら考えて文章や口頭で表現できる力を養う。 ４．子どもの教育についての自分の意見をつくる。
授業計画	全体指導 第１回　(1)履修指導：四年間の計画を立てる 第２回　(2)図書館オリエンテーション 第３回　(3)理科実験室と学生課のガイダンス 大下担当 第４回　(1)授業ビデオを視聴し授業記録をとる 第５回　(2)前時の実践の特徴や背景について報告し議論する 第６回　(3)授業ビデオの実践をめぐっての論争について報告し議論する 倉担当 第７回　(1)ワークショップ：子どもの環境を考える 第８回　(2)子どもの環境を多角的に考える 第９回　(3)実践：ワークショップのまとめをプレゼンテーション 藤本担当 第10回　(1)体験の意味を考える１「輪郭を描く」 第11回　(2)体験の意味を考える２「ブラインド・ウォーク」 第12回　(3)自分を知る「エゴグラム」 松岡担当 第13回　(1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？ 第14回　(2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？ 第15回　(3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	倉・藤本・松岡・大下						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。
授業の概要	１．大学四年間の学習の進め方について、四人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 ２．履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 ３．各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。
到達目標	１．学生一人一人が大学四年間の学習計画をデザインできること。 ２．レポートを発表することで専門的な学習への動機づけを強めること。 ３．自ら考えて文章や口頭で表現できる力を養う。 ４．子どもの教育についての自分の意見をつくる。
授業計画	全体指導 第１回　(1)履修指導：四年間の計画を立てる 第２回　(2)図書館オリエンテーション 第３回　(3)理科実験室と学生課のガイダンス 松岡担当 第４回　(1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？ 第５回　(2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？ 第６回　(3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション 大下担当 第７回　(1)授業ビデオを視聴し授業記録をとる 第８回　(2)前時の実践の特徴や背景について報告し議論する 第９回　(3)授業ビデオの実践をめぐっての論争について報告し議論する 倉担当 第10回　(1)ワークショップ：子どもの環境を考える 第11回　(2)子どもの環境を多角的に考える 第12回　(3)実践：ワークショップのまとめをプレゼンテーション 藤本担当 第13回　(1)体験の意味を考える１「輪郭を描く」 第14回　(2)体験の意味を考える２「ブラインド・ウォーク」 第15回　(3)自分を知る「エゴグラム」
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	倉・藤本・松岡・大下						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。
授業の概要	１．大学四年間の学習の進め方について、四人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 ２．履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 ３．各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。
到達目標	１．学生一人一人が大学四年間の学習計画をデザインできること。 ２．レポートを発表することで専門的な学習への動機づけを強めること。 ３．自ら考えて文章や口頭で表現できる力を養う。 ４．子どもの教育についての自分の意見をつくる。
授業計画	全体指導 第１回　(1)履修指導：四年間の計画を立てる 第２回　(2)図書館オリエンテーション 第３回　(3)理科実験室と学生課のガイダンス 藤本担当 第４回　(1)体験の意味を考える１「輪郭を描く」 第５回　(2)体験の意味を考える２「ブラインド・ウォーク」 第６回　(3)自分を知る「エゴグラム」 松岡担当 第７回　(1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？ 第８回　(2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？ 第９回　(3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション 大下担当 第10回　(1)授業ビデオを視聴し授業記録をとる 第11回　(2)前時の実践の特徴や背景について報告し議論する 第12回　(3)授業ビデオの実践をめぐっての論争について報告し議論する 倉担当 第13回　(1)ワークショップ：子どもの環境を考える 第14回　(2)子どもの環境を多角的に考える 第15回　(3)実践：ワークショップのまとめをプレゼンテーション
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	倉・藤本・松岡・大下						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。
授業の概要	１．大学四年間の学習の進め方について、四人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 ２．履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 ３．各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。
到達目標	１．学生一人一人が大学四年間の学習計画をデザインできること。 ２．レポートを発表することで専門的な学習への動機づけを強めること。 ３．自ら考えて文章や口頭で表現できる力を養う。 ４．子どもの教育についての自分の意見をつくる。
授業計画	全体指導 第１回　(1)履修指導：四年間の計画を立てる 第２回　(2)図書館オリエンテーション 第３回　(3)理科実験室と学生課のガイダンス 倉担当 第４回　(1)ワークショップ：子どもの環境を考える 第５回　(2)子どもの環境を多角的に考える 第６回　(3)実践：ワークショップのまとめをプレゼンテーション 藤本担当 第７回　(1)体験の意味を考える１「輪郭を描く」 第８回　(2)体験の意味を考える２「ブラインド・ウォーク」 第９回　(3)自分を知る「エゴグラム」 松岡担当 第10回　(1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？ 第11回　(2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？ 第12回　(3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション 大下担当 第13回　(1)授業ビデオを視聴し授業記録をとる 第14回　(2)前時の実践の特徴や背景について報告し議論する 第15回　(3)授業ビデオの実践をめぐっての論争について報告し議論する
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	倉・藤本・松岡・大下						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと
授業の概要	１．各担任が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 ２．テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 ３．相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 ４．発想力、企画力をつける練習を行う。
到達目標	１．学生全員が基本的なプレゼンテーション力を伸ばす。 ２．二年次以降の学習に向けて基礎学力を伸ばし意欲を高める。
授業計画	松岡担当 第１回　(1)ワークショップ：思い出の先生を語り合う 第２回　(2)教科書：人を説得する技術とは？ 第３回　(3)実践：「いい問い」のプレゼンテーション 大下担当 第４回　(1)授業ビデオを視聴し授業記録をとる 第５回　(2)前時の実践の特徴や背景について報告し議論する 第６回　(3)授業ビデオの実践をめぐっての論争について報告し議論する 倉担当　コミュニケーションって？　ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第７回　(1)相手の思いを読む 第８回　(2)ことばの使い分け 第９回　(3)ことばのTPO 藤本担当 第10回　発想する力(1)：創造性について 第11回　発想する力(2)：トップダウンとボトムアップ 第12回　発想する力(3)：画面の左右差 全体指導 第13回　(1)大学での一年間を振り返る 第14回　(2)オリエンテーション企画を作る 第15回　(3)オリエンテーション企画を発表する
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	倉・藤本・松岡・大下						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと
授業の概要	１．各担任が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 ２．テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 ３．相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 ４．発想力、企画力をつける練習を行う。
到達目標	１．学生全員が基本的なプレゼンテーション力を伸ばす。 ２．二年次以降の学習に向けて基礎学力を伸ばし意欲を高める。
授業計画	大下担当 第１回　(1)授業ビデオを視聴し授業記録をとる 第２回　(2)前時の実践の特徴や背景について報告し議論する 第３回　(3)授業ビデオの実践をめぐっての論争について報告し議論する 倉担当　コミュニケーションって？　ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第４回　(1)相手の思いを読む 第５回　(2)ことばの使い分け 第６回　(3)ことばのTPO 藤本担当 第７回　発想する力(1)：創造性について 第８回　発想する力(2)：トップダウンとボトムアップ 第９回　発想する力(3)：画面の左右差 松岡担当 第10回　(1)ワークショップ：思い出の先生を語り合う 第11回　(2)教科書：人を説得する技術とは？ 第12回　(3)実践：「いい問い」のプレゼンテーション 全体指導 第13回　(1)大学での一年間を振り返る 第14回　(2)オリエンテーション企画を作る 第15回　(3)オリエンテーション企画を発表する
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	倉・藤本・松岡・大下						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと
授業の概要	１．各担任が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 ２．テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 ３．相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 ４．発想力、企画力をつける練習を行う。
到達目標	１．学生全員が基本的なプレゼンテーション力を伸ばす。 ２．二年次以降の学習に向けて基礎学力を伸ばし意欲を高める。
授業計画	倉担当　コミュニケーションって？　ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第１回　(1)相手の思いを読む 第２回　(2)ことばの使い分け 第３回　(3)ことばのTPO 藤本担当 第４回　発想する力(1)：創造性について 第５回　発想する力(2)：トップダウンとボトムアップ 第６回　発想する力(3)：画面の左右差 松岡担当 第７回　(1)ワークショップ：思い出の先生を語り合う 第８回　(2)教科書：人を説得する技術とは？ 第９回　(3)実践：「いい問い」のプレゼンテーション 大下担当 第７回　(1)授業ビデオを視聴し授業記録をとる 第８回　(2)前時の実践の特徴や背景について報告し議論する 第９回　(3)授業ビデオの実践をめぐっての論争について報告し議論する 全体指導 第13回　(1)大学での一年間を振り返る 第14回　(2)オリエンテーション企画を作る 第15回　(3)オリエンテーション企画を発表する
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	倉・藤本・松岡・大下						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと
授業の概要	１．各担任が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 ２．テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 ３．相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 ４．発想力、企画力をつける練習を行う。
到達目標	１．学生全員が基本的なプレゼンテーション力を伸ばす。 ２．二年次以降の学習に向けて基礎学力を伸ばし意欲を高める。
授業計画	藤本担当 第１回　発想する力(1)：創造性について 第２回　発想する力(2)：トップダウンとボトムアップ 第３回　発想する力(3)：画面の左右差 松岡担当 第４回　(1)ワークショップ：思い出の先生を語り合う 第５回　(2)教科書：人を説得する技術とは？ 第６回　(3)実践：「いい問い」のプレゼンテーション 大下担当 第７回　(1)授業ビデオを視聴し授業記録をとる 第８回　(2)前時の実践の特徴や背景について報告し議論する 第９回　(3)授業ビデオの実践をめぐっての論争について報告し議論する 倉担当　コミュニケーションって？　－相手の立場に立ったコミュニケーション－ 第10回　(1)相手の思いを読む 第11回　(2)ことばの使い分け 第12回　(3)ことばのTPO 全体指導 第13回　(1)大学での一年間を振り返る 第14回　(2)オリエンテーション企画を作る 第15回　(3)オリエンテーション企画を発表する
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	キリスト教保育						
担当教員	菅澤　順子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもが今を生きていることは決して「あたりまえ」ではない。そのことに畏れを抱き謙虚にその存在を無条件に受容し向き合うことが「キリスト教保育」である。
授業の概要	保育・教育はおとなの「上から目線」で行われがちですが、子どもと出会うということは自身の子ども時代を思い出し、そして今まで生きてきたところでの「知恵」を伝えるもの。聖書には「幼な子たちをわたしのところにくるがままに～」と書かれ「神の国はこのようなものの国である」と続けられています。聖書を学ぶ、キリスト教を学ぶ、のではなく、子ども、そして広く深く人間と出会うには、そんなことを皆さんと考えられたらと願っています。
到達目標	子どもと一緒にいることの楽しさ、面白さをこれまで以上に知りましょう。絵本や教材など、そして何より、「今日の子ども」をお伝えします。子どもは多様です。たくさんの「子ども」に出会い、子どもを理解してください。
授業計画	第1回　オリエンテーション　「子どもに出会うとは」、キリスト教保育、キリスト教主義に支えられている園の運営などの様子。 第2回　子どもが育つ、育つのを応援する、共に育つ「子育て支援」、その中での幼稚園、保育園の役割。 第3回　礼拝、祈る、聖書など、またキリスト教保育指針について　キリスト教の教会、そしてその中での1年の行事 第4回　いのちを考える①誕生の物語 第5回　いのちを考える②いのちを育む自然 第6回　いのちを考える③障害とともに 第7回　いのちを考える④障害 第8回　いのちを考える⑤死 第9回　自然の豊かさ、その脅威 第10回　四季と旬の中での日々、こどもたちの「はる・なつ・あき・ふゆ」 第11回　保育・教育をするということは人と向き合うこと、人と向き合うには自分を知ることが大事。心理学を少しかじってみましょう。 第12回　人との出会いに支えられる。家庭、園そして地域との関わり、「財産」を多く持つ。 第13回　1年の行事の中での「クリスマス」、いのち・誕生を再び考える。 第14回　学びのまとめに向けて、レポート課題の提示。 第15回　レポート提出。
授業外における学習（準備学習の内容）	子ども時代のことを思い出したり、質問疑問やってみたいことなどいろいろ思いをめぐらせておいてください。授業は相互作用で成り立ちます。ぜひ意欲と関心を。
授業方法	資料整理用にクリアファイル1冊準備してください。
評価基準と評価方法	なるべく休まずに出席すること。毎回の感想などをミニレポート。最終に提示された課題（子どもについて）へのレポート提出。
教科書	必要なものはコピー、プリントして配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科研究						
担当教員	尾崎　多						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	言葉の学び手・使い手を育てる国語科の教科専門力をつける
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の３領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）、及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について解説する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書教材を取り上げながら、その着眼点等について説明する。
到達目標	１．小学校国語科で扱う文学的文章・説明的文章などの教材分析力をつける。 ２．言葉の力を養う言語活動を活性化する方法や発問の仕方についての理解を深め、小学校国語科の教科専門力をつける。
授業計画	第１回　日本語という言語の特徴、子どもを取り巻く言語環境 第２回　学習指導要領からみた国語科教育の変遷 第３回　国語科の中核目標と指導内容 第４回　文学教材研究法 第５回　文学的文章の指導１－「大きなかぶ」の分析と育てる言語力・読解力 第６回　文学的文章の指導２－「大造じいさんとガン」の分析と育てる言語力・読解力 第７回　短詩型文学作品の分析と育てる言語力・読解力 第８回　説明的文章教材分析法 第９回　説明的文章の指導１－「たんぽぽのちえ」の分析と育てる言語力・読解力 第１０回　説明的文章の指導２－「すがたをかえる大豆」の分析、育てる言語力と読解力 第１１回　音声言語教育の内容と指導 第１２回　書くことの指導の系統と主な言語活動 第１３回　学年配当漢字の分析と指導 第１４回　伝統的な言語文化－小学校で扱う神話・民話、古典 第１５回　これからの国語科教育
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で扱う教材について､読んでおく。
授業方法	講義形式、演習形式、対話形式の授業など様々な形態の授業を組み合わせて行う。
評価基準と評価方法	教科についての知識・理解（７割）、教職への意欲・適性（３割）　いずれも授業態度、提出レポート、テストなどから総合して評価する。 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。
教科書	プリントを配付する。 小学校国語科教科書（光村図書、東京書籍等）〔授業で使用するが、個人で所有する必要はない〕
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領（国語編）』東洋館出版（授業でときどき参照する） 他については、授業時に紹介する。 井上尚美　田近旬一　大熊徹『新版　小学校国語科授業研究』教育出版　2001　ISBN：987－4316319827

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科研究						
担当教員	尾崎　多						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	言葉の学び手・使い手を育てる国語科の教科専門力をつける
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の３領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）、及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について解説する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書教材を取り上げて、その着眼点等について説明する。
到達目標	１．小学校国語科で扱う文学的文章・説明的文章などの教材分析力をつける。 ２．言語力を養う言語活動を活性化する方法や発問の仕方についての理解を深め、小学校国語科の教科専門力をつける。
授業計画	第１回　日本語という言語の特徴、子どもを取り巻く言語環境 第２回　学習指導要領からみた国語科教育の変遷 第３回　国語科の中核目標と指導内容 第４回　文学教材研究法 第５回　文学的文章の指導１ - 「大きなかぶ」の分析と育てる言語力・読解力 第６回　文学的文章の指導２ - 「大造じいさんとガン」の分析と育てる言語力・読解力 第７回　短詩型文学作品の分析と育てる言語力・読解力 第８回　説明的文章研究法 第９回　説明的文章の指導１ - 「たんぽぽのちえ」の分析と育てる言語力・読解力 第１０回　説明的文章の指導２ - 「すがたをかえる大豆」の分析、育てる言語力と読解力 第１１回　音声言語の教育の内容と指導 第１２回　書くことの指導の系統と主な言語活動 第１３回　学年配当漢字の分析と指導 第１４回　伝統的な言語文化 - 小学校で扱う神話・民話、古典 第１５回　これからの国語科教育
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で扱う教材について､読んでおく。
授業方法	講義形式、演習形式、対話形式の授業など様々な形態の授業を組み合わせて行う。
評価基準と評価方法	教科についての知識・理解（７割）、教職への意欲・適性（３割）　いずれも授業態度、提出レポート、テストなどから総合して評価する。 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。
教科書	プリントを配付する。 小学校国語科教科書（光村図書、東京書籍等）〔授業で使用するが、個人で所有する必要はない〕
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領（国語編）』東洋館出版（授業でときどき参照する） 他については、授業時に紹介する。 井上尚美　田近旬一　大熊徹　『新版　小学校国語科授業研究』教育出版　2001　ISBN：978－4316319827

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科指導法						
担当教員	尾崎　多						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	言語力の育成を重視する小学校国語科教育の実践的指導力の育成
授業の概要	国語科教育の歴史、国語科教育の内容と方法、国語科の３領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）、及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ごとの授業作りについて指導する。とりわけ、教材解釈、指導計画の立案、学習指導案の作成、指導方法、指導技術、評価については、授業構想力や実践的指導力の核となるものなので、実例をあげて具体的に解説する。これらの理解は、教材を選び､指導計画を立て、発問や支援の方法などを考えることで深まり、豊かになるので、実際に教材の分析を行い、指導案を作成する。
到達目標	小学校国語科を担当するために必要な理論的知識、実践的展開力の基礎を身につける
授業計画	第１回　オリエンテーション　学習理論の変遷 第２回　国語科学習指導案の立て方 第３回　話すこと・聞くことの指導の実際 - 対話力を養う指導法 第４回　読むことの授業づくり１　物語文「スイミー」の教材研究と主発問・補充発問づくり 第５回　物語文「スイミー」の指導の実際 - 模擬授業 第６回　読むことの授業づくり２　物語文「ごんぎつね」の教材研究と主発問・補充発問づくり 第７回　物語文「ごんぎつね」の指導の実際 - 模擬授業 第８回　読むことの授業づくり３　詩の教材と主発問・補充発問づくり 第９回　詩の指導の実際 - 模擬授業 第１０回　読むことの授業づくり４　説明文「どうぶつの赤ちゃん」・「マンモス絶滅のなぞ」の教材研究と主発問・補充発問づくり 第１１回　説明文「どうぶつの赤ちゃん」の指導の実際 - 模擬授業 第１２回　説明文「マンモス絶滅のなぞ」の指導の実際 - 模擬授業 第１３回　書くことの指導の実際 第１４回　伝統的な言語文化についての指導の実際 第１５回　国語の特質に関する事項の指導の実際
授業外における学習（準備学習の内容）	１．小学校学習指導要領国語に示されている内容を把握しておくこと。 ２．模擬授業で扱う教材を読み、学習指導略案を作成しておくこと。
授業方法	講義形式、演習形式、模擬授業形式の授業など様々な形態を組み合わせて行う。
評価基準と評価方法	授業への意欲・参加態度（演習や模擬授業での発言内容等も含める）（３割）、講義内容の理解・指導法についての知識を確認する提出物及びテスト（４割）、模擬授業などでみる実践力や適性（２割）などを総合して評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	プリントを配付する 文部科学省『小学校学習指導要領解説（国語編）』東洋館出版〔授業で使用〕
参考書	授業時に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科指導法						
担当教員	尾崎　多						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	言語力の育成を重視する小学校国語科教育の実践的指導力の育成
授業の概要	国語科教育の歴史、国語科教育の内容と方法、国語科の３領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）、及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ごとの授業作りについて指導する。とりわけ、教材解釈、指導計画の立案、学習指導案の作成、指導方法、指導技術、評価については、授業構想力や実践的指導力の核となるものなので、実例をあげて具体的に解説する。これらの理解は、教材を選び､指導計画を立て、発問や支援の方法などを考えることで深まり、豊かになるので、実際に教材の分析を行い、指導案を作成する。
到達目標	小学校国語科を担当するために必要な理論的知識、実践的展開力の基礎を身につける
授業計画	第１回　オリエンテーション　学習理論の変遷 第２回　国語科学習指導案の立て方 第３回　話すこと・聞くことの指導の実際 - 対話力を養う指導法 第４回　読むことの授業づくり１　物語文「スイミー」の教材分析と主発問・補充発問づくり 第５回　物語文「スイミー」の指導の実際 - 模擬授業 第６回　読むことの授業づくり２　物語文「ごんぎつね」の教材分析と主発問・補充発問づくり 第７回　物語文「ごんぎつね」の指導の実際 - 模擬授業 第８回　読むことの授業づくり３　詩の教材分析と主発問・補充発問づくり 第９回　詩の指導の実際 - 模擬授業 第１０回　読むことの授業づくり４　説明文「どうぶつの赤ちゃん」・「マンモス絶滅のなぞ」の教材解釈と主発問・補充発問づくり 第１１回　説明文「どうぶつの赤ちゃん」の指導の実際 - 模擬授業 第１２回　説明文「マンモス絶滅のなぞ」の指導の実際 - 模擬授業 第１３回　書くことの指導の実際 第１４回　伝統的な言語文化についての指導の実際 第１５回　国語の特質に関する事項の指導の実際
授業外における学習（準備学習の内容）	１．小学校学習指導要領国語に示されている内容を把握しておくこと。 ２．模擬授業で扱う教材を読み、学習指導略案を作成しておくこと。
授業方法	講義形式、演習形式、模擬授業形式の授業など様々な形態を組み合わせて行う。
評価基準と評価方法	授業への意欲・参加態度（演習や模擬授業での発言内容等も含める）（３割）、講義内容の理解・指導法についての知識を確認する提出物及びテスト（４割）、模擬授業などでみる実践力や適性（２割）などを総合して評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	プリントを配付する 文部科学省『小学校学習指導要領解説（国語編）』東洋館出版〔授業で使用〕
参考書	授業時に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども英語I						
担当教員	吉井　康博						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	児童の英語教育研究
授業の概要	この授業では、早期英語教育の理解に必要な認知心理学の基礎知識とSLA(第二言語習得)理論を学習します。言語を学習するには次のような要因が関与します。つまり、個人の言語学習に向かう動機と態度、inputとoutput、相互交流、さらに意識と注意、そして気づきなどです。これらの要因がどのよう形で相互に関連しL2(第二言語)学習を促進するかを理論の実例から学習します。また授業の展開に必要な英語表現や基礎文法を口頭練習により学びます。
到達目標	児童に英語を教える指導原理の習得と授業を行う際に要求される英語力を身に着けます。
授業計画	English for Primary Teachers: EPT / Classroom English: CE / Sentence-Creating Exercises: SCE / Review Quiz: RQ 1. Introduction 2. EPT 1.1 First Language -- second language　CE 1-1　SCE1-1 3. RQ (CE1-1)　EPT 1.2 Starting your lessons in English　CE 1-2　SCE1-2 4. RQ (CE1-2)　EPT 1.3 Organizing your classroom　CE 1-3　SCE1-3 5. RQ (CE1-3)　EPT 1.4 Ending your lessons　CE 1-4　SCE1-4 6. RQ (CE1-4)　EPT 1.5 Young learners　CE 1-5　SCE1-5 7. RQ(CE1-5)　EPT 2.1 Giving instructions in English　CE 1-6　SCE1-6 8. RQ(CE1-6)　EPT 2.2. Listening and identifying　CE 1-7　SCE1-7 9. RQ(CE1-7)　EPT 2.3 Listening and doing - TPR　CE 1-8　SCE1-8 10. RQ(CE1-8)　EPT 2.4 Listening and performing - miming　CE 1-9　SCE1-9 11. RQ(CE1-9)　EPT 2.5 Listening and responding games　CE 1-10　SCE1-10 12. RQ(CE1-10)　EPT 3.1 Listen and color　CE 1-11　SCE1-11 13. RQ(CE1-11)　EPT 3.2 Listen and draw　CE 1-12　SCE1-12 14. RQ(CE1-12)　EPT 3.3 Listen and make　CE 1-13　SCE1-13 15. Final Quiz
授業外における学習（準備学習の内容）	(1) 毎回の授業で行うClassroom English(教室英語表現)は、Review Quiz(復習テスト)を行うので必ず口頭でも筆記でも対応できるよう準備が必要です。 (2) 教科書(English for Primary Teachers)は予習して、しっかり意味を理解しておくことが必要です。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	Review Quiz: 40%; Participation:10%; Final Quiz:50%
教科書	English for Primary Teachers　Mary Slattery&Jane Willis　Oxford Univ. Press ISBN 978-0-19-437563-3
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども英語II						
担当教員	吉井　康博						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	児童の英語教育研究
授業の概要	子ども英語Iで学習した理論的知識に基づき、実用的な授業展開方法に関する理解を深め、効果的な指導方法について何が必要なのかを考察していきます。また、授業案を練ることを課題とし、その課題を実践する模擬授業を行ってもらいます。 子ども英語Iと同様、英語の形と表現法を学ぶ過程で、児童に投げかける疑問文を作ることや、様々な表現を組み合わせて簡単な物語を創作する練習も行います。
到達目標	児童に英語を教える指導原理の習得と授業を行う際に要求される英語力を身に着けること、また授業が実際に行えるようにすること。
授業計画	English for Primary Teachers: EPT / Classroom English: CE / Sentence-Creating Exercises: SCE / Review Quiz: RQ 1. EPT 4.1 Using classroom phrases　CE 1-1　SCE1-1 2. RQ (CE1-1)　EPT 4.2 Saying rhymes and singing songs　CE 1-2　SCE1-2 3. RQ (CE1-2)　EPT 4.3 Practicing new vocabulary　CE 1-3　SCE1-3 4. RQ (CE1-3)　EPT 4.4 Playing vocabulary games　CE 1-4　SCE1-4 5. RQ (CE1-4)　EPT 4.5 Practicing pronunciation of new sounds　CE 1-5　SCE1-5 6. RQ(CE1-5)　EPT 5.1 Cognitive development　CE 1-6　SCE1-6 7. RQ(CE1-6)　EPT 5.2 Starting to speak freely　CE 1-7　SCE1-7 8. RQ(CE1-7)　EPT 5.3 Speaking games　CE 1-8　SCE1-8 9. RQ(CE1-8)　EPT 5.4 Children speaking in groups　CE 1-9　SCE1-9 10. RQ(CE1-9)　EPT 6.1 Beginning reading　CE 1-10　SCE1-10 11. RQ(CE1-10)　EPT 6.2 Speaking to reading　CE 1-11　SCE1-11 12. RQ(CE1-11)　EPT 6.3 Helping children recognize phrases　CE 1-12　SCE1-12 13. RQ(CE1-12)　EPT 6.4 Reading independently　CE 1-13　SCE1-13 14. Presentation 15. Final Quiz
授業外における学習（準備学習の内容）	(1) 毎回の授業で行うClassroom English(教室英語表現)は、Review Quiz(復習テスト)を行うので必ず口頭でも筆記でも対応できるよう準備が必要です。 (2) 教科書(English for Primary Teachers)は予習して、しっかり意味を理解しておくことが必要です。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	Review Quiz: 30%; Presentaion:20%; Final Quiz:50%
教科書	English for Primary Teachers　Mary Slattery&Jane Willis　Oxford Univ. Press　ISBN 978-0-19-437563-4
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理I（発達心理）／子ども心理II（発達心理）						
担当教員	寺見　陽子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	発達理論と乳幼児の発達の理解
授業の概要	テーマ：　ここでは、人間性の育ちの観点から、乳幼児期の子どもの発達について考える。 到達目標：　①乳幼児期の子どもの心の育ちについて理解する。 ②乳幼児を理解し、援助するための発達的視点を学ぶとともに、大人の役割を理解する。 授業の概要：人間性の育ちの観点から、乳幼児期の子どもの発達について、ワロン、エリクソン、ピアジェの理論を基に学ぶ。人の心はなぜ、どのように芽生え、心の内面を形成していくのか、その過程を理解するとともに、保育や育児の現場における乳幼児の理解のあり方、発達援助のあり方、環境のあり方などについて考える。
到達目標	発達の基本と乳幼児の発達過程を理解する。
授業計画	第１回　発達と環境 第２回　ヒトの誕生と生物的基盤の発達 第３回　初期コミュニケーションと心の芽生え－愛着形成と基本的信頼感 第４回　幼児前期の発達－自我の芽生えと自立 第５回　幼児中期の発達－内面世界と自分らしさの形成 第６回　幼児後期の発達①－自分を見つめる自分の誕生と内面形成 第７回　幼児後期の発達②－みんなの中の自分の形成 第８回　人間性発達の基盤①－身体と自我と社会 第９回　人間性発達の基盤②－象徴と言葉と思考 第10回　人間性発達の基盤③－乳幼児期の発達環境と発達課題 第11回　発達の気がかりさと障がい① 第12回　発達の気がかりさと障がい② 第13回　親の養育性の発達と親子関係① 第14回　親の養育性の発達と親子関係② 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	発達理論を実際の子どもの発達の姿に結び付けて理解できるように、まつぼっくり等で実際の子どもとかかわる経験を日常生活の場で持つようにしてください。家族や幼稚園・保育所等での子どもの姿に触れる経験を大切にしてください。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　小レポート２０点　テスト８０点
教科書	寺見陽子編　「子どもの保育と心理学」保育出版　２００３
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理I（発達心理）／子ども心理II（発達心理）						
担当教員	藤本　浩一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの心と発達
授業の概要	子どもの心と発達に関する学びをはじめるにあたり、胎児期・新生児期から児童期までの発達心理学、教育活動や子ども理解に必要な心理学研究法、特別支援教育に関連した発達障害、親子関係と子育て支援、社会性と人格の発達などの領域を心理学の観点から概観し、子どもを理解する手がかりとする。
到達目標	子どものリーダーとして求められる発達に関する適切な知識の習得
授業計画	１．発達の理解 ２．発達の諸理論 ３．ピアジェの認知発達論 ４．エリクソンの人生周期 ５．愛着について　エインズワースのストレンジ・シチュエーション ６．新生児期 ７．幼児期 ８．認知発達研究「子どもの絵」 ９．子育て支援　世界の子育て 10. 発達障害とワーキング・メモリ 11. 発達障害児者の社会参加 12. 児童福祉施設の特徴 13. 子どもの食事と健康 14. 自己の発達 15. 道徳性の発達　筆記試験（持ち込み不可）
授業外における学習（準備学習の内容）	インターネットや文献で予習復習を行う。
授業方法	講義、視聴覚教材
評価基準と評価方法	筆記試験（７０％）と提出物など（３０％）で総合的に評価します。
教科書	プリントを配布します。
参考書	渡辺弥生「子どもの『１０歳の壁』とはなにか」（光文社新書）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理III（子育て支援）						
担当教員	寺見　陽子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保護者理解と子育て支援
授業の概要	テーマ：　保護者の養育性の発達と子育て支援の基本及びその実際について学ぶ。 到達目標：　①今日の子育て環境と保護者の子育て心理を理解する。 ②保護者のアイデンティティの形成を促す支援のあり方について理解する。 ③子育て支援の実際について理解する。 授業の概要：　少子化・核家族化が進行し、人間関係の希薄化した今日、家族・地域の教育力が低下し、親の育児不安や虐待とともに子どもの育ちのアンバランスさが問題となっている。ここでは、保護者の育児ストレス及びそのストレス・コーピングとソーシャルサポートについて一考し、親子、家族、地域における発達心理臨床の実際を学ぶ。
到達目標	保護者理解と、養育性を高める子育て支援のあり方を学ぶ。
授業計画	第１回　現代社会の子育て・子育ち－子どもの養育と環境 第２回　子育て支援の必要性と施策・次世代育成 第３回　子育て支援の基本 第４回　子育て不安・ストレスの要因と養育環境 第５回　ストレス・コーピングとストレスとソーシャルサポート 第６回　親子関係と家族関係 第７回　親子関係と親の養育性の発達 第８回　子育て支援の視点と展開（１）－発達の理解 第９回　子育て支援の視点と展開（２）－対人援助・カウンセリングに学ぶ 第10回　子育て支援の視点と展開（３）－心理療法・ソーシャルワークに学ぶ 第11回　子育て支援の計画と実際（１）－アセスメントと支援の方法 第12回　子育て支援の計画と実際（２）－支援の計画と展開 第13回　子育て支援の計画と実際（３）－育ちの評価 第14回　社会的資源の活用とネットワークづくり 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	子育て支援実習
授業方法	講義およびグループワーク
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　小レポート　２０点　実習レポート　３０点　テスト　５０点
教科書	寺見陽子編　「子育ち・子育て支援学」　保育出版2011
参考書	必要に応じて示します。 .

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理Ⅳ（発達障害）						
担当教員	藤本　浩一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	発達のアンバランスの理解と支援
授業の概要	近年の教育・保育現場で注目されている発達アンバランス（発達障害）について正しい理解を持ち、適切な支援策を講じることができるような知識基盤を得ることを目的とする。 LD、ADHD、自閉症スペクトラム、知的遅滞などについて概説し、発達障害児の特性を十分知った上で、学校や日常生活場面での彼らに対する適切な教育・訓練や対応の仕方を学ぶ。障害を持つ人が社会で誇りと満足を持って生きていくにはどうすればいいかを考えるきっかけとしたい。グループに分かれて論文講読・発表を行うことがある。
到達目標	発達アンバランスについての知識を得て、将来の職場でスムーズに対処できるように準備を行う。
授業計画	１．LD　特徴、ワーキングメモリー ２．LD　事例、支援 ３．ADHD　特徴、査定 ４．ADHD　事例、支援、大人のADHD ５．ASD／PDD　特徴、原因 ６．ASD／PDD　事例、訓練 ７．ASD／PDD　支援の取り組み ８．知的遅滞　特徴、心理査定、支援の事例 ９．ダウン症　特徴 10. 認知訓練の実際　中間テスト 11. 論文講読①　「今日の学び１」 12. 論文講読②　「今日の学び２」 13. 論文講読③　「今日の学び３」 14. 論文講読④　「今日の学び４」 15. 論文講読⑤　「今日の学び５」
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索、発表要旨作成等の準備、レポート課題
授業方法	講義、視聴覚教材、討論、論文講読と発表
評価基準と評価方法	中間テストにて発達障害に関する知識を問う（３０％）。他に、発表のわかりやすさ・本人理解（３０％）、筆記試験（４０％）などにより総合的に評価を行う。
教科書	プリント教材を配ります。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理V（いじめと虐待）						
担当教員	吉川　久史						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	いじめ・虐待
授業の概要	いじめと虐待は、学校や家庭といった所属集団の対人関係の中で生じる加害行為です。いじめと虐待は、被害を受け続けている期間だけでなく被害が終わった後も、被害者のこころとからだ、対人関係を築く力に大きな影響を与えます。この授業では、いじめや虐待について、被害者・加害者・ケア提供者の観点から理解を深めます。被害者については、いじめや虐待の種類、いじめや虐待にさらされたことによる子どもの心身の変化や対人関係の変化、被害を受けた子どもへの心理的ケア、子どもの回復プロセスについて学ぶことで、被害から回復までの流れを学びます。加害者については、虐待をする養育者の心理と、養育者への対応について学びます。いじめ加害については、加害者の心理といじめ予防対策について学びます。ケア提供者については、いじめや虐待を受けている子どもを支える教師や保育士自身に現れる心理的な変化（二次的外傷性ストレス）とストレスへの対処について学びます。授業では映像資料などを活用し、援助実践事例も取り入れながら学習を進めます。
到達目標	いじめや虐待の被害・加害・ケアに関する基礎的な知識を身につけることができます。身につけた知識をもとに、教育・保育の現場で援助実践を行うための力を習得することができます。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　虐待とは 第3回　被虐待体験による子どもの変化 第4回　虐待を受けた子どもへの心理的ケアと回復プロセス 第5回　虐待する養育者の心理 第6回　虐待する養育者への対応 第7回　いじめとは 第8回　いじめ被害による子どもの変化 第9回　いじめ被害を受けた子どもへの心理的ケアと回復プロセス 第10回　いじめ加害者の心理 第11回　いじめ予防対策 第12回　二次的外傷性ストレスとは 第13回　二次的外傷性ストレスによるケア提供者の心理的変化 第14回　ストレス対処法 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	ありません
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験60%、平常点40%
教科書	適宜プリントを配布します
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達I（食育）						
担当教員	橋本　賢						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	子ども達の健やかな成長発達には適切な食生活の営みが重要である。そのため教育者は子どもとの授業を介した食に関する知識の提供「食育」が必要となる。本授業は、食育を行うための専門知識の習得と、食育の現状、および栄養専門職種（栄養士、栄養教諭）との連携について講義する。
授業の概要	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本と内容および食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
到達目標	1. 基本的な栄養学、食品学の知識を習得する。 2. 成長期の栄養生理を理解し、有効な食育内容を判断する力を習得する。 3. 食育の重要性を理解する。
授業計画	第1回　子どもの健康な生活と食生活の意義 第2回　子どもの発育発達と食生活 第3回　栄養に関する基本的知識①（栄養と栄養素） 第4回　栄養に関する基本的知識②（糖質・脂質・たんぱく質） 第5回　栄養に関する基本的知識③（ビタミン・無機質・その他） 第6回　献立作成の基礎 第7回　乳児期の食生活 第8回　幼児期の食生活 第9回　学童期・思春期の食生活 第10回　子どもの疾病と食生活 第11回　障害をもつ子どもの食生活 第12回　児童福祉施設における食生活 第13回　食育の基本と内容 第14回　教育機関における食育の現状 第15回　まとめ，評価，テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	成長期に適応した食品の市場調査，情報収集を日頃から行うように心がけること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	受講態度40%，試験60%程度として総合的に評価する。 受講欠席者は減点の対象となる。
教科書	子どもの食と栄養　赤塚順一ら編著　医歯薬出版株式会社　ISBN978-4-263-23551-5
参考書	子育て・子育ちを支援する小児栄養、堤ちはる・土井正子編著、萌文書林、ISBN978-4-89347-138-3

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達I（食育）						
担当教員	橋本　賢						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	子ども達の健やかな成長発達には適切な食生活の営みが重要である。そのため教育者は子どもとの授業を介した食に関する知識の提供「食育」が必要となる。本授業は、食育を行うための専門知識の習得と、食育の現状、および栄養専門職種（栄養士、栄養教諭）との連携について講義する。
授業の概要	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本と内容および食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
到達目標	1. 基本的な栄養学、食品学の知識を習得する。 2. 成長期の栄養生理を理解し、有効な食育内容を判断する力を習得する。 3. 食育の重要性を理解する。
授業計画	第1回　子どもの健康な生活と食生活の意義 第2回　子どもの発育発達と食生活 第3回　栄養に関する基本的知識①（栄養と栄養素） 第4回　栄養に関する基本的知識②（糖質・脂質・たんぱく質） 第5回　栄養に関する基本的知識③（ビタミン・無機質・その他） 第6回　献立作成の基礎 第7回　乳児期の食生活 第8回　幼児期の食生活 第9回　学童期・思春期の食生活 第10回　子どもの疾病と食生活 第11回　障害をもつ子どもの食生活 第12回　児童福祉施設における食生活 第13回　食育の基本と内容 第14回　教育機関における食育の現状 第15回　まとめ，評価，テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	成長期に適応した食品の市場調査，情報収集を日頃から行うように心がけること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	受講態度40%，試験60%程度として総合的に評価する。 受講欠席者は減点の対象となる。
教科書	子どもの食と栄養　赤塚順一ら編著　医歯薬出版株式会社　ISBN978-4-263-23551-5
参考書	子育て・子育ちを支援する小児栄養、堤ちはる・土井正子編著、萌文書林、ISBN978-4-89347-138-3

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達II（児童福祉）						
担当教員	長谷　範子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	児童福祉の意義と役割
授業の概要	子どもは、人格形成の途上にあり、質量ともに大きな変化を遂げていく、希望に満ちた存在である。一方、子どもには社会的な弱者であるという側面もあり、家族や周囲の大人、また地域、社会の影響を大きく受ける。 本授業では、児童福祉の歴史的な展開と、現状への理解を深めるとともに、今日の子どもを取り巻く状況の大きな変化を踏まえ、すべての子どもが大切にされ、安心し、大人になることに夢を抱き生活することができるためにはどのような支援が必要であるかを児童福祉施設等現場の実践も視野に入れながら学び、学生自らが考察する力を養う。
到達目標	人間生活の中で、児童福祉が果たす役割と意義について理解を深める。 また、児童福祉における保育の位置づけについて理解する。
授業計画	１　オリエンテーション 少子化の進行と家族・家庭・地域 ２　子どもの生活と家庭をめぐる現状 ３　子どもの福祉と子育て家庭支援の歩み ４　子どもの福祉と子育て家庭支援の基本理念 ５　子どもの福祉と子育て家庭支援の法・財政 ６　子どもの福祉と子育て家庭支援を担う機関と専門職 ７　少子化社会対策と子育て支援施策の現状と課題 ８　保育施策の現状と課題 ９　要養護児童福祉施策の現状と課題 10　障害児福祉施策の現状と課題 11　少年非行対策の現状と課題 12　ひとり親家庭等支援施策・DVの現状と課題 13　母子保健施策の現状と課題 14　子どもと子育て家庭へのソーシャルワーク 15　試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業までに、教科書の該当する箇所を読んでおくことが望ましい。 授業後学習：授業時に出される課題に取り組む中で、理解を深める。
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	試験70%　レポート等平常点30%
教科書	星野政明・川出富貴子・三宅邦建　編　『子どもの福祉と子育て家庭支援』 （株）みらい
参考書	授業にて適宜紹介します

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	西川　央江						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	障害のある子どもへの理解と支援
授業の概要	・知的障害・ダウン症・自閉症・AD/HD・学習障害・脳性麻痺などの障害の特性について学びます。 ・障害のある子どもを育てる保護者の悩み・思いを知り、保護者や家族を支援する方法について理解します。 ・保育・教育場面で“困っている”子どもについて、具体的な事例を通して支援のあり方を検討します。 ・障害のある子どもたちの豊かな発達を保障するためには、どのような環境・システムを整えることが大切であるかを共に考えていきます。
到達目標	・障害の特性について、基本的な知識を習得できることを目標とします。 ・事例を通して、障害のある子どもと保護者への支援方法を理解し、将来的に保育・教育現場で生かしていける基盤となる能力を養うことも到達目標です。
授業計画	第１回. 障害児を取り巻く状況と保育・教育 第２回. 障害のある子どもの発達 第３回. 障害特性の理解①　(知的障害・ダウン症) 第４回. 障害特性の理解②　(自閉症スペクトラム) 第５回. 障害特性の理解③　(ADHD・LD) 第６回. 障害特性の理解④　(脳性麻痺・てんかん等) 第７回. 障害特性の理解⑤　(視覚障害・聴覚障害等) 第８回. 子どもの“困った”行動の理解①　(コミュニケーション面、感覚面) 第９回. 子どもの“困った”行動の理解②　(行動面) 第10回. 子どもを支援する環境の実際①　(保育場面中心) 第11回. 子どもを支援する環境の実際②　(学校場面中心) 第12回. 子どもを支援する環境の実際③　(家庭中心) 第13回. 保護者へのサポートと家族援助 第14回. 関係機関との連携　(家庭－保育・教育－専門機関) 第15回. まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	・日頃から障害のある子どもについて関心を持ち、ニュースや番組・新聞記事などからも積極的に情報を取り入れるように心がけてみてください。 ・授業中に紹介する参考図書などで理解を深め、疑問点があれば質問して解決をはかることが大切です。
授業方法	講義、グループワーク
評価基準と評価方法	平常点(10%)、授業内の提出物(30%)、期末レポート(60%)により評価します。
教科書	使用せず、プリントを配布します。
参考書	『最新保育講座15 障害児保育』鯨岡峻編　ミネルヴァ書房 『新版テキスト　障害児保育』近藤直子・白石正久・中村尚子編　全障研出版部 その他、授業中に適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	西川　央江						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	障害のある子どもへの理解と支援
授業の概要	・知的障害・ダウン症・自閉症・AD/HD・学習障害・脳性麻痺などの障害の特性について学びます。 ・障害のある子どもを育てる保護者の悩み・思いを知り、保護者や家族を支援する方法について理解します。 ・保育・教育場面で“困っている”子どもについて、具体的な事例を通して支援のあり方を検討します。 ・障害のある子どもたちの豊かな発達を保障するためには、どのような環境・システムを整えることが大切であるかを共に考えていきます。
到達目標	・障害の特性について、基本的な知識を習得できることを目標とします。 ・事例を通して、障害のある子どもと保護者への支援方法を理解し、将来的に保育・教育現場で生かしていける基盤となる能力を養うことも到達目標です。
授業計画	第１回. 障害児を取り巻く状況と保育・教育 第２回. 障害のある子どもの発達 第３回. 障害特性の理解①　(知的障害・ダウン症) 第４回. 障害特性の理解②　(自閉症スペクトラム) 第５回. 障害特性の理解③　(ADHD・LD) 第６回. 障害特性の理解④　(脳性麻痺・てんかん等) 第７回. 障害特性の理解⑤　(視覚障害・聴覚障害等) 第８回. 子どもの“困った”行動の理解①　(コミュニケーション面、感覚面) 第９回. 子どもの“困った”行動の理解②　(行動面) 第10回. 子どもを支援する環境の実際①　(保育場面中心) 第11回. 子どもを支援する環境の実際②　(学校場面中心) 第12回. 子どもを支援する環境の実際③　(家庭中心) 第13回. 保護者へのサポートと家族援助 第14回. 関係機関との連携　(家庭－保育・教育－専門機関) 第15回. まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	・日頃から障害のある子どもについて関心を持ち、ニュースや番組・新聞記事などからも積極的に情報を取り入れるように心がけてみてください。 ・授業中に紹介する参考図書などで理解を深め、疑問点があれば質問して解決をはかることが大切です。
授業方法	講義、グループワーク
評価基準と評価方法	平常点(10%)、授業内の提出物30%)、期末レポート(60%)により評価します。
教科書	使用せず、プリントを配布します。
参考書	『最新保育講座15 障害児保育』鯨岡峻編　ミネルヴァ書房 『新版テキスト　障害児保育』近藤直子・白石正久・中村尚子編　全障研出版部 その他、授業中に適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達Ⅳ（社会性と人格）						
担当教員	藤本　浩一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会性と人格の発達
授業の概要	子どもの人格と社会性の発達について講義を行う。子どもを取り巻く人間関係や社会文化的要因、自我の形成、対人関係などについて理解を深め、子どもの心の支援について考察する。「いじめ」対策や社会的スキル獲得など、個々の子どもに応じた対処の仕方を工夫できるような資源を作る。各自でテーマを選び、文献や論文を検索して読み、要旨を作成して配布し、口頭で発表する。
到達目標	社会性発達の研究を知る。発表スキルに習熟する。
授業計画	１．人格の基礎　気質、タイプ ２．社会性とは何か　そのゴール ３．社会性が損なわれるとき ４．社会性の発達 ５．対人コミュニケーションの芽生え ６．家族関係　親子、兄弟 ７．社会的認知 ８．遊びと社会性 ９．友人関係の成立と発展 10. 自己主張と自己抑制 11. セルフコントロール 12. 学級の中での対人関係 13. 社会的スキルトレーニング 14. 道徳性発達、テスト実施。 15. 社会性の評定　答案返却と解説、再テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	文献・論文検索、発表要旨作成、レポート課題作成。
授業方法	講義、討論、視聴覚教材
評価基準と評価方法	筆記試験（７０％）と、不定期の提出物など（３０％）で総合的に評価を行います。人数が多くなければ発表授業を行い、その場合は発表３０％、筆記試験４０％、提出物３０％で総合評価します。
教科書	プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達V（人権と福祉）						
担当教員	長谷　範子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会福祉の意義と役割
授業の概要	本科目は、保育士資格取得にかかわる授業科目である。保育所保育も含め、保育士が勤務するフィールドは、社会福祉の領域内にある。 本授業では、社会福祉の歴史的な展開と、現状への理解を深めるとともに、今日の生活するすべての人々を取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、すべての人々が、安心し、健康で、文化的な、最低限度の生活を営むことができるために、どのような施策が展開され、どのように具体的な支援が行われているかについて学ぶ。また、学びを通して生活に即した問題を明確にし、社会福祉施設等、現場の実践も視野に入れながら、人々のウェルビーイング実現へ向けての課題解決的な考察力を養う。
到達目標	人間生活の中で、社会福祉が果たす役割と意義について理解を深める。
授業計画	１．　オリエンテーション 　　社会福祉の考え方 ２．　社会福祉を取り巻く環境 ３．　社会福祉の歴史 ４．　社会福祉の仕組み ５．　社会福祉サービス利用の仕組み ６．　社会福祉の機関と施設 ７．　社会保障 ８．　低所得者福祉 ９．　児童家庭福祉 １０．高齢者福祉 １１．障害者福祉 １２．地域福祉 １３．利用者保護制度 １４．社会福祉援助技術と社会福祉の担い手 １５．試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業までに、教科書の該当する箇所を読んでおくことが望ましい。 授業後学習：授業時に出される課題に取り組む中で、理解を深める。
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	試験70%　レポート等平常点30%
教科書	新・プリマーズ/保育/福祉　『社会福祉』　ミネルヴァ書房 石田慎二/山縣文治　編著　　(1800+税)
参考書	授業にて適宜紹介します

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	尾崎　多						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	教育・保育の実践現場の理解
授業の概要	テーマ：　学校・保育・子育て支援現場の実地授業。 到達目標：　①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する。 ②乳幼児を理解し、援助するための期保育・教育の実際について学ぶ。 授業の概要：保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際を見学を通して理解する。
到達目標	保育・教育現場における子どもの生活や学び、教師や保育者の仕事について理解を深める。
授業計画	今年度は、小学校、幼稚園、保育所を中心に、見学と実地体験を行う。 第１回　オリエンテーション 第２回　事前指導 第３回　現場見学と実地体験（１） 第４回　事後指導とレポート作成 第５回　事前指導 第６回　現場見学と実施体験（２） 第７回　事後指導とレポート作成 第８回　事前指導 第９回　現場見学と実施体験（３） 第10回　事後指導とレポート作成 第11回　事前指導 第12回　現場見学と実地体験（４） 第13回　事後指導とレポート作成 第14回　ディスカッション 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成
授業方法	講義およびグループディスカッション
評価基準と評価方法	レポート提出４回　各２５点
教科書	特に指定しない。
参考書	必要に応じて示す。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	倉　真智子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	教育・保育の実践現場の理解
授業の概要	テーマ：　学校・保育・子育て支援現場の実地授業。 到達目標：　①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する。 ②乳幼児を理解し、援助するための期保育・教育の実際について学ぶ。 授業の概要：保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際を見学を通して理解する。
到達目標	保育・教育現場における子どもの生活や学び、教師や保育者の仕事について理解を深める。
授業計画	今年度は、小学校、幼稚園、保育所を中心に、見学と実地体験を行う。 第１回　オリエンテーション 第２回　事前指導 第３回　現場見学と実地体験（１） 第４回　事後指導とレポート作成 第５回　事前指導 第６回　現場見学と実施体験（２） 第７回　事後指導とレポート作成 第８回　事前指導 第９回　現場見学と実施体験（３） 第10回　事後指導とレポート作成 第11回　事前指導 第12回　現場見学と実地体験（４） 第13回　事後指導とレポート作成 第14回　ディスカッション 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成
授業方法	講義およびグループディスカッション
評価基準と評価方法	レポート提出４回　各２５点
教科書	特に指定しない。
参考書	必要に応じて示す。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	谷口　和良						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	教育・保育の実践現場の理解
授業の概要	テーマ：　学校・保育・子育て支援現場の実地授業。 到達目標：　①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する。 ②乳幼児を理解し、援助するための期保育・教育の実際について学ぶ。 授業の概要：保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際を見学を通して理解する。
到達目標	保育・教育現場における子どもの生活や学び、教師や保育者の仕事について理解を深める。
授業計画	今年度は、小学校、幼稚園、保育所を中心に、見学と実地体験を行う。 第１回　オリエンテーション 第２回　事前指導 第３回　現場見学と実地体験（１） 第４回　事後指導とレポート作成 第５回　事前指導 第６回　現場見学と実施体験（２） 第７回　事後指導とレポート作成 第８回　事前指導 第９回　現場見学と実施体験（３） 第10回　事後指導とレポート作成 第11回　事前指導 第12回　現場見学と実地体験（４） 第13回　事後指導とレポート作成 第14回　ディスカッション 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成
授業方法	講義およびグループディスカッション
評価基準と評価方法	レポート提出４回　各２５点
教科書	特に指定しない。
参考書	必要に応じて示す。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	寺見　陽子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	教育・保育の実践現場の理解
授業の概要	テーマ：　学校・保育・子育て支援現場の実地授業。 到達目標：　①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する。 ②乳幼児を理解し、援助するための期保育・教育の実際について学ぶ。 授業の概要：保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際を見学を通して理解する。
到達目標	保育・教育現場における子どもの生活や学び、教師や保育者の仕事について理解を深める。
授業計画	今年度は、小学校、幼稚園、保育所を中心に、見学と実地体験を行う。 第１回　オリエンテーション 第２回　事前指導 第３回　現場見学と実地体験（１） 第４回　事後指導とレポート作成 第５回　事前指導 第６回　現場見学と実施体験（２） 第７回　事後指導とレポート作成 第８回　事前指導 第９回　現場見学と実施体験（３） 第10回　事後指導とレポート作成 第11回　事前指導 第12回　現場見学と実地体験（４） 第13回　事後指導とレポート作成 第14回　ディスカッション 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成
授業方法	講義およびグループディスカッション
評価基準と評価方法	レポート提出４回　各２５点
教科書	特にしていしない。
参考書	必要に応じて示す。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	根津　隆男						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	教育・保育の実践現場の理解
授業の概要	テーマ：　学校・保育・子育て支援現場の実地授業。 到達目標：　①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する。 ②乳幼児を理解し、援助するための期保育・教育の実際について学ぶ。 授業の概要：保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際を見学を通して理解する。
到達目標	保育・教育現場における子どもの生活や学び、教師や保育者の仕事について理解を深める。
授業計画	今年度は、小学校、幼稚園、保育所を中心に、見学と実地体験を行う。 第１回　オリエンテーション 第２回　事前指導 第３回　現場見学と実地体験（１） 第４回　事後指導とレポート作成 第５回　事前指導 第６回　現場見学と実施体験（２） 第７回　事後指導とレポート作成 第８回　事前指導 第９回　現場見学と実施体験（３） 第10回　事後指導とレポート作成 第11回　事前指導 第12回　現場見学と実地体験（４） 第13回　事後指導とレポート作成 第14回　ディスカッション 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成
授業方法	講義およびグループディスカッション
評価基準と評価方法	レポート提出４回　各２５点
教科書	特に指定しない。
参考書	必要に応じて示す。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	山口　照代・春　豊子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	教育・保育の実践現場の理解
授業の概要	テーマ：　学校・保育・子育て支援現場の実地授業。 到達目標：　①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する。 ②乳幼児を理解し、援助するための期保育・教育の実際について学ぶ。 授業の概要：保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際を見学を通して理解する。
到達目標	保育・教育現場における子どもの生活や学び、教師や保育者の仕事について理解を深める。
授業計画	今年度は、小学校、幼稚園、保育所を中心に、見学と実地体験を行う。 第１回　オリエンテーション 第２回　事前指導 第３回　現場見学と実地体験（１） 第４回　事後指導とレポート作成 第５回　事前指導 第６回　現場見学と実施体験（２） 第７回　事後指導とレポート作成 第８回　事前指導 第９回　現場見学と実施体験（３） 第10回　事後指導とレポート作成 第11回　事前指導 第12回　現場見学と実地体験（４） 第13回　事後指導とレポート作成 第14回　ディスカッション 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成
授業方法	講義およびグループディスカッション
評価基準と評価方法	レポート提出４回　各２５点
教科書	特に指定しない。
参考書	必要に応じて示す。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども文化論						
担当教員	奥　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	創作人形劇
授業の概要	子ども文化の一つとして、人形劇は子どもたちに魅力ある環境を創造するものです。子どもたちは命を吹き込まれた人形に心を開き、人形との応答を通して自己を表現したりします。人形劇の教育的効果を踏まえて、保育・教育に役立つように、人形制作、演出、上演、相互評価を行います。また、人形劇作成のプロセスを通じて、グループワークによる学生のコミュニケーション能力や表現力の育成を目指します。
到達目標	創作人形劇の上演を通じて、脚本・制作・演出等のグループワークを通じてコミュニケーション能力を培います。
授業計画	第1回　　子ども文化論の概要 子ども文化と保育 第２回　　紙芝居と出会う ・試作１　紙芝居を創る 第３回　　紙芝居を演じる 第４回　　子どもと遊び、人形劇の発生と歴史 第５回　　物語ることについて ・　試作2　絵本から台本を創る 第６回　　鑑賞と人形劇の基本の講義 第７回　　人形劇を創る：人形劇の構想 第８回　　人形劇を創る：物語、話の展開と場面の絵コンテ、人形のデザイン 第９回　　人形劇を創る：人形作成 第10回　　人形劇を創る：人形作成 第11回　　人形劇を創る：音声・背景などの製作 第12回　　人形劇を創る：順次リハーサル 第13回　　上演 第14回　　上演 第15回　　相互評価
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：グループごとの話し合いを十分にし、必要な材料・用具の準備してください。 授業後学習：全体の計画と照らしながら上演に向かって進めてください。
授業方法	講義・演習・実技
評価基準と評価方法	作品・台本作成40%、上演60%で評価します。
教科書	使用しない。適宜プリントを配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科研究						
担当教員	大下　卓司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する
授業の概要	数の不思議さや面白さ、図形の美しさ、学習内容の系統性や移行の内容などを、数と計算・量と測定・図形・数量関係の４領域から考察し、理解していく。数学読み物を課題図書に設定し、グループごとに一つの作品を選んで報告する活動を行う。
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数の研究手法や楽しさを体得する。
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容 第２回　数を楽しむ（１）　ことばと演算（加減乗除）について議論する。 第３回　数を楽しむ（２）　九九の表からいろいろな法則を発見する。 第４回　数を楽しむ（３）　分数の乗法、除法について議論する。 第５回　量と測定（１）　台形や複合図形の面積の求め方を考える。 第６回　量と測定（２）　単位量あたりの大きさについて議論する。 第７回　図形（１）　合同な図形や対称な図形等の理解を深める。 第８回　図形（２）　図形の意味や性質について理解し、作図を行う。 第９回　数量関係（１）　二つの数量の変わり方を調べて問題解決を図る。 第１０回　数量関係（２）　起こり得る場合を順序よく整理して調べる。 第１１回　幼稚園児の遊びと算数の関係（４領域や算数的活動）を考える。 第１２回　テキスト報告（１）グループごとに選択した課題図書の報告を行う。 第１３回　テキスト報告（２）グループごとに選択した課題図書の報告を行う。 第１４回　テキスト報告（３）グループごとに選択した課題図書の報告を行う。 第１５回　質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業までに教科書を読み、関心・意欲を持って授業にのぞんでください。 授業後学習：学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。 復習のつもりで教科書を読んでみると理解が深まります。
授業方法	講義やグループでのディスカッション
評価基準と評価方法	試験５０％、レポート２０％、発表３０％
教科書	小学校学習指導要領解説　算数編　文部科学省　東洋館出版社
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科研究						
担当教員	大下　卓司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する
授業の概要	数の不思議さや面白さ、図形の美しさ、学習内容の系統性や移行の内容などを、数と計算・量と測定・図形・数量関係の４領域から考察し、理解していく。数学読み物を課題図書に設定し、グループごとに一つの作品を選んで報告する活動を行う。
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数の研究手法や楽しさを体得する。
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容 第２回　数を楽しむ（１）　ことばと演算（加減乗除）について議論する。 第３回　数を楽しむ（２）　九九の表からいろいろな法則を発見する。 第４回　数を楽しむ（３）　分数の乗法、除法について議論する。 第５回　量と測定（１）　台形や複合図形の面積の求め方を考える。 第６回　量と測定（２）　単位量あたりの大きさについて議論する。 第７回　図形（１）　合同な図形や対称な図形等の理解を深める。 第８回　図形（２）　図形の意味や性質について理解し、作図を行う。 第９回　数量関係（１）　二つの数量の変わり方を調べて問題解決を図る。 第１０回　数量関係（２）　起こり得る場合を順序よく整理して調べる。 第１１回　幼稚園児の遊びと算数の関係（４領域や算数的活動）を考える。 第１２回　テキスト報告（１）グループごとに選択した課題図書の報告を行う。 第１３回　テキスト報告（２）グループごとに選択した課題図書の報告を行う。 第１４回　テキスト報告（３）グループごとに選択した課題図書の報告を行う。 第１５回　質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業までに教科書を読み、関心・意欲を持って授業にのぞんでください。 授業後学習：学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。 復習のつもりで教科書を読んでみると理解が深まります。
授業方法	講義やグループでのディスカッション
評価基準と評価方法	試験５０％、レポート２０％、発表３０％
教科書	小学校学習指導要領解説　算数編　文部科学省　東洋館出版社
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科指導法						
担当教員	大下　卓司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	楽しく、学習を促進する算数の授業を創る
授業の概要	現行の算数科教科書から選んだ内容について、指導案を作成し、グループで模擬授業を行い検討していく。また、小学校現場を実際に見学し（または、現場の授業をビデオ録りしたのを見て）、授業のあり方や問題点等を検討し、楽しい授業づくりに生かしていく。
到達目標	算数好きで、生き生きとした児童を育成するための指導が行われている。
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業概要の説明。算数を学ぶ意味について議論する。 第２回　算数科の指導案の書き方とポイントについて考える。 第３回　評価と学力調査をもとに分かる授業を考える。 第４回　問題解決の授業を目指した教材開発を行う。 第５回　授業プラン作成（１）　ペアごとに教材研究を行い、指導案の単元計画を立てる。 第６回　授業プラン作成（２）　ペアごとに模擬授業で行う本時の展開と板書計画を立てる。 第７回　授業プラン作成（３）　ペアごとに指導案を完成させ、検討会を行う。 第８回　模擬授業（１）　ペアごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第９回　模擬授業（２）　ペアごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第１０回　模擬授業（３）　ペアごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第１１回　模擬授業の振り返り：模擬授業の中の数例を取り上げ再構成に向け議論する。 第１２回　学外見学：近隣の小学校で授業を観察する（または、授業のビデオを見る）。 第１３回　事後指導：学外見学（または、現場の授業のビデオ）の感想や意見を述べ検討する。 第１４回　授業プランを再構成する。ペアごとに授業プランを練り直す。 第１５回　授業プランの発表会：再構成したプランを発表し相互にコメントしあう。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、該当する箇所を考えてください。 授業後学習：教材、発問、板書等が適切であったか考察してください。
授業方法	講義およびグループや全体でのディスカッション。
評価基準と評価方法	意欲　　発表２０％ 知識　　指導案６０％ 適正　　模擬授業２０％
教科書	小学校学習指導要領解説　算数編　文部科学省　東洋館出版社
参考書	「活用力・思考力・表現力を育てる　３６５日の算数学習指導案」清水廣監修　明治図書

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科研究						
担当教員	根津　隆男						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「小学校社会科教育の在り方を追求する」
授業の概要	現在に至るまでの社会科教育史を概観し、社会科成立の趣旨を理解し、小学校の社会科教育は、公民的資質の基礎を養うことを究極の目標にしていることについて理解を深める。その上で、学習指導要領に基づいて指導計画を作成し、授業を展開する。そのためには、社会化の目標と内容から、子どもたちにに何を理解させ、どのような指導をしたらよいのか、年間の指導計画を作成することによって、社会科の総合的理解を図る。
到達目標	小学校社会の成立と変遷を知り、小学校社会科教育の内容についての総合的な理解を目指す。
授業計画	第１回：オリエンテーション　：社会科好きになるために 第２回：社会科誕生まで　：小学校社会科の誕生 第３回：社会科教育の変遷①　：小学校社会科の変遷 第４回：社会科教育の変遷②　：学習指導要領の移り変わり 第５回：問題解決的な学習　：体験的な学習と問題解決的な学習 第６回：社会科の特質　：全学年の目標と内容の理解 第７回：学習内容①　：中学年の地域学習の内容と指導計画 第８回：学習内容②　：産業学習の内容と指導が計画 第９回：学習内容③　：歴史学習の内容と指導計画 第１０回：教科書の活用　：学び方を学ぶ教科書の活用 第１１回：現場学習　：現場での驚きと疑問を「学習問題」へ 第１２回：社会間における言語活動　：体験を定着させる言語活動 第１３回：社会科の評価　成　：指導計画と評価計画 第１４回：模擬授業①　：地域に根差したカリキュラム 第１５回：模擬授業②　：教材観と児童観、どのように教えどのように学ぶ3のか
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ等の情報機関より、世の中の動きを捉えておく。
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	平常点（授業への出席状況、小テスト）　４０％ 演習点（指導計画・指導案作成）　３０％ レポート点（公民的資質を身につける社会科になっているか）　３０％
教科書	テキスト 小学校学習指導要領解説　社会編（平成２０年８月）　文部科学省
参考書	・評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 国立教育政策研究所教育課程研究センター著

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科指導法						
担当教員	根津　隆男						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「楽しく学べる社会科学習のあり方を追求する」
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会化を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのままを使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」の理論を構築し、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導を案を作成したり、模擬授業を試みたりする体験的・実践的な学びを進める。
授業計画	第１回：オリエンテーション　：「社会科が好き」な子どもたちを目指して 第２回：小学校社会科の特性　：社会科は何を教える教科か 第３回：学習指導要領　：教育課程のよりどころとしての学習指導要領 第４回：社会化の目標と内容①　：第３・４学年 第５回：社会化の目標と内容②　：第５・６学年 第６回：地域学習、産業学習　：身近な素材の教材化 第７回：歴史学習　：人物中心の学習 第８回：社会から評価　：目標に準拠した評価について考える 第９回：社会科「学習問題」の作成：子どもたちの驚きと疑問を「学習問題」に高める 第１０回：教材研究　：人間の文化をどのように教え、どのように学ぶか 第１１回：教科書の活用を　：「教科書で教える」か「教科書を教える」か 第１２回：学習指導案の意義　：作成のポイント 第１３回：学習指導案の作成　：教材のねらいと子どもの活動案を結び付ける 第１４回：模擬授業①　：指導案と実際の授業のずれに気づく 第１５回：模擬授業②　：発門と板書
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校時代に使用した地図帳・教科書に目を通しておくこと
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	平常点（出席状況・授業への参加度）　３０％ 演習（定着度小テスト・模擬授業）　４０％ レポート（学習指導案）　３０％ 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三つの観点で行う。
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成２０年８月）　文部科学省
参考書	小学校社会科教師の専門性育成　教育出版　東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ　社会　文渓堂　安野功著

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科指導法						
担当教員	根津　隆男						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「楽しく学べる社会科学習のあり方を追求する」
授業の概要	社会科を得意とする子どもは多い、しかし社会科を苦手とする子どもも少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは、地域の特性などで教科書をそのままを使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会科学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」の理論を構築し、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導を案を作成したり、模擬授業を試みたりする体験的・実践的な学びを進める。
授業計画	第１回：オリエンテーション　：「社会科が好き」な子どもたちを目指して 第２回：小学校社会科の特性　：社会科は何を教える教科か 第３回：学習指導要領　：教育課程のよりどころとしての学習指導要領 第４回：社会科の目標と内容①　：第３・４学年 第５回：社会科の目標と内容②　：第５・６学年 第６回：地域学習、産業学習　：身近な素材の教材化 第７回：歴史学習　：人物中心の学習 第８回：社会から評価　：目標に準拠した評価について考える 第９回：社会科「学習問題」の作成：子どもたちの驚きと疑問を「学習問題」に高める 第１０回：教材研究　：人間の文化をどのように教え、どのように学ぶか 第１１回：教科書の活用　：「教科書で教える」か「教科書を教える」か 第１２回：学習指導案の意義　：作成のポイント 第１３回：学習指導案の作成　：教材のねらいと子どもの活動案を結び付ける 第１４回：模擬授業①　：指導案と実際の授業のずれに気づく 第１５回：模擬授業②　：発問と板書
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校時代に使用した地図帳・教科書に目を通しておくこと
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	講義・演習 平常点（出席状況・授業への参加度）　３０％ 演習（定着度小テスト・模擬授業）　４０％ レポート（学習指導案）　３０％ 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三つの観点で行う。
教科書	小学校学習指導要領解説　社会編（平成２０年８月）　文部科学省
参考書	小学校社会科教師の専門性育成　教育出版　東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ　社会　文渓堂　安野功著

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉援助技術						
担当教員	藤井　薫						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	ソーシャルワーク実践の基礎となる「社会福祉援助技術」の理論と実際を学習する。内容として三大技術(個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術）を軸として理論を学ぶ。また、社会福祉援助職に就くにあたっての倫理について学ぶ。
授業の概要	前半は、三大援助技術を中心に、援助の方法を学習する。後半は、事例研究を中心に、相談援助、保育相談支援についての理解を深めていく。
到達目標	保育者となることを想定して、援助場面での必要な技術を身につける。さらに、社会福祉援助職全般に関しても即応できるような技術を身につける。
授業計画	第１回：オリエンテーション「社会福祉援助技術」の体系 第２回：援助行動の基本１「自己覚知」 第３回：援助行動の基本２「自己理解」を深める 第４回：援助行動の基本３「他者理解」とコミュニケーション 第５回：援助行動実践の技術「面接の基本」 第６回：ソーシャルワークの価値と倫理 第７回：個別援助技術 第８回：集団援助技術１(集団援助技術の基礎) 第９回：集団援助技術２(集団援助技術の応用) 第10回：地域援助技術 第11回：事例研究の意義 第12回：事例研究１「保育所での事例」 第13回：事例研究２「児童養護施設での事例」 第14回：保育技術と保育相談支援 第15回：まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に次回の授業内容を予告。教科書等の予習内容を指示する。
授業方法	講義。授業後に小レポートの提出を求める。(計８回の提出)
評価基準と評価方法	小レポート４０％、期末テスト６０％
教科書	演習・保育と相談援助、初版、監修前田敏雄、編集佐藤伸隆・中西遍彦、(株)みらい、 ISBN　978-4-86015-224-6　C3036
参考書	授業の中で適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉援助技術						
担当教員	藤井　薫						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	ソーシャルワーク実践の基礎となる「社会福祉援助技術」の理論と実際を学習する。内容として三大技術(個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術）を軸として理論を学ぶ。また、社会福祉援助職に就くにあたっての倫理について学ぶ。
授業の概要	前半は、三大援助技術を中心に、援助の方法を学習する。後半は、事例研究を中心に、相談援助、保育相談支援についての理解を深めていく。
到達目標	保育者となることを想定して、援助場面での必要な技術を身につける。さらに、社会福祉援助職全般に関しても即応できるような技術を身につける。
授業計画	第１回：オリエンテーション「社会福祉援助技術」の体系 第２回：援助行動の基本１「自己覚知」 第３回：援助行動の基本２「自己理解」を深める 第４回：援助行動の基本３「他者理解」とコミュニケーション 第５回：援助行動実践の技術「面接の基本」 第６回：ソーシャルワークの価値と倫理 第７回：個別援助技術 第８回：集団援助技術１(集団援助技術の基礎) 第９回：集団援助技術２(集団援助技術の応用) 第10回：地域援助技術 第11回：事例研究の意義 第12回：事例研究１「保育所での事例」 第13回：事例研究２「児童養護施設での事例」 第14回：保育技術と保育相談支援 第15回：まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に次回の授業内容を予告。教科書等の予習内容を指示する。
授業方法	講義。授業後に小レポートの提出を求める。(計８回の提出)
評価基準と評価方法	小レポート４０％、期末テスト６０％
教科書	演習・保育と相談援助、初版、監修前田敏雄、編集佐藤伸隆・中西遍彦、(株)みらい、 ISBN　978-4-86015-224-6　C3036
参考書	授業の中で適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育実技I						
担当教員	倉　真智子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	児童期・幼児期の運動理解と指導
授業の概要	幼児期は生涯にわたる心身の健康の基盤を培う重要な時期である。幼児期に遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、児童期へと繋げていくことが大切である。さらに遊びを通して認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達していく。これらを理解し、それぞれの発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技術を習得する。
到達目標	児童期・乳幼児期の運動遊びの重要性を理解し、発達に応じた指導や援助法を習得する。
授業計画	1/　現在における学童期・幼児期の運動の問題点 2/　児童期における運動の意義 3/　乳幼児期における運動遊びの意義 4/　鬼ごっこ① 5/　鬼ごっこ② 6/　ボールを用いた遊び 7/　ボール運動 8/　縄を用いた遊び① 9/　縄を用いた遊び② 10/ フープを用いた遊び 11/ フープを用いた遊びの展開 12/ 身近なものを利用した遊びの展開 13/ マット、跳び箱遊び 14/ ゲーム遊び 15/ まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	幼児期の遊びを想起し、書物等で調べておくこと。
授業方法	実技・演習
評価基準と評価方法	平常点（50%）　課題（30%）　レポート（20%）
教科書	適宜資料を配付する。
参考書	「遊びの指導」　幼少年教育研究所　同文書院 「0～5歳児の運動遊び指導百科」前橋明　ひかりのくに 「どの子ものびる運動神経」白石豊・広瀬仁美　かもがわ出版

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育実技I						
担当教員	倉　真智子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	児童期・幼児期の運動理解と指導
授業の概要	幼児期は生涯にわたる心身の健康の基盤を培う重要な時期である。幼児期に遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、児童期へと繋げていくことが大切である。さらに遊びを通して認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達していく。これらを理解し、それぞれの発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技術を習得する。
到達目標	児童期・乳幼児期の運動遊びの重要性を理解し、発達に応じた指導や援助を習得する。
授業計画	1/　現在における児童期・幼児期の運動の問題点 2/　児童期における運動の意義 3/　乳幼児期における運動遊びの意義 4/　鬼ごっこ① 5/　鬼ごっこ② 6/　ボールを用いたを遊び 7/　ボール運動 8/　縄を用いた遊び 9/　縄を用いた運動 10/ フープを用いた遊び 11/ フープを用いた遊びの展開 12/ 身近なものを利用した遊びの展開 13/ マット、跳び箱遊び 14/ ゲーム遊び 15/ まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	幼児期に遊びを想起し、書物等で調べておくこと。
授業方法	実技・演習
評価基準と評価方法	平常点（50%）　課題（30%）　レポート（20%）
教科書	適宜資料を配付する。
参考書	「遊びの指導」　幼少年教育研究所　同文書院 「０～５歳児の運動遊び百科」前橋明　ひかりのくに 「どの子ものびる運動神経」白石豊・広瀬仁美　かもがわ出版

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健A						
担当教員	美安　敬子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	小児は大人の縮小版ではなく、小児という特徴をもち、未熟な機能が発達・発育していくことである。その特徴を理解し、健やかな成長の促進への関わりを学ぶ
授業の概要	小児の発達・発育とは一定の法則がある。その法則とはどのようなことなのか。身体・精神・情緒などの成長過程を知り、保育者としての役割を自覚できる。
到達目標	小児を１人の尊厳をもつ人間として理解し、小児期の意味とその保持増進に向けて健康的な成長・発達を促進するための基礎的知識を学ぶ。また、小児の健康生活・成長・発達の促進者としての小児保健管理の基礎的能力を育成する。
授業計画	第1回：小児とは？（大人の縮小版ではないという認識と特徴） 第2回：小児の健康（小児の健康に及ぼす要因・家庭と地域） 第3回：統計に見られる小児保健水準（社会的背景との関連を知る） 第4回：小児の発育発達と生活①（身体発育の概略） 第5回：小児の発育発達と生活②（精神運動発達） 第6回：小児の発育発達と生活③（生理機能） 第8回：小児の発育発達と生活④（発育援助と保育） 第9回：小児の食生活①（小児の健康増進） 第10回：小児の食生活②（食生活の実際） 第11回：小児の食生活③（母乳と人工乳と離乳食） 第12回：小児の健康づくり①（小児の健康増進） 第13回：小児の健康づくり②（健康づくりの実際） 第14回：試験 第15回：小児保健まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	なし
授業方法	ＤＶＤやＰＣのスライドを使用し授業を勧めます。 教科書持参必須
評価基準と評価方法	授業態度・課題・期末テスト（80%）で評価します。
教科書	新　保育ライブラリ　子どもを知る　小児保健　　2011年 編著者　高野　陽　　加藤　則子　　加藤　忠明 発行所　北大路書房
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健B						
担当教員	美安　敬子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	小児は免疫機能や、全ての臓器機能が未熟なので、病気・怪我・事故に遭いやすく、急変、重症化しやすい。小児がかかりやすい疾患や手当て、早期発見・早期予防について学ぶ。
授業の概要	発育・発達の目覚しい子どもの特性を学び、罹患しやすい疾患の知識と事故の予防などの知識について学ぶ。また、家庭や地域との連携による保健活動を学ぶ
到達目標	小児を１人の尊厳をもつ人間として理解し、小児期の意味とその保持増進に向けて健康的な成長・発達を促進するための基礎的知識を学ぶ。また、小児の健康生活・成長・発達の促進者としての小児保健管理の基礎的能力を育成する。
授業計画	第１回：小児の疾病とその予防①　（小児の健康評価） 第２回：小児の疾病とその予防②　（日常みられる症状） 第３回：小児の疾病とその予防③　（小児に多い疾患） 第４回：小児の疾病とその予防④　（小児に多い疾患） 第５回：小児の疾病とその予防⑤　（小児に多い疾患） 第６回：小児の疾病とその予防⑥　（小児に多い疾患） 第７回：小児の疾病とその予防⑦　（小児に多い疾患） 第８回：小児の疾病とその予防⑧　（小児に多い疾患） （第９回：小児の疾病とその予防⑨　（予防接種） 第１０回：小児の疾病とその予防⑩（養育問題と心の健康） 第１１回：事故と安全教育① 第１２回：事故と安全教育② 第１４回：試験 第１５回：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	なし
授業方法	ＤＶＤやＰＣのスライドを使用し授業を勧めます。 教科書持参必須
評価基準と評価方法	授業態度・課題・期末テスト（80%）で評価します。
教科書	新　保育ライブラリ　子どもを知る　小児保健　　2011年 編著者　高野　陽　　加藤　則子　　加藤　忠明 発行所　北大路書房
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健実習						
担当教員	竹元　惠子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	乳幼児のこころとからだの健康を保持増進するための援助の実際について
授業の概要	既に学んだ、乳幼児のこころとからだの特徴や健やかに成長発達していくための要件について想起し各発達段階における必要な援助について演習を通して学ぶ。さらに、日常生活で遭遇しやすい病気や事故の予防、救急処置、病気の時の観察や世話の方法についても演習を通して理解する。
到達目標	①乳幼児のこころとからだの健康を保持増進するための援助が実践できるようになる。 ②援助をするときにどのような知識や配慮が必要か理解できるようになる。
授業計画	第1回　「私の乳幼児のイメージ、かかわる時に心がけたいこと」、演習について 第2回　乳幼児の発育・発達の見かた（１） 第3回　乳幼児の発育・発達の見かた（１） 第4回　子どもの健康状態を知ろう（１）体温、脈拍、呼吸の見かた 第5回　子どもの健康状態を知ろう（２）体温、脈拍、呼吸の見かた 第6回　日常における養護の方法（１）抱き方、おんぶの仕方 第7回　日常における養護の方法（２）食事の与え方、口腔内の衛生 第8回　日常における養護の方法（３）衣服の着せかた、排泄のさせ方、沐浴・入浴のさせ方 第9回　日常における養護の方法（４）寝かせ方、生活環境整備、外出時のこころえ 第10回　体調不良時の対応（１）感染症の予防、発熱時の対応 第11回　体調不良時の対応（２）嘔吐、下痢、便秘の対応 第12回　体調不良時の対応（３）咳、鼻づまり、発疹時の対応 第13回　いざという時の応急処置（１）急病時の応急処置 第14回　いざという時の応急処置（２）傷害時の応急処置 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習①乳幼児のこころとからだの成長発達の特徴の知識の復習 ②乳幼児の健康に関する様々な情報に関心を持ち、資料を集めてみましょう
授業方法	講義と演習（実習）
評価基準と評価方法	小テスト（30%）、実習記録（40%）、平常点（30%）
教科書	これならわかる！子どもの保健演習ノート、榊原　洋一監修、小林美由紀執筆、診断と治療社、 ISBN978-4-7878-1883-6
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健実習						
担当教員	竹元　惠子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	乳幼児のこころとからだの健康を保持増進するための援助の実際について
授業の概要	既に学んだ、乳幼児のこころとからだの特徴や健やかに成長発達していくための要件について想起し各発達段階における必要な援助について演習を通して学ぶ。さらに、日常生活で遭遇しやすい病気や事故の予防、救急処置、病気の時の観察や世話の方法についても演習を通して理解する。
到達目標	①乳幼児のこころとからだの健康を保持増進するための援助が実践できるようになる。 ②援助をするときにどのような知識や配慮が必要か理解できるようになる。
授業計画	第1回　「私の乳幼児のイメージ、かかわる時に心がけたいこと」、演習について 第2回　乳幼児の発育・発達の見かた（１） 第3回　乳幼児の発育・発達の見かた（１） 第4回　子どもの健康状態を知ろう（１）体温、脈拍、呼吸の見かた 第5回　子どもの健康状態を知ろう（２）体温、脈拍、呼吸の見かた 第6回　日常における養護の方法（１）抱き方、おんぶの仕方 第7回　日常における養護の方法（２）食事の与え方、口腔内の衛生 第8回　日常における養護の方法（３）衣服の着せかた、排泄のさせ方、沐浴・入浴のさせ方 第9回　日常における養護の方法（４）寝かせ方、生活環境整備、外出時のこころえ 第10回　体調不良時の対応（１）感染症の予防、発熱時の対応 第11回　体調不良時の対応（２）嘔吐、下痢、便秘の対応 第12回　体調不良時の対応（３）咳、鼻づまり、発疹時の対応 第13回　いざという時の応急処置（１）急病時の応急処置 第14回　いざという時の応急処置（２）傷害時の応急処置 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習①乳幼児のこころとからだの成長発達の特徴の知識の復習 ②乳幼児の健康に関する様々な情報に関心を持ち、資料を集めてみましょう
授業方法	講義と演習（実習）
評価基準と評価方法	小テスト（30%）、実習記録（40%）、平常点（30%）
教科書	これならわかる！子どもの保健演習ノート、榊原　洋一監修、小林美由紀執筆、診断と治療社、 ISBN978-4-7878-1883-6
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	美術教育（造形表現・図画工作・美術）の意義について考える
授業の概要	美術教育は保育所・幼稚園では造形表現、小学校では図画工作という名称になっています。この授業では美術教育を具体的なイメージを持って理解し、子どもの造形・図画工作の意味と意義について検証するために、美術教育の理念、美術教育史、学習指導要領、子どもの造形表現の発達と表現形式について基本的な知識を得るとともに、表現と鑑賞の関係、児童の理解と教師の役割について考えます。図画工作科の基本的な考えを、理論・事例研究・実技を通して学びます。
到達目標	児童の美術表現の発達と特質を把握するとともに、図工科の授業における表現と鑑賞の関係について理解します。これらを通じて美術教育の意義を理解できることを目標にします。
授業計画	第1回　子どもの表現と美的経験 第2回　図工科教育の理念と目標 第3回　美術教育の潮流(1)：美術教育の変遷 第4回　美術教育の潮流(2)：現代の潮流…美術教育史から見た課題 第5回　子どもの表現の事例研究(1)：造形表現の発達との関連を見る・低学年 第6回　子どもの表現の事例研究(2)：造形表現の発達との関連を見る・中、高学年 第7回　学習指導要領概説 第8回　子どもの活動の研究 (1)：造形遊びの実践 第9回　子どもの活動の研究 (2)：実践の考察と相互評価 第10回　図画工作科の指導計画 第11回　子どもの活動の研究(3)：絵や立体に表す実践 第12回　子どもの活動の研究(4)：実践の考察と相互評価 第13回　鑑賞教育(1)：事例を見る 第14回　鑑賞教育(2)：鑑賞と表現の関係について考える 第15回　図工科教育の課題と教師の役割：グループディスカッション及び講評
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備しておいてください。 授業後学習：レポートや課題を課すことがある。各回の内容を系統的にまとめておいてください。
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	課題に取り組む姿勢及び活動に関わるレポート等の提出物30%、作品及び最終レポート70%で評価します。
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法　理論と実践』日本文教出版　ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	美術教育（造形表現・図画工作・美術）の意義について考える
授業の概要	美術教育は保育所・幼稚園では造形表現、小学校では図画工作という名称になっています。この授業では美術教育を具体的なイメージを持って理解し、子どもの造形・図画工作の意味と意義について検証するために、美術教育の理念、美術教育史、学習指導要領、子どもの造形表現の発達と表現形式について基本的な知識を得るとともに、表現と鑑賞の関係、児童の理解と教師の役割について考えます。図画工作科の基本的な考えを、理論・事例研究・実技を通して学びます。
到達目標	児童の美術表現の発達と特質を把握するとともに、図工科の授業における表現と鑑賞の関係について理解します。これらを通じて美術教育の意義を理解できることを目標にします。
授業計画	第1回　子どもの表現と美的経験 第2回　図工科教育の理念と目標 第3回　美術教育の潮流(1)：美術教育の変遷 第4回　美術教育の潮流(2)：現代の潮流…美術教育史から見た課題 第5回　子どもの表現の事例研究(1)：造形表現の発達との関連を見る・低学年 第6回　子どもの表現の事例研究(2)：造形表現の発達との関連を見る・中、高学年 第7回　学習指導要領概説 第8回　子どもの活動の研究 (1)：造形遊びの実践 第9回　子どもの活動の研究 (2)：実践の考察と相互評価 第10回　図画工作科の指導計画 第11回　子どもの活動の研究(3)：絵や立体に表す実践 第12回　子どもの活動の研究(4)：実践の考察と相互評価 第13回　鑑賞教育(1)：事例を見る 第14回　鑑賞教育(2)：鑑賞と表現の関係について考える 第15回　図工科教育の課題と教師の役割：グループディスカッション及び講評
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備しておいてください。 授業後学習：レポートや課題を課すことがある。各回の内容を系統的にまとめておいてください。
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	課題に取り組む姿勢及び活動に関わるレポート等の提出物30%、作品及び最終レポート70%で評価します。
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法　理論と実践』日本文教出版　ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科指導法						
担当教員	奥　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「図画工作」の授業を構想する
授業の概要	柔軟な発想で子どもの表現を捉えることができるように多様な授業場面や子どもの表現に出会う場を作ります。図画工作科の教育内容を理解し、図工科研究で学んだ図工科の基本理念を反映して、授業の計画立案、実施、評価を体験的に行います。グループによる模擬授業や、指導案とそれに基づいて制作した作品をプレゼンテーションする方法をとって授業を進めます。
到達目標	児童の発達や表現の特性を把握し、学習指導要領の理解の上に立って、具体的な指導法を実践的に身につけることを目標にします。
授業計画	第1回　学習指導要領における教科の位置付け 第2回　造形表現の発達と表現形式 第3回　「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価（1）：学年別目標を見据えて 第4回　「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価（2）：学年別目標を見据えて 第5回　「絵に表す」の指導と評価（1）：学年別目標を見据えて 第6回　「絵に表す」の指導と評価（2）：学年別目標を見据えて 第7回　「立体に表す」の指導と評価：学年別目標を見据えて 第8回　「つくりたものをつくる」の指導と評価：学年別目標を見据えて 第9回　「鑑賞」の指導と評価：学年別目標を見据えて 第10回　指導案立案と学習指導案作成 第11回　教師の役割・個に応じた指導と評価 第12回　学生グループによる模擬授業（1） 第13回　学生グループによる模擬授業（2） 第14回　学生グループによる模擬授業（3） 第15回　相互評価及び講評と課題：これからの図画工作科
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な教材の準備をしてください。 授業後学習：自分の学習内容だけでなく、他の受講生の成果や課題についても参考にして 次回へ活かせるよう自主学習してください。
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	模擬授業関連の作品・活動に関わるレポート、発表等80%、日常の提出物、参加態度等20%で評価します。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３つの観点で行ないます。
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法　理論と実践』日本文教出版　ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編 （図工科研究で使用したテキスト）
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技I						
担当教員	奥　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	美術を体感するＩ（いろいろな表現を体験する）
授業の概要	子どもと表現する喜びを共有するためには、教師が子どもの造形を理解すると共に自らも造形する喜びの経験をもつことが大切です。この授業では自己表現の喜びを体感すること、教育現場で使われている材料研究を通して造形の基礎的な能力を培うことを目標とします。平面を中心として、多様な材料体験と造形理論による基礎基本の理解、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行、表現と鑑賞の関係について学び、造形能力を高めます。
到達目標	自己表現の喜びを体感することを通じて、造形の基礎的な能力を培ことを目標とします。
授業計画	第1回　美術について：授業概要、評価の方法、表現と鑑賞の関係について 第2回　造形理論Ａ 第3回　造形要素から描く（1）：造形要素を生かした制作 第4回　造形要素から描く（2） 第5回　造形要素から描く（3） 第6回　造形理論Ｂ 第7回　技法研究(1)：パス、コンテの遊び 第8回　技法研究(2)：絵の具の遊び 第9回　技法研究(3)：版遊び 第10回　技法研究(4)：いろいろな材料･用具で 第11回　技法研究(5)：技法のまとめ（ファイル作り） 第12回　材料・技法を生かした制作（１）：制作 第13回　材料・技法を生かした制作（２）：制作・相互評価 第14回　見ることから描くことへ 第15回　鑑賞とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。材料用具は必携。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞してみること。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	受講態度及び作品レポート等30%、課題レポート及び課題作品の提出による評価70%で評価します。
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技I						
担当教員	奥　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	美術を体感するＩ（いろいろな表現を体験する）
授業の概要	子どもと表現する喜びを共有するためには、教師が子どもの造形を理解すると共に自らも造形する喜びの経験をもつことが大切です。この授業では自己表現の喜びを体感すること、教育現場で使われている材料研究を通して造形の基礎的な能力を培うことを目標とします。平面を中心として、多様な材料体験と造形理論による基礎基本の理解、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行、表現と鑑賞の関係について学び、造形能力を高めます。
到達目標	自己表現の喜びを体感することを通じて、造形の基礎的な能力を培ことを目標とします。
授業計画	第1回　美術について：授業概要、評価の方法、表現と鑑賞の関係について 第2回　造形理論Ａ 第3回　造形要素から描く（1）：造形要素を生かした制作 第4回　造形要素から描く（2） 第5回　造形要素から描く（3） 第6回　造形理論Ｂ 第7回　技法研究(1)：パス、コンテの遊び 第8回　技法研究(2)：絵の具の遊び 第9回　技法研究(3)：版遊び 第10回　技法研究(4)：いろいろな材料･用具で 第11回　技法研究(5)：技法のまとめ（ファイル作り） 第12回　材料・技法を生かした制作（１）：制作 第13回　材料・技法を生かした制作（２）：制作・相互評価 第14回　見ることから描くことへ 第15回　鑑賞とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。材料用具は必携。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞してみること。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	受講態度及び作品レポート等30%、課題レポート及び課題作品の提出による評価70%で評価します。
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技I						
担当教員	奥　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	美術を体感するＩ（いろいろな表現を体験する）
授業の概要	子どもと表現する喜びを共有するためには、教師が子どもの造形を理解すると共に自らも造形する喜びの経験をもつことが大切です。この授業では自己表現の喜びを体感すること、教育現場で使われている材料研究を通して造形の基礎的な能力を培うことを目標とします。平面を中心として、多様な材料体験と造形理論による基礎基本の理解、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行、表現と鑑賞の関係について学び、造形能力を高めます。
到達目標	自己表現の喜びを体感することを通じて、造形の基礎的な能力を培ことを目標とします。
授業計画	第1回　美術について：授業概要、評価の方法、表現と鑑賞の関係について 第2回　造形理論Ａ 第3回　造形要素から描く (1)：造形要素を生かした制作 第4回　造形要素から描く (2) 第5回　造形要素から描く (3) 第6回　造形理論Ｂ 第7回　技法研究(1)：パス、コンテの遊び 第8回　技法研究(2)：絵の具の遊び 第9回　技法研究(3)：版遊び 第10回　技法研究(4)：いろいろな材料･用具で 第11回　技法研究(5)：技法のまとめ（ファイル作り） 第12回　材料・技法を生かした制作（１）：制作 第13回　材料・技法を生かした制作（２）：制作・相互評価 第14回　見ることから描くことへ 第15回　鑑賞とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。材料用具は必携。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞してみること。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	受講態度及び作品レポート等30%、課題レポート及び課題作品の提出による評価70%で評価します。
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技I						
担当教員	奥　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	美術を体感するＩ（いろいろな表現を体験する）
授業の概要	子どもと表現する喜びを共有するためには、教師が子どもの造形を理解すると共に自らも造形する喜びの経験をもつことが大切です。この授業では自己表現の喜びを体感すること、教育現場で使われている材料研究を通して造形の基礎的な能力を培うことを目標とします。平面を中心として、多様な材料体験と造形理論による基礎基本の理解、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行、表現と鑑賞の関係について学び、造形能力を高めます。
到達目標	自己表現の喜びを体感することを通じて、造形の基礎的な能力を培ことを目標とします。
授業計画	第1回　美術について：授業概要、評価の方法、表現と鑑賞の関係について 第2回　造形理論Ａ 第3回　造形要素から描く（1）：造形要素を生かした制作 第4回　造形要素から描く（2） 第5回　造形要素から描く（3） 第6回　造形理論Ｂ 第7回　技法研究(1)：パス、コンテの遊び 第8回　技法研究(2)：絵の具の遊び 第9回　技法研究(3)：版遊び 第10回　技法研究(4)：いろいろな材料･用具で 第11回　技法研究(5)：技法のまとめ（ファイル作り） 第12回　材料・技法を生かした制作（１）：制作 第13回　材料・技法を生かした制作（２）：制作・相互評価 第14回　見ることから描くことへ 第15回　鑑賞とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。材料用具は必携。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞してみること。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	受講態度及び作品レポート等30%、課題レポート及び課題作品の提出による評価70%で評価します。
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技II						
担当教員	奥　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	美術を体感するⅡ(表現の展開に挑む)
授業の概要	新規の表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養います。図工科実技Ⅱでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術により自己表現を深める課題、ダイナミックな課題へ挑戦します。また自己評価を通じて、作品の分析力を培います。
到達目標	新しい表現方法を習得し、表現技術を高め、自分のイメージを表現に展開する方法を開発することを目標にします。
授業計画	第1回　材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回　紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回　：ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみ 第4回　：ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回　：ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作② 第6回　立体　：発砲球(1)：動く原理 第7回　：発砲球(2)：デザイン 第8回　：発砲球(3)：評価 第9回　版　：版画(1)　：版による表現 第10回　：版画(2)　：制作及び刷り 第11回　：版画(3)　：刷り及び評価 第12回　自由制作：表現材料の選択及び制作(1) 第13回　：制作(2) 第14回　：制作(3) 第15回　合評会
授業外における学習（準備学習の内容）	業前学習：授業計画及び制作の展開に沿って、授業毎に必要な材料・用具の準備をしてください。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞してみましょう。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価30%、課題レポート及び課題作品の提出による評価70%。
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技II						
担当教員	奥　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	美術を体感するⅡ(表現の展開に挑む)
授業の概要	新規の表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養います。図工科実技Ⅱでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術により自己表現を深める課題、ダイナミックな課題へ挑戦します。また自己評価を通じて、作品の分析力を培います。
到達目標	新しい表現方法を習得し、表現技術を高め、自分のイメージを表現に展開する方法を開発することを目標にします。
授業計画	第1回　材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回　紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回　：ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみ 第4回　：ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回　：ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作② 第6回　立体　：発砲球(1)：動く原理 第7回　：発砲球(2)：デザイン 第8回　：発砲球(3)：評価 第9回　版　：版画(1)　：版による表現 第10回　：版画(2)　：制作及び刷り 第11回　：版画(3)　：刷り及び評価 第12回　自由制作：表現材料の選択及び制作(1) 第13回　：制作(2) 第14回　：制作(3) 第15回　合評会
授業外における学習（準備学習の内容）	業前学習：授業計画及び制作の展開に沿って、授業毎に必要な材料・用具の準備をしてください。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞してみましょう。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価30%、課題レポート及び課題作品の提出による評価70%。
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	谷口　和良						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生活科の創設の意図やねらい及び特徴の研究
授業の概要	保育所・幼稚園から小学校に入学した子どもたちの小１プロブレムのことが叫ばれています。本来は，この問題・課題を解決するために生活科が創設されています。保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育との段差を解消し，連携を踏まえたスムーズな小学校への移行を図るために，小学校入門期である第１，２学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成の仕方などを獲得します。
到達目標	生活科の趣旨やねらい，及び特徴としての児童中心主義的な教育の在り方などについて学んでいきます。それらをもとに，生活科の望ましい授業実践に向けての基本的な考え方や授業構成の仕方などを身につけることになります。
授業計画	第　１回　　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第　２回　　生活科学習の想起と特徴 第　３回　　生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 第　４回　　生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 第　５回　　小学校教育の現状と課題：戦後の教育の主な流れ、落ちこぼし・知育偏重教育の問題 第　６回　　生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第　７回　　生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 第　８回　　生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 第　９回　　生活科の内容：第１、２学年における内容構成・留意事項 第１０回　　生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 第１１回　　生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 第１２回　　生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第１３回　　生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 第１４回　　小学校第３学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 第１５回　　まとめ：望ましい生活科教育のあり方の総括及びレポート提出授業外における学習
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画にそって，教科書の該当する箇所を読んでおいたり，授業内容に対して自分なりの考えをもったりして，興味・関心を高めておいてください 授業後学習：授業でのワークシートを読み返し，要点をまとめたり覚えたりしておきましょう。毎時間の授業内容は連続しているので，授業内容を関連づけながら生活科の望ましい教育の在り方を膨らませていってください
授業方法	基礎的・基本的な知識理解や教育観・学習観の形成的な講義を行い、それらをもとに、全体やグループでディスカッションをしたり、グループ・個人で口答・レポート発表し合ったりする。
評価基準と評価方法	・平常点５０％（出席状況、講義やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、講義後の意見・感想記録） ・学期末レポート５０％（望ましい生活科教育のあり方、講義を受けての感想など） ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説　生活編」日本文教出版（平成２０年）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	谷口　和良						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生活科の創設の意図やねらい及び特徴の研究
授業の概要	保育所・幼稚園から小学校に入学した子どもたちの小１プロブレムのことが叫ばれています。本来は，この問題・課題を解決するために生活科が創設されています。保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育との段差を解消し，連携を踏まえたスムーズな小学校への移行を図るために，小学校入門期である第１，２学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成の仕方などを獲得します。
到達目標	生活科の趣旨やねらい，及び特徴としての児童中心主義的な教育の在り方などについて学んでいきます。それらをもとに，生活科の望ましい授業実践に向けての基本的な考え方や授業構成の仕方などを身につけることになります。
授業計画	第　１回　　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第　２回　　生活科学習の想起と特徴 第　３回　　生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 第　４回　　生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 第　５回　　小学校教育の現状と課題：戦後の教育の主な流れ、落ちこぼし・知育偏重教育の問題 第　６回　　生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第　７回　　生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 第　８回　　生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 第　９回　　生活科の内容：第１、２学年における内容構成・留意事項 第１０回　　生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 第１１回　　生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 第１２回　　生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第１３回　　生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 第１４回　　小学校第３学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 第１５回　　まとめ：望ましい生活科教育のあり方の総括及びレポート提出授業外における学習
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画にそって，教科書の該当する箇所を読んでおいたり，授業内容に対して自分なりの考えをもったりして，興味・関心を高めておいてください 授業後学習：授業でのワークシートを読み返し，要点をまとめたり覚えたりしておきましょう。毎時間の授業内容は連続しているので，授業内容を関連づけながら生活科の望ましい教育の在り方を膨らませていってください
授業方法	基礎的・基本的な知識理解や教育観・学習観の形成的な講義を行い、それらをもとに、全体やグループでディスカッションをしたり、グループ・個人で口答・レポート発表し合ったりする。
評価基準と評価方法	・平常点５０％（出席状況、講義やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、講義後の意見・感想記録） ・学期末レポート５０％（望ましい生活科教育のあり方、講義を受けての感想など） ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説　生活編」日本文教出版（平成２０年）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科指導法						
担当教員	谷口　和良						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生活科における望ましい授業実践のあり方や方法の追求
授業の概要	生活科の目標や内容、指導などから、他教科との違いや特徴を理解し、それらを生かした教材研究や学習指導案の作成などを行う。そして、それらの展開に際して学習形態や指導・支援のあり方、教師の働きかけなどに対する評価も学びながら、具体的でより望ましい生活科の学習指導方法を獲得する。
到達目標	生活科における具体的な教材研究を通しして，生活科のカリキュラム構成や学習指導案の作成，授業実践力を獲得することになります。
授業計画	第　１回　　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第　２回　　生活科の創設：その背景、意図、ねらい及び生活科の特徴 第　３回　　生活科における栽培活動の栽培物や栽培方法や観察活動 第　４回　　栽培活動を中心にした単元構成について 第　５回　　略案の形式や書き方をもとに栽培活動の略案の作成 第　６回　　指導案（精案）の形式や書き方をもとに指導案の作成 第　７回　　栽培活動の模擬授業とその検討会 第　８回　　単元「秋を見つけよう」の単元の作成 第　９回　　「秋を見つけよう」における造形活動の教材研究 第１０回　　「秋を見つけよう」の略案の作成 第１１回　　小１プロブレム（保・幼と小との段差解消や連携）の実状と対策 第１２回　　幼稚園児と小学校１年児童の合同学習のビデオ試写 第１３回　　単元「冬を見つけよう」における製作活動の教材研究 第１４回　　単元の配列による年間指導計画（カリキュラム）の作成 第１５回　　評価（カリキュラム・授業・子どもの変容）についてと本授業の評価（テストかレポート）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画にそって，授業までに授業内容を予想し，自分の考えなどをもちながら当日の授業への興味・関心を高めるようにしてください。 授業後学習：授業内容は連続しているので，前回のワークシートを読み返しながら要点をまとめたり大事なことを覚えたりしましょう。そして，授業を積み重ねるごとに生活科授業実践力を高めていくようにすることが大切です。
授業方法	基礎的・基本的な知識や技能の獲得するような講義を行いながら、それらをもとに学習指導案の作成や模擬授業を実施したり、実際に教材を製作したり、グループや個人の口答・レポート発表などを行ったりする。
評価基準と評価方法	・平常点５０％（出席状況、模擬授業やグループ発表並びに学習展開案の作成や教材の製作などでの意欲・関心 ・態度、作成した生活科学習展開案や製作した教材の作品など） ・学期末のテストかレポート５０％ ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や模擬授業・教材研究、テストかレポートから評価
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説　生活編」日本文教出版（平成２０年）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科指導法						
担当教員	谷口　和良						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生活科における望ましい授業実践のあり方や方法の追求
授業の概要	生活科の目標や内容、指導などから、他教科との違いや特徴を理解し、それらを生かした教材研究や学習指導案の作成などを行う。そして、それらの展開に際して学習形態や指導・支援のあり方、教師の働きかけなどに対する評価も学びながら、具体的でより望ましい生活科の学習指導方法を獲得する。
到達目標	生活科における具体的な教材研究を通しして，生活科のカリキュラム構成や学習指導案の作成，授業実践力を獲得することになります。
授業計画	第　１回　　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第　２回　　生活科の創設：その背景、意図、ねらい及び生活科の特徴 第　３回　　生活科における栽培活動の栽培物や栽培方法や観察活動 第　４回　　栽培活動を中心にした単元構成について 第　５回　　略案の形式や書き方をもとに栽培活動の略案の作成 第　６回　　指導案（精案）の形式や書き方をもとに指導案の作成 第　７回　　栽培活動の模擬授業とその検討会 第　８回　　単元「秋を見つけよう」の単元の作成 第　９回　　「秋を見つけよう」における造形活動の教材研究 第１０回　　「秋を見つけよう」の略案の作成 第１１回　　小１プロブレム（保・幼と小との段差解消や連携）の実状と対策 第１２回　　幼稚園児と小学校１年児童の合同学習のビデオ試写 第１３回　　単元「冬を見つけよう」における製作活動の教材研究 第１４回　　単元の配列による年間指導計画（カリキュラム）の作成 第１５回　　評価（カリキュラム・授業・子どもの変容）についてと本授業の評価（テストかレポート）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画にそって，授業までに授業内容を予想し，自分の考えなどをもちながら当日の授業への興味・関心を高めるようにしてください。 授業後学習：授業内容は連続しているので，前回のワークシートを読み返しながら要点をまとめたり大事なことを覚えたりしましょう。そして，授業を積み重ねるごとに生活科授業実践力を高めていくようにすることが大切です。
授業方法	基礎的・基本的な知識や技能の獲得するような講義を行いながら、それらをもとに学習指導案の作成や模擬授業を実施したり、実際に教材を製作したり、グループや個人の口答・レポート発表などを行ったりする。
評価基準と評価方法	・平常点５０％（出席状況、模擬授業やグループ発表並びに学習展開案の作成や教材の製作などでの意欲・関心・態度、作成した生活科学習展開案や製作した教材の作品など） ・学期末のテストかレポート５０％ ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や模擬授業・教材研究、テストかポートから評価
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説　生活編」日本文教出版（平成２０年）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	精神保健						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	保育現場で役立つ精神保健についての基礎
授業の概要	乳幼児期から思春期における精神保健にかかわる諸問題について、発達段階を踏まえながら概説します。その際に、こうした諸問題の萌芽が乳幼児期に認められること、さらにこうした萌芽を早期に発見し何らかの対処をおこなうことが、その後の子どもの発達に重要であることを学んでもらいます。
到達目標	・発達段階別にテーマとなる心の諸問題について、基礎的な知識を持つ。 ・乳幼児期における周囲との関わりがその後の発達に大きく関与することを理解する。 ・保育現場などにおける適切な精神保健活動について、その基礎的理解を得る。
授業計画	第1回：オリエンテーション（受講の注意など） 第2回：精神保健の概要 第3回：発達と精神保健①　胎児期　乳児期 第4回：発達と精神保健②　幼児期　学童期 第5回：発達と精神保健③　思春期 第6回：精神的諸問題のメカニズム①　母子関係　家族関係　地域 第7回：精神的諸問題のメカニズム②　遺伝　脳機能　気質 第8回：精神的諸問題のメカニズム③　総合的理解 第9回：保育現場における精神的諸問題への対応　登園しぶり 第10回：保育現場における精神的諸問題への対応　いじめ　攻撃性 第11回：保育現場における精神的諸問題への対応　発達の偏り 第12回：保育現場における精神的諸問題への対応　風変わりな癖　こだわり 第13回：保育現場における精神的諸問題への対応　保護者への支援 第14回：補足とまとめ 第15回：試験と質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストを用いて、講義内容の理解を深めてほしい。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	期末試験（60%）　受講態度（40%）
教科書	
参考書	「改定4版　保育士養成講座　第4巻　精神保健」改定・保育士養成講座編集委員会編　全国社会福祉協議会

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	全ての児童のよりよい人格的成長を目指して
授業の概要	現在、社会的に関心の高い学校におけるいじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校等の反社会的問題行動、非社会的問題行動について、教職に就く者に不可欠な学問としての基礎知識、学校の現状把握、問題の解決能力等を高めることを目標としている。特に、ロールプレーイングを含む事例研究を多く取り入れ、一つ一つの事例について学生個人個人はどのように考えるのか、学校の現場ではどのように対応しているかについて体験から述べ、比較しながら解決に繋がるより良い対応を考察する。
到達目標	学校における生徒指導の実態を知り、生徒指導に関する知識、対応、理想の在り方を修得する。
授業計画	第１回　生徒指導の意義 第２回　生徒指導の課題と実践 第３回　生徒指導の基礎理論（適応の概念） 第４回　生徒指導の基礎理論（適応の過程） 第５回　子どもの自我形成 第６回　生徒理解（心理検査） 第７回　生徒理解（まとめ） 第８回　非社会的問題行動 第９回　不登校への対応 第１０回　反社会的問題行動 第１１回　いじめの防止と解決 第１２回　進路指導の意義と実践 第１３回　事例研究 第１４回　生徒指導のまとめ 第１５回　質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし
授業方法	講義、グループ討議
評価基準と評価方法	試験の結果を主資料(85%)として、発表内容や授業への取り組みの姿勢(15%)を加味する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥　美佐子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	造形教育・美術教育の研究
授業の概要	子どもの造形、美術教育にかかわる分野から設定した各自のテーマをもとに発表し、それに基づいた討論に補説を加えるという、学生主体の形式で進めます。各自のテーマ、課題へのアプローチの仕方、研究内容、分析方法、探究度などについても具体的に検討する。自己のテーマを追求し、論文作成へと展開する中で、問題意識をもち、課題解決に向かう方法や分析力、プレゼンテーション力を身につけます。
到達目標	各自のテーマに沿って研究を進め、卒論を仕上げます。そのプロセスで分析力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を養うことが目標です。
授業計画	第1回　卒論について：テーマ設定、論文作成法 第2回　研究計画作成 第3回　研究計画作成 第4回　計画に従って、文献研究、調査研究等開始 第5回　研究計画に基づく研究 第6回　研究計画に基づく研究 第7回　研究計画に基づく研究 第8回　報告会 第9回　研究計画に基づく研究 第10回　研究計画に基づく研究 第11回　研究計画に基づく研究 第12回　研究計画に基づく研究 第13回　中間発表準備 第14回　中間発表１ 第15回　中間発表2 第16回　論文骨子の確認 第17回　論文作成 第18回　論文作成 第19回　論文作成 第20回　論文作成 第21回　論文作成 第22回　報告会 第23回　論文作成 第24回　論文作成 第25回　論文作成 第26回　発表準備 第27回　発表準備 第28回　卒論発表 第29回　卒論発表 第30回　卒論発表とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表などに備えて、充分に資料などを検討しておいてください。 授業後学習：検討した課題について要点をまとめ、疑問があれば次回に質問や提案ができるようにしておいてください。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点（参加態度等）20%、論文と発表80%で評価します。
教科書	使用しません。

参考書	必要に応じて紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥村　正子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	音楽教育について、自らの問題意識に沿って、卒業研究としてまとめる。
授業の概要	それぞれの課題について、個別指導を主として、レポートの作成、発表、全員での討論を交えて授業を進める。
到達目標	卒業研究をまとめる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回〜第７回　各自の研究を進める。個別指導を主とする。 第８回　レポート提出 第９回〜第12回　発表と討論 第13回〜第14回　個別指導。 第15回　レポート提出 第16回　経過報告 第17回〜第26回　個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第27回　卒業研究の仮提出 第28回　卒業研究の提出 第29回〜第30回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれの研究を進める。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	各自の研究の進度だけではなく、他の学生の発表の際、積極的に討論に参加することも評価の対象とします。 出席回数が授業全体の３分の２に満たない場合、評価の対象としない。
教科書	
参考書	そのつど紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	加藤　巡一						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	理科離れを減らす教材開発
授業の概要	県や市町の教育委員会では理科を教えられる小学校の教員を求めている。今求められている教員像を念頭におきながら、学生一人ひとりにアピールできるものを一つでも多く身に付けてもらうため、教育全般にわたること、及び理科教育に関わることについての知識や技能を興味深く修得し、また具体的な調査研究をしながらその方法を身に付けることを内容とする。この３回生のゼミ内容を引き継いで更に内容を深め、理科離れを減らす教材開発を目指す。
到達目標	教師として自信を持って教壇に立てること
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　教師としての基礎知識（１） 第３回　教師としての基礎知識（２） 第４回　教師としての基礎知識（３） 第５階　博物館学習について（１）校外実習 第６回　論文指導（１） 第７回　論文指導（２） 第８回　論文指導（３） 第９回　論文指導（４） 第１０回　論文指導（５） 第１１回　会誌論文輪読（１） 第１２回　会誌論文輪読（２） 第１３回　研究テーマの設定（１） 第１４回　研究テーマの設定（２） 第１５回　中間まとめ 第１６回　テーマに沿った模擬授業（１） 第１７回　テーマに沿った模擬授業（２） 第１８回　テーマに沿った模擬授業（３） 第１９回　テーマに沿った模擬授業（４） 第２０回　テーマに沿った模擬授業（５） 第２１回　博物館学習について（２）校外実習 第２２回　教材開発（１） 第２３回　教材開発（２） 第２４回　教材開発（３） 第２５回　教材開発（４） 第２６回　教材開発（５） 第２７回　発表、指導（１） 第２８回　発表、指導（２） 第２９回　発表、指導（３） 第３０回　総括
授業外における学習（準備学習の内容）	課題研究。博物館教育として水族館や青少年科学館等で子どもの学習につい考える
授業方法	講義と発表、実験実習、提出物の作成
評価基準と評価方法	発表の成果を主資料として取り組みの熱意等を考慮する
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	倉　真智子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	実践的研究
授業の概要	教育発達演習A・Bでの文献購読や演習において進めてきた学習をもとに、自らの研究課題を明確にする。そして、テーマに関する先行研究を収集し、卒業研究としてまとめていく。定期的に研究の経過等を発表し、プレゼンテーションの向上を図る。
到達目標	自らの研究課題を科学的な視点から分析し、教育実践研究となることを目指す。
授業計画	1/　卒業研究作成の過程についての説明 2/　論文の書き方 3/　テーマの検討① 4/　テーマの検討② 5/　先行研究の検討① 6/　先行研究の検討② 7/　関連論文と先行研究の相互討議① 8/　関連論文と先行研究の相互討議② 9/　関連論文と先行研究の相互討議③ 10/ 関連論文と先行研究の相互討議④ 11/ 研究課題への取り組み① 12/ 研究課題への取り組み② 13/ 研究課題への取り組み③ 14/ 研究課題への取り組み④ 15/ 経過発表 16/ 研究経過発表 17/ 研究課題への取り組み① 18/ 研究課題への取り組み② 19/ 研究課題への取り組み③ 20/ 研究課題への取り組み④ 21/ 研究課題への取り組み⑤ 22/ 研究課題への取り組み⑥ 23/ 経過発表① 24/ 経過発表② 25/ 論文作成① 26/ 論文作成② 27/ 論文作成③ 28/ 論文作成④ 29/ 論文作成⑤ 30/ 抄録の作成
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の取集
授業方法	演習、ディスカッション
評価基準と評価方法	研究への取り組み姿勢と研究成果を総合的に評価する.
教科書	必要に応じて各自に指示する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	倉　真智子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	実践的研究
授業の概要	教育発達演習A・Bでの文献購読や演習において進めてきた学習をもとに、自らの研究課題を明確にする。そして、テーマに関する先行研究を収集し、卒業研究としてまとめていく。定期的に研究の経過等を発表し、プレゼンテーションの向上を図る。
到達目標	自らの研究課題を科学的な視点から分析し、教育実践研究となることを目指す。
授業計画	1/　卒業研究作成の過程についての説明 2/　論文の書き方 3/　テーマの検討① 4/　テーマの検討② 5/　先行研究の検討① 6/　先行研究の検討② 7/　関連論文と先行研究の相互討議① 8/　関連論文と先行研究の相互討議② 9/　関連論文と先行研究の相互討議③ 10/ 関連論文と先行研究の相互討議④ 11/ 研究課題への取り組み① 12/ 研究課題への取り組み② 13/ 研究課題への取り組み③ 14/ 研究課題への取り組み④ 15/ 経過発表 16/ 研究経過発表 17/ 研究課題への取り組み① 18/ 研究課題への取り組み② 19/ 研究課題への取り組み③ 20/ 研究課題への取り組み④ 21/ 研究課題への取り組み⑤ 22/ 研究課題への取り組み⑥ 23/ 経過発表① 24/ 経過発表② 25/ 論文作成① 26/ 論文作成② 27/ 論文作成③ 28/ 論文作成④ 29/ 論文作成⑤ 30/ 抄録の作成
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の取集
授業方法	演習、ディスカッション
評価基準と評価方法	研究への取り組み姿勢と研究成果を総合的に評価する.
教科書	必要に応じて各自に指示する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	寺見　陽子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	目的：卒業論文の作成 概要：「教育発達演習Ａ・B」での研究をもとに、卒業研究に向けて文献や研究論文を購読するとともに、プロポーザルを作成し、その流れに沿って、研究・実験・調査・観察等を実施し、結果をまとめ考察する。さらに今後の課題を明らかにする。
到達目標	卒業論文を作成する
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　研究テーマの設定 第3回　研究テーマの焦点化 第4～8回　文献の検索と購読 第9～13回　プロポーザルの作成と論文構成 第14～18回　調査・観察等の実施 第19～23回　データ分析と考察 第24～28回　論文作成 第28～30回　卒業論文発表会
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の検索・調査・観察等
授業方法	個人指導を中心とする
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）
教科書	必要に応じて示します。
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	藤本　浩一						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	生涯発達の心理と支援
授業の概要	教育心理学・発達心理学を中心とした調査・実験・観察研究を計画立案・実施し、統計処理を行い、論文にまとめる。実験や調査が行えない種類のテーマについては文献研究もあり得る。従来の心理学研究を丹念に調べる一方で、各自の関心を高めて両者を結びつける作業を行う。個別相談を順に行うので指定した時間帯に出席が必要。論文評価は出席に加えて継続的努力・工夫・論理的つながり・着眼点・整った方法等から行う。教育実習や採用試験があるので、夏休みまでにデータ収集し、早い目に書きあげる。
到達目標	個人の興味関心を卒業論文の形に仕上げる
授業計画	１．卒論の文体と作成の心得、卒論執筆の目安 ２．テーマ候補紹介と選定 ３．テーマ毎の方法論の検討 ４．論文検索状況報告 ５．文献のまとめ方習熟 ６．実証データの収集法 ７．実験計画と実施 ８．データ収集 ９．結果の整理 １０．結果における統計手法 １１．統計処理のいろいろ １２．卒論チェックポイント １３．中間発表 １４．中間発表その２ １５．わかりやすい文章 １６．章立ての工夫 １７．個別指導１）文章チェック １８．個別指導２）考察の吟味 １９．個別指導３）目的の明確化 ２０．個別指導４）文献整備 ２１．個別指導５）構文 ２２．第２期中間発表 ２３．個別指導６）節ごとのつながりの整合性 ２４．個別指導７）リサーチクエスチョン確認 ２５．個別指導８）修正対照表作成法 ２６．個別指導９）最終チェック ２７．個別指導１０）提出の体裁 ２８．卒論発表会 ２９．卒論発表会その２ ３０．反省会
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索、データ収集、文章作成など卒業研究の準備
授業方法	研究室での個別指導と教室にて全体発表の授業
評価基準と評価方法	平常点３０％と卒業論文（努力、論理的つながり、方法論、独創性など）７０％により行う。
教科書	統計処理法など、適宜プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	松岡　靖						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	保育・教育に関する質的研究を卒業論文にまとめる。
授業の概要	１．保育・教育を扱う教科書の一部を学生が報告する。 ２．学生の関心に応じた調査と発表を教員が支援する。 ３．卒業研究の中間報告と卒業論文を個別に指導する。
到達目標	１．保育・教育について知識・思考の水準を学生が引き上げる。 ２．学士号に値する卒業研究の執筆・発表を学生に体験させる。
授業計画	１．卒業研究オリエンテーション ２．教科書(1)：なんで勉強するの？ ３．教科書(2)：試験と校則の秘密 ４．教科書(3)：教科書って何だろう ５．教科書(4)：隠れたカリキュラム ６．教科書(5)：子どもと先生の世界 ７．教科書(6)：学校と社会のつながり ８．図書館の論文ガイダンス ９．学生による中間報告(1) 10．学生による中間報告(2) 11．学生による中間報告(3) 12．学生の発表と質疑(1) 13．学生の発表と質疑(2) 14．学生の発表と質疑(3) 15．前期の反省と後期の展望 16．卒業論文オリエンテーション 17．図書館の論文ガイダンス 18．学生による中間報告(1) 19．学生による中間報告(2) 20．学生による中間報告(3) 21．学生による中間報告(4) 22．学生による中間報告(5) 23．学生による中間報告(6) 24．学生による中間報告(7) 25．学生の発表と質疑(1) 26．学生の発表と質疑(2) 27．学生の発表と質疑(3) 28．学生の発表と質疑(4) 29．卒業論文の報告と提出 30．３年生向けの発表会
授業外における学習（準備学習の内容）	１．各自の発表に責任を持って取り組むこと。 ２．学年末に３年生に向かって発表すること。
授業方法	１．序盤は教科書を使った報告と質疑です。 ２．中盤は各自の卒業研究の中間報告です。 ３．終盤はその卒業論文の発表と質疑です。
評価基準と評価方法	１．平常点30点 ２．発表20点 ３．卒業論文50点。
教科書	苅谷剛彦著『学校って何だろう　教育の社会学入門』ちくま文庫、2005年。 ISBN:4-480-42157-2
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科研究						
担当教員	倉　真智子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践
授業の概要	指導に関する環境構成や援助について学習する 乳幼児期・学童期のこころと体の成長を理解し、発育・発達に即した身体活動の特性や運動の特徴について学習する。子どもが自ら興味を持ち、体を使って活動することの楽しさを知りながら、積極的に参加できる環境づくりについて考える。遊びの意義、運動遊びの内容を理解し、指導に関する環境構成や援助について学習する。また、健康安全面への配慮について考える。指導者として適切な援助活動を身につけることや創造的な活動を大切にし、指導者としての資質を高める。
到達目標	小学校の体育を考える際、特に低学年においては幼児期の運動発達をしっかり捉える必要がある。 そのためには教師自身が幼少の連携について理解しておかなければならない。学年と運動領域を理解し、小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高めることを目指す。
授業計画	1/　オリエンテーション：授業概要と導入　意識づけ 2/　小学校体育の意義とねらい 3/　学習指導要領　基本方針及び改善事項の理解 4/　幼児期の運動遊びの考え方 5/　小学校体育の考え方 6/　体育における幼少連携 7/　からだつくり運動① 8/　からだつくり運動② 9/　ボール運動① 10/ ボール運動② 11/ 器械運動（マット） 12/ 器械運動（跳び箱） 13/ ボール運動（ゴール型） 14/ ボール運動（ベースボール型） 15/ まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校学習指導要領概説（体育編）を読み、各学年の目標や内容をよく読んでおくこと。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業態度(50%)、課題提出(30%)、レポート(20%)
教科書	「小学校学習指導要領解説」体育編　文部科学省
参考書	「新しい体育の考え方」　下山真二　洋泉社

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科研究						
担当教員	倉　真智子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践
授業の概要	指導に関する環境構成や援助について学習する 乳幼児期・学童期のこころと体の成長を理解し、発育・発達に即した身体活動の特性や運動の特徴について学習する。子どもが自ら興味を持ち、体を使って活動することの楽しさを知りながら、積極的に参加できる環境づくりについて考える。遊びの意義、運動遊びの内容を理解し、指導に関する環境構成や援助について学習する。また、健康安全面への配慮について考える。指導者として適切な援助活動を身につけることや創造的な活動を大切にし、指導者としての資質を高める。
到達目標	小学校の体育を考える際、特に低学年においては幼児期の運動発達をしっかり捉える必要がある。 そのためには教師自身が幼少の連携について理解しておかなければならない。学年と運動領域を理解し、小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高めることを目指す。
授業計画	1/　オリエンテーション：授業概要と導入　意識づけ 2/　小学校体育の意義とねらい 3/　学習指導要領　基本方針及び改善事項の理解 4/　幼児期の運動遊びの考え方 5/　小学校体育の考え方 6/　体育における幼少連携 7/　からだつくり運動① 8/　からだつくり運動② 9/　ボール運動① 10/ ボール運動② 11/ 器械運動（マット） 12/ 器械運動（跳び箱） 13/ ボール運動（ゴール型） 14/ ボール運動（ベースボール型） 15/ まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校学習指導要領概説（体育編）を読み、各学年の目標や内容をよく読んでおくこと。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業態度(50%)、課題提出(30%)、レポート(20%)
教科書	「小学校学習指導要領解説」体育編　文部科学省
参考書	「新しい体育の考え方」　下山真二　洋泉社

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科指導法						
担当教員	内田　勇人						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	体育科の指導法について学ぶ
授業の概要	本授業の到達目標は、体育における教科および授業の構造と教師の役割について修得することにある。 小学校体育授業におけるマット運動、鉄棒運動、跳び箱運動、他の運動領域において、児童が自ら意欲的に安全に取り組める工夫、そして体育科における指導者の理念と専門的な知識、体育科の目標、各学年の目標と内容について学ぶ。
到達目標	体育における教科および授業の構造と教師の役割について学ぶことをねらいとする。具体的には、「教科としての体育・体育の目標」「体育授業の特徴」「生涯学習としての体育」「良い授業とは」「体育における子どもの特徴」「体育の学習指導と評価」「小学校体育授業におけるマット運動」「鉄棒運動」「跳び箱運動」「他の運動領域」を中心として、児童が自ら意欲的に安全に取り組める工夫について講義する。
授業計画	第1回　オリエンテーション、授業概要 第2回　教科としての体育、体育の目標、体育授業の特徴、生涯学習としての体育、良い授業とは 第3回　「マット運動」(1)　：前方回転、後方回転の技術の構造・分析・指導の観点 第4回　「マット運動」(2)　：側転、伸膝後方回転の技術の構造・分析・指導の観点 第5回　「マット運動」(3)　：マット運動の補助法の理解と実践、連続技の技術の構造・分析・指導の観点 第6回　体育における子どもの特徴 第7回　「鉄棒運動」(1)　：逆上がりの技術の構造・分析・指導の観点 第8回　「鉄棒運動」(2)　：後方支持回転の技術の構造・分析・指導の観点 第9回　「鉄棒運動」(3)　：鉄棒運動の補助法の理解と実践、連続技の技術の構造・分析・指導の観点 第10回　体育の学習指導と評価 第11回　「跳び箱運動」(1)　：開脚跳びの技術の構造・分析・指導の観点 第12回　「跳び箱運動」(2)　：抱え込み跳び、台上前転の技術の構造・分析・指導の観点 第13回　「跳び箱運動」(3)　：跳び箱運動の補助法の理解と実践、連続技の技術の構造・分析・指導の観点 第14回　「他の運動領域」：技術の構造・分析・指導の観点、運動の発展や補助法の理解と実践 第15回　要点の復習とまとめ。総合評価。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：事前に配布する資料を読んでおくこと。 授業後学習：学習内容を整理し、実技については反復実践を試みること。理解できなかったことや実技で難しかったことについては、次の授業で質問すること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業計画の第1回、第2回、第6回、第10回については、授業内容の理解度について各授業終了時に小テストを実施することで評価する。それ以外の回については、領域ごとに実技試験を実施し、各々の修得度を評価する。 教職課程関連科目履修者としての「意欲」「知識」「適性」に関する成績評価については、以下の観点を重視する。「意欲」は実技の習得に向けての積極性・勤勉性といった取り組む姿勢、「知識」は各種実技の指導法に関する理解・専門用語の理解、「適正」は「意欲」と「知識」のそれぞれの程度と、豊かな人間性、課題解決能力、人間関係に関わる資質能力、社会問題への関心度、幼児・児童・生徒や教育の在り方についての適切な理解、教職への愛着、誇り、周りの人間との間の一体感について、高い意識・能力を有するか、もしくは習得に向けた前向きな意識と態度を有しているかどうかにより、評価する。受講態度20点、4つの種目の到達度各20点、計100点で評価する。
教科書	授業時に適宜指示する。
参考書	小学校学習指導要領解説　体育編、文部科学省刊行書、東洋館出版社（東京）、2008年。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科指導法						
担当教員	内田　勇人						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	体育科の指導法について学ぶ
授業の概要	本授業の到達目標は、体育における教科および授業の構造と教師の役割について修得することにある。 小学校体育授業におけるマット運動、鉄棒運動、跳び箱運動、他の運動領域において、児童が自ら意欲的に安全に取り組める工夫、そして体育科における指導者の理念と専門的な知識、体育科の目標、各学年の目標と内容について学ぶ。
到達目標	体育における教科および授業の構造と教師の役割について学ぶことをねらいとする。具体的には、「教科としての体育・体育の目標」「体育授業の特徴」「生涯学習としての体育」「良い授業とは」「体育における子どもの特徴」「体育の学習指導と評価」「小学校体育授業におけるマット運動」「鉄棒運動」「跳び箱運動」「他の運動領域」を中心として、児童が自ら意欲的に安全に取り組める工夫について講義する。
授業計画	第1回　オリエンテーション、授業概要 第2回　教科としての体育、体育の目標、体育授業の特徴、生涯学習としての体育、良い授業とは 第3回　「マット運動」(1)　：前方回転、後方回転の技術の構造・分析・指導の観点 第4回　「マット運動」(2)　：側転、伸膝後方回転の技術の構造・分析・指導の観点 第5回　「マット運動」(3)　：マット運動の補助法の理解と実践、連続技の技術の構造・分析・指導の観点 第6回　体育における子どもの特徴 第7回　「鉄棒運動」(1)　：逆上がりの技術の構造・分析・指導の観点 第8回　「鉄棒運動」(2)　：後方支持回転の技術の構造・分析・指導の観点 第9回　「鉄棒運動」(3)　：鉄棒運動の補助法の理解と実践、連続技の技術の構造・分析・指導の観点 第10回　体育の学習指導と評価 第11回　「跳び箱運動」(1)　：開脚跳びの技術の構造・分析・指導の観点 第12回　「跳び箱運動」(2)　：抱え込み跳び、台上前転の技術の構造・分析・指導の観点 第13回　「跳び箱運動」(3)　：跳び箱運動の補助法の理解と実践、連続技の技術の構造・分析・指導の観点 第14回　「他の運動領域」：技術の構造・分析・指導の観点、運動の発展や補助法の理解と実践 第15回　要点の復習とまとめ。総合評価。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：事前に配布する資料を読んでおくこと。 授業後学習：学習内容を整理し、実技については反復実践を試みること。理解できなかったことや実技で難しかったことについては、次の授業で質問すること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業計画の第1回、第2回、第6回、第10回については、授業内容の理解度について各授業終了時に小テストを実施することで評価する。それ以外の回については、領域ごとに実技試験を実施し、各々の修得度を評価する。 教職課程関連科目履修者としての「意欲」「知識」「適性」に関する成績評価については、以下の観点を重視する。「意欲」は実技の習得に向けての積極性・勤勉性といった取り組む姿勢、「知識」は各種実技の指導法に関する理解・専門用語の理解、「適正」は「意欲」と「知識」のそれぞれの程度と、豊かな人間性、課題解決能力、人間関係に関わる資質能力、社会問題への関心度、幼児・児童・生徒や教育の在り方についての適切な理解、教職への愛着、誇り、周りの人間との間の一体感について、高い意識・能力を有するか、もしくは習得に向けた前向きな意識と態度を有しているかどうかにより、評価する。受講態度20点、4つの種目の到達度各20点、計100点で評価する。
教科書	授業時に適宜指示する。
参考書	小学校学習指導要領解説　体育編、文部科学省刊行書、東洋館出版社（東京）、2008年。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育実技III						
担当教員	倉　真智子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	自然体験とシーズンスポーツ
授業の概要	運動技能を高めるだけでなく、知的好奇心を高めたり、人とのかかわり合いを広げたりするなどさまざまな発達を促すことを実際に実技体験しながら学習する。水遊び、登山、雪遊びなど、戸外での季節の活動も実施する。
到達目標	日常の運動に加えて季節における運動を体験する。そのうえで、幼児や児童が自然体験をする際の安全面を認識し、指導できる能力を養う。
授業計画	第1回　オリエンテーション：授業概要と導入、意識づけ 第2回　子どもの発育発達と運動の再確認 第3回　子どもの活動実践と活動援助者の課題 第4回　シーズンスポーツと「運動遊び」のつながりを理解する 第5回　シーズンスポーツの指導援助課題と計画 第6回　シーズンスポーツの指導計画と実際 第7回　シーズンスポーツを体験する（水遊びと環境） 第8回　シーズンスポーツを体験する（水泳の技術と安全） 第9回　遠足登山の指導援助課題と計画 第10回　遠足登山の実際（六甲山） 第11回　グループワーク（戸外身体活動と援助の課題） 第12回　グループワーク（戸外身体活動と環境を考える） 第13回　グループワークの発表 第14回　活動実践例をビデオ視聴を通して学ぶ 第15回　グループワークへの自己評価とふりかえり
授業外における学習（準備学習の内容）	自らもシーズンスポーツの自然体験を行ったり、ボランティアとして活動することが望ましい。
授業方法	講義と実習
評価基準と評価方法	平常点50%（毎回のコメントカードの提出、出席率60%以上の者を評価の対象者とする。グループ発表などを総合的に評価する） 試験50%（発育・発達理解、「学び」の環境の構成理解）。
教科書	内容に応じて資料を配付する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育実技Ⅳ						
担当教員	倉　真智子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	体育・運動遊びの指導法と生涯スポーツ
授業の概要	発育・発達に即した幼稚園・小学校（低学年）における子どもの運動遊び・体育遊びの指導法のあり方を実技・演習を通して学習していく。また、心とからだのつながりを意識するボディワーク、ニュースポーツも体験し、生涯スポーツへと繋げていく。
到達目標	これまでの学習の総仕上げとして、子どもの体育、運動をさまざまな視点から発展させるとともに、指導案に基づいた指導法を実践する。また、子どもの特性を十分に理解し、発達に応じた指導・援助が展開できるようグループワークを行う。
授業計画	1/　オリエンテーション：授業概要と導入、意識づけ 2/　子どもの認識発達と運動 3/　子どもの身体の現状と実践の課題 4/　コミュニケーション遊び① 5/　コミュニケーション遊び② 6/　道具を用いた運動の展開① 7/　道具を用いた運動の展開② 8/　鬼遊びの展開と応用① 9/　鬼遊びの展開と応用② 10/ 子どもも楽しめるニュースポーツ① 11/ 子どもも楽しめるニュースポーツ② 12/ 生涯スポーツ① 13/ 生涯スポーツ② 14/ 生涯スポーツ③ 15/ 自己評価とふりかえり
授業外における学習（準備学習の内容）	指導法として実践出来る能力を身につけられるよう、資料を整理しておくこと。
授業方法	実技・演習
評価基準と評価方法	平常点50%、模擬保育30%、レポート20%
教科書	
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育実技V						
担当教員	内田　勇人						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	準備・整理体操の意義と効果、水中運動について学ぶ
授業の概要	本授業の到達目標は、体育授業を行うにあたっての準備体操・整理体操の意義と効果について理解し、それらの実技能力を習得することにある。また、水中運動の意義と効果について理解し、水泳の実技能力の習得、及び向上を図る。運動の特性に応じた学習過程や単元構成に配慮した授業づくりの基礎的能力を養う。
到達目標	本授業では、体育における実技の構造と教師の役割について学ぶことをねらいとする。具体的には、「体操」「ストレッチング」「水中運動」「水泳における各種泳法」にかかわる実技能力・指導能力の習得にある。児童が自ら意欲的に安全に取り組める工夫についても学ぶ。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　準備・整理体操の意義と効果 第3回　体操をおぼえる 第4回　ストレッチングの意義と効果 第5回　ストレッチングをおぼえる 第6回　体操とストレッチングの模擬授業 第7回　水中運動　「浮く」「沈む」 第8回　水中運動　「進む」「泳ぐ」 第9回　各種泳法「クロール、背泳ぎ」腕の動き 第10回　各種泳法「クロール、背泳ぎ」脚の動き 第11回　各種泳法「平泳ぎ、その他の泳法」腕の動き 第12回　各種泳法「平泳ぎ、その他の泳法」脚の動き 第13回　クロール、背泳ぎの模擬授業 第14回　平泳ぎ、その他の泳法の模擬授業 第15回　要点の復習とまとめ。総合評価。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：事前に配布する資料を読んでおくこと。 授業後学習：学習内容を整理し、実技については反復実践を試みること。理解できなかったことや実技で難しかったことについては、次の授業で質問すること。
授業方法	実技
評価基準と評価方法	出席を重視する。運動領域ごとに実技試験を実施し、各々の修得度を評価する。受講態度20点、体操、ストレッチング、クロール、平泳ぎの到達度各20点、計100点で評価する。
教科書	授業時に適宜指示する。
参考書	小学校学習指導要領解説　体育編、文部科学省刊行書、東洋館出版社（東京）、2008年。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育実技VI						
担当教員	内田　勇人						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	器械運動、ボール運動について学ぶ
授業の概要	本授業の到達目標は、器械運動における基本的な種目である「マット」「跳び箱」「鉄棒」、ボール運動の「ゴール型」「ネット型」「レクリエーションスポーツ」の技を習得することにある。そして、技の正しい評価、指導法、補助の方法について学ぶ。運動の特性に応じた学習過程や単元構成に配慮した授業づくりの基礎的能力を養う。
到達目標	本授業では、体育における器械運動とボール運動の構造と教師の役割について学ぶことをねらいとする。具体的には、「マット」「跳び箱」「鉄棒」」、ボール運動の「ゴール型」「ネット型」、「レクリエーションスポーツ」にかかわる実技能力・指導能力の習得にある。児童が自ら意欲的に安全に取り組める工夫について学ぶ。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　器械運動の基本的な考え方 第3回　マット運動1（前転、後転、側方倒立回転、前方倒立回転、ロンダード） 第4回　マット運動2（技の連続と組み合わせ） 第5回　跳び箱運動1（開脚跳び、台上前転） 第6回　跳び箱運動2（技の連続と組み合わせ） 第7回　鉄棒運動1（逆上がり、前方支持回転、後方支持回転） 第8回　鉄棒運動2（、技の連続と組み合わせ） 第9回　ボール運動ゴール型（バスケットボール。ドリブル、シュート） 第10回　ボール運動ゴール型（バスケットボール。試合） 第11回　ボール運動ネット型（ソフトバレーボール。パス、レシーブ、サーブ、スパイク、ブロック） 第12回　ボール運動ネット型（ソフトバレーボール。試合） 第13回　ネット型（バドミントン） 第14回　ゴール型（アルティメット） 第15回　要点の復習とまとめ。総合評価。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：事前に配布する資料を読んでおくこと。 授業後学習：学習内容を整理し、実技については反復実践を試みること。理解できなかったことや実技で難しかったことについては、次の授業で質問すること。
授業方法	実技
評価基準と評価方法	出席を重視する。運動領域ごとに実技試験を実施し、各々の修得度を評価する。受講態度30点、マット運動、跳び箱、鉄棒、陸上、ボール運動、レクリエーションスポーツの到達度各70点、計100点で評価する。
教科書	授業時に適宜指示する。
参考書	小学校学習指導要領解説　体育編、文部科学省刊行書、東洋館出版社（東京）、2008年。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	楽しい理科実験						
担当教員	加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	理科はこんなに楽しい
授業の概要	理科の楽しさを知る 　理科教育の原動力は人間の持つ興味関心、好奇心である。昨今、テレビ番組でやっているような人をアッと言わせる実験だけで理科教育が出来るわけではない。地味な理論展開や知識の習得が欠くべからざるものである。しかしながら、教える側の理科に対する興味や関心の強さが教えられる側に及ぼす影響は計り知れない。先ず教員を志す学生に理科に興味を持ってもらい、授業の流れの中で時々ダイナミックな実験を安全に行うことには大きな意味がある。昨今行われている圧力や静電気、音などに関する実験や視覚に訴える化学反応、時間をかけた顕微鏡観察等々を中心に、理科の研究会で開発されている面白い実験なども含めて体験をする。
到達目標	理科の魅力が分かり、今後子ども達に見せてやりたいと思えること
授業計画	第1回　楽しい理科実験（基本と日時計づくり） 第2回　マグデブルクの半球（大気圧を感じて） 第3回　光で遊ぼう（万華鏡づくり） 第4回　身の回りの液体を調べる 第5回　低温の世界 第6回　音で遊ぼう（管楽器と弦楽器） 第7回　月と星（望遠鏡づくり） 第8回　おいしい水（水質検査） 第9回　面白い磁石（モーターの作成） 第10回　きれいな葉脈のしおり 第11回　不思議な静電気 第12回　屈折率を求める 第13回　人体模型 第14回　顕微鏡の世界 第15回　パンを焼こう ＊天候や季節によって変更があります
授業外における学習（準備学習の内容）	夜間の月や星の観察
授業方法	講義と実験
評価基準と評価方法	提出したレポートと制作物の評価(80%)を主資料として、授業への取り組みの姿勢等(20%)を加味する。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	楽しい理科実験						
担当教員	加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	1.0

授業のテーマ	理科はこんなに楽しい
授業の概要	理科の楽しさを知る 　理科教育の原動力は人間の持つ興味関心、好奇心である。昨今、テレビ番組でやっているような人をアッと言わせる実験だけで理科教育が出来るわけではない。地味な理論展開や知識の習得が欠くべからざるものである。しかしながら、教える側の理科に対する興味や関心の強さが教えられる側に及ぼす影響は計り知れない。先ず教員を志す学生に理科に興味を持ってもらい、授業の流れの中で時々ダイナミックな実験を安全に行うことには大きな意味がある。昨今行われている圧力や静電気、音などに関する実験や視覚に訴える化学反応、時間をかけた顕微鏡観察等々を中心に、理科の研究会で開発されている面白い実験なども含めて体験をする。
到達目標	理科の魅力が分かり、今後子ども達に見せてやりたいと思えること
授業計画	第1回　楽しい理科実験（基本と日時計づくり） 第2回　マグデブルクの半球（大気圧を感じて） 第3回　光で遊ぼう（万華鏡づくり） 第4回　身の回りの液体を調べる 第5回　低温の世界 第6回　音で遊ぼう（管楽器と弦楽器） 第7回　月と星（望遠鏡づくり） 第8回　おいしい水（水質検査） 第9回　面白い磁石（モーターの作成） 第10回　きれいな葉脈のしおり 第11回　不思議な静電気 第12回　屈折率を求める 第13回　人体模型 第14回　顕微鏡の世界 第15回　パンを焼こう ＊天候や季節によって変更があります
授業外における学習（準備学習の内容）	夜間の月や星の観察
授業方法	講義と実験
評価基準と評価方法	提出したレポートと制作物の評価(80%)を主資料として、授業への取り組みの姿勢等(20%)を加味する。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	多文化教育論						
担当教員	松岡　靖						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	今の日本で多文化教育を構想する。
授業の概要	１．近代国民国家で義務教育が果たした役割を振り返る。 ２．グローバリゼーションで教育がどう変わるかを調べる。 ３．今の日本にどんな多文化教育の可能性があるかを探る。
到達目標	１．世界で多文化教育が採用された経緯を理解すること。 ２．オーストラリアなどの外国の教育について知ること。 ３．今の日本で望ましい多文化教育について考えること。
授業計画	１．はじめに：教職総合演習から海外教育実習へ ２．多文化主義とは何か？ ３．多文化教育とは何か？ ４．日本のマイノリティ：在日コリアン ５．日本のマイノリティ：アイヌ民族 ６．日本のマイノリティ：ウチナンチュ ７．日本のマイノリティ：外国人労働者 ８．国語教科書にみる多文化教育：アメリカ ９．国語教科書にみる多文化教育：アジア 10．国語教科書にみる多文化教育：ヨーロッパ 11．国語教科書にみる多文化教育：アフリカ 12．オーストラリア(1)：社会と教育 13．オーストラリア(2)：歴史と現在 14．プレゼン実施とレポート提出 15．おわりに：海外教育実習に向けて
授業外における学習（準備学習の内容）	１．全員が発表当番の準備に励むこと。 ２．レポートを全員が書き上げること。
授業方法	１．最初は教員の講義を中心とする。 ２．次に人数に応じてグループ発表とする。 ３．最後に全員が個人レポートを発表する。
評価基準と評価方法	１．平常点30点　２．発表20点　３．レポート50点。
教科書	二宮皓監修『こんなに違う！世界の国語教科書』メディアファクトリー、2010年。 ISBN:978-4-8401-3437-8。
参考書	とくに指定せず授業で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	特別活動論						
担当教員	尾崎　多						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	人間力を高める特別活動の実践的指導力の育成
授業の概要	特別活動は､望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図ることができる人間を育成するという使命をもつ。そのためには、学級活動、児童会活動やクラブ活動、及び、学校行事等を通じて､児童の企画力や実行力を引き出し、主体性や積極性を育てるように指導することが大事である。そうすることで自立した集団と個が育成できる。 講義では新学習指導要領に即して特別活動の意義や内容、具体的な活動や実践方法について解説する。学生諸君は過去の経験を呼び起こしながら、どうすれば有効な指導ができるのか、体験的な集団作りの手法について研究し、グループ討議や共同しての活動案作りをするなかで､特別活動を展開していくために必要な組織的動きや関わりができる力を身について欲しい。
到達目標	１．特別活動の意義や目的､内容の理解する。 ２．活動や行事の立案能力、主体的・積極的に実践できる能力を身に付ける。
授業計画	第１回　ガイダンス　特別活動の教育課程上の位置づけ　その意義と役割 第２回　特別活動の理念・方針の変遷 第３回　学習指導要領に示されている特別活動の目標と内容 第４回　学級活動１　よりよい学級づくりや学校づくりに参画させよう 第５回　学級活動２　自主的・実践的な態度を育てる学級づくりをしよう 第６回　児童会活動・クラブ活動　子どもの企画力や実行力を育てよう 第７回　学校行事１－儀式的行事・文化的行事　子どもに充実感や充足感を味わわせよう 第８回　学校行事２　健康安全・体育的行事　子どもに充実感や充足感を味わわせよう 第９回　学校行事３　遠足・集団宿泊的行事１ 子どもに豊かな経験や体験をさせよう 第１０回　遠足・集団宿泊的行事２ 計画案の検討・交流を図り、より充実した経験や体験をさせよう 第１１回　学校行事４　勤労生産・奉仕的行事　社会奉仕の精神を養う経験や体験をさせよう 第１２回　特別活動の評価　子どもを生かす評価をしよう 第１３回　特別活動と道徳教育との関連　子どもの人間関係調整能力を高めよう 第１４回　特別活動の全体計画と年間指導計画 第１５回　特別活動の諸課題とその解決方策（地域の特色を生かした体験活動、食の指導等）
授業外における学習（準備学習の内容）	１．小学校で行っている特別活動について、インターネットなどで調べる。 ２．学校訪問実習などの際に、学校目標や学級目標、係の活動、学校行事について情報収集する。
授業方法	集中講義は、講義形式、演習形式の授業を組み合わせて行う。
評価基準と評価方法	授業への参加態度（資料作成力や企画力、発表力・発言力やグループ討議での積極的姿勢など）（40%）レポートの内容（40%）、指導力や教職についての適性など（20%）を総合して評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	プリントや資料を配付する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説（特別活動編）』東洋館出版　〔授業中に使用〕
参考書	講義時に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	道徳教育指導法						
担当教員	松岡　靖						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	道徳教育の指導案を倫理学を使って組み立てる。
授業の概要	１．学習指導要領による道徳教育の位置づけについて説明する。 ２．道徳教育の実践を紹介し、その倫理学的な背景を解説する。 ３．指導案作成、模擬授業発表、授業の相互評価を学生が行う。
到達目標	１．学校教育における道徳の役割と指導法を理解する。 ２．道徳教育のあり方を倫理学の視点から振り返る。 ３．学習指導要領を参考にしつつ授業実践力を伸ばす。
授業計画	第１回　オリエンテーション：私語の倫理学 第２回　体験した道徳教育：グループで発表 第３回　指導要領にみる道徳(1)：学校教育の役割 第４回　指導要領にみる道徳(2)：他教科との関係 第５回　道徳の教材研究(1)：自己について 第６回　道徳の教材研究(2)：他者について 第７回　道徳の教材研究(3)：自然・環境について 第８回　道徳の教材研究(4)：集団・社会について 第９回　倫理学からみた道徳：身体の自由は本当か？ 第10回　模擬授業の実践(1)：自己について 第11回　模擬授業の実践(2)：他者について 第12回　模擬授業の実践(3)：自然・環境について 第13回　模擬授業の実践(4)：集団・社会について 第14回　模擬授業の実践(5)：他の内容について 第15回　レポート返却と成績説明
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校の「道徳の時間」の指導案をしっかり準備すること。
授業方法	１．前半は講義を基本にディスカッションを取り入れる。 ２．後半は学生グループによる模擬授業を中心に進める。
評価基準と評価方法	１．平常点30点（コメント、授業貢献など） ２．模擬授業40点（学生同士の相互評価を含む） ３．学期末レポート30点（模擬授業の考察） ４．履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	井ノ口淳三『道徳教育』学文社、2007年。 ISBN:978-4-7620-1661-5
参考書	『小学校学習指導要領解説　道徳編』

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育演習						
担当教員	八木　義雄						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保育界では3歳未満児保育の理論と実践
授業の概要	かつては保育人口全体の５％にも満たなかった低年齢児保育は、保育所保育における中核的存在へと成長した。近年の少子化の進行、共働き家庭の増加、家庭の育児機能の低下のなかで、低年齢児保育は、大きな社会的関心と期待を集めている。こうした状況を踏まえて、本教科ではより高い専門性を求めつつ、乳児保育の新しい動向と最新の研究成果を学んでいきたいと考える。
到達目標	１．乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。　２．保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。　３．３歳未満児の発育・発達について学び、３歳未満児の生活と遊びについて理解する。　４．保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。　５．乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。
授業計画	第1回　はじめに-「乳児」と「乳児保育」の概念 - 第2回　今なぜ乳児保育なのか 第3回　乳児保育の意義と機能 第4回　（1）生まれて間もない生命と向き合う 第5回　（2）初期発達と保育-保育効果研究から- 第6回　（3）保護者支援と乳児保育 第7回　乳児保育制度の歩み 第8回　乳児の健康な生活と保育　（1）乳児のほ乳と摂食 第9回　（2）睡眠と生活リズム 第10回　（3）排泄習慣の自立 第11回　事故と安全 第12回　乳児の発達と遊び（1）保育者との応答関係と遊び 第13回　（2）身体機能の発達と遊び 第14回　（3）象徴機能の発達と遊び 第15回　定期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	テレビ・新聞等を通して今日の保育所をとりまく社会動向に関心をもっていただければと思います。また、保育所、乳児院や子育てひろば等のボランティアやアルバイトを通して低年齢の子どもと接する機会を持つようにしてください。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	レポート又は課題（20）、定期試験（80）
教科書	教科書は使用せず毎回の資料配布を予定している。
参考書	厚生労働省：保育所保育指針、川原佐公他編：乳児保育（建帛社）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育演習						
担当教員	八木　義雄						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保育界では3歳未満児保育の理論と実践
授業の概要	かつては保育人口全体の５％にも満たなかった低年齢児保育は、保育所保育における中核的存在へと成長した。近年の少子化の進行、共働き家庭の増加、家庭の育児機能の低下のなかで、低年齢児保育は、大きな社会的関心と期待を集めている。こうした状況を踏まえて、本教科ではより高い専門性を求めつつ、乳児保育の新しい動向と最新の研究成果を学んでいきたいと考える。
到達目標	１．乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。　２．保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。　３．３歳未満児の発育・発達について学び、３歳未満児の生活と遊びについて理解する。　４．保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。　５．乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。
授業計画	第1回　はじめに-「乳児」と「乳児保育」の概念 - 第2回　今なぜ乳児保育なのか 第3回　乳児保育の意義と機能 第4回　（1）生まれて間もない生命と向き合う 第5回　（2）初期発達と保育-保育効果研究から- 第6回　（3）保護者支援と乳児保育 第7回　乳児保育制度の歩み 第8回　乳児の健康な生活と保育　（1）乳児のほ乳と摂食 第9回　（2）睡眠と生活リズム 第10回　（3）排泄習慣の自立 第11回　事故と安全 第12回　乳児の発達と遊び（1）保育者との応答関係と遊び 第13回　（2）身体機能の発達と遊び 第14回　（3）象徴機能の発達と遊び 第15回　定期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	テレビ・新聞等を通して今日の保育所をとりまく社会動向に関心をもっていただければと思います。また、保育所、乳児院や子育てひろば等のボランティアやアルバイトを通して低年齢の子どもと接する機会を持つようにしてください。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	レポート又は課題（20）、定期試験（80）
教科書	教科書は使用せず毎回の資料配布を予定している。
参考書	厚生労働省：保育所保育指針、川原佐公他編：乳児保育（建帛社）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育基本演習／保育実践演習						
担当教員	春　豊子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	保育実践力を培う
授業の概要	第一には、乳幼児の行動について具体的事例を通しながら子ども理解を深めていく。第二には、保育教材等を収集・作成し、学生同士でそれらを活用した模擬保育を行い、保育の進め方について具体的に考える。第三には自分の保育をどうデザインするか、指導計画から指導案、評価までの保育実務を理解する。
到達目標	乳幼児の発達や特性を生かすための工夫や、その子なりの発達を支えていく指導法を、実践事例を通して考え保育者としての資質を高めていく。
授業計画	第１回　オリエンテーション　：授業概要と課題（自作教材と素話・手遊び） 第２回　保育活動における「保育対象」（１）　：保育所保育指針と保育所保育 第３回　保育活動における「保育対象」（２）　：幼稚園教育要領と幼稚園教育 第４回　保育活動における「保育者」の役割（１）　：子ども理解と観察（ビデオ視聴を通して） 第５回　保育活動における「保育者」の役割（２）　：保育者の専門性 第６回　遊びによる総合的指導　：保育における遊びの意味 第７回　保育活動と行事　：行事を生かした保育 第８回　環境の構成と保育の展開　：子どもとともにつくり出す保育環境 第９回　指導計画の考え方とたて方（１）　：自作教材を使った保育指導案の作成 第１０回　指導計画の考え方とたて方（２）　：自作教材を使った保育指導案の検討 第１１回　模擬保育（１）　：作成した指導案での模擬保育と相互評価 第１２回　模擬保育（２）　：作成した指導案での模擬保育と相互評価 第１３回　模擬保育（３）　：作成した指導案での模擬保育と相互評価 第１４回　保育評価と記録　：保育における記録の意義と方法 第１５回　まとめと授業評価　：保育者としての課題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：自作教材を作成したり、模擬保育を行ったりするための、資料集めをしておく。 授業後学習：課題解決に向けて、授業内で得た情報を整理する。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業参加態度（意欲・関心・小テスト　など）　４０％ 提出物（自作教材、指導案を含むレポート　など）４０％ 模擬保育の内容　２０％　などを総合して評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	「幼児理解と保育援助」　ミネルヴァ書房　　「保育方法」光生館 「文部科学省　幼稚園教育要領解説」　平成２０年１０月　　フレーベル館 「厚生労働省編　保育所保育指針解説書」　フレーベル館

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育基本演習／保育実践演習						
担当教員	春　豊子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	保育実践力を培う
授業の概要	第一には、乳幼児の行動について具体的事例を通しながら子ども理解を深めていく。第二には、保育教材等を収集・作成し、学生同士でそれらを活用した模擬保育を行い、保育の進め方について具体的に考える。第三には自分の保育をどうデザインするか、指導計画から指導案、評価までの保育実務を理解する。
到達目標	乳幼児の発達や特性を生かすための工夫や、その子なりの発達を支えていく指導法を、実践事例を通して考え保育者としての資質を高めていく。
授業計画	第１回　オリエンテーション　：授業概要と課題（自作教材と素話・手遊び） 第２回　保育活動における「保育対象」（１）　：保育所保育指針と保育所保育 第３回　保育活動における「保育対象」（２）　：幼稚園教育要領と幼稚園教育 第４回　保育活動における「保育者」の役割（１）　：子ども理解と観察（ビデオ視聴を通して） 第５回　保育活動における「保育者」の役割（２）　：保育者の専門性 第６回　遊びによる総合的指導　：保育における遊びの意味 第７回　保育活動と行事　：行事を生かした保育 第８回　環境の構成と保育の展開　：子どもとともにつくり出す保育環境 第９回　指導計画の考え方とたて方（１）　：自作教材を使った保育指導案の作成 第１０回　指導計画の考え方とたて方（２）　：自作教材を使った保育指導案の検討 第１１回　模擬保育（１）　：作成した指導案での模擬保育と相互評価 第１２回　模擬保育（２）　：作成した指導案での模擬保育と相互評価 第１３回　模擬保育（３）　：作成した指導案での模擬保育と相互評価 第１４回　保育評価と記録　：保育における記録の意義と方法 第１５回　まとめと授業評価　：保育者としての課題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：自作教材を作成したり、模擬保育を行ったりするための、資料集めをしておく。 授業後学習：課題解決に向けて、授業内で得た情報を整理する。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業参加態度（意欲・関心・小テスト　など）　４０％ 提出物（自作教材、指導案を含むレポート　など）４０％ 模擬保育の内容　２０％　などを総合して評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	「幼児理解と保育援助」　ミネルヴァ書房　　「保育方法」光生館 「文部科学省　幼稚園教育要領解説」　平成２０年１０月　　フレーベル館 「厚生労働省編　保育所保育指針解説書」　フレーベル館

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見　陽子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保育所保育の理解
授業の概要	テーマ：保育所の機能や社会的役割を理解すると共に、保育所保育の目的、目標、内容、方法、子ども理解と援助、保育の環境構成等の在り方及び保育者の役割について理解する。 到達目標：保育所保育の意義とあり方を理解する 概　要：保育所における保育の特性、保育の内容と方法、実践の考え方と展開の在り方を考える。
到達目標	保育所保育の特性と保育の基本を理解する。
授業計画	第１回　　保育所保育の意義と特性 第２回　　子どもの発達と保育 第３回　　保育所の役割と保育所保育の目的 第４回　　保育の基本とその原理（１） 第５回　　保育の基本とその原理（２） 第６回　　保育の内容と方法（１） 第７回　　保育の内容と方法（２） 第８回　　保育の環境とその構成（１） 第９回　　保育の環境とその構成（２） 第10回　　保育士の役割と援助（１）－３歳未満児を中心に 第11回　　保育士の役割と援助（２）－３歳以上児を中心に 第12回　　保護者支援と子育て支援－家庭・地域との連携 第13回　　保育の計画と評価 第14回　　保育士の専門性と保育の質の向上 第15回　　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	保育所での子どもとのかかわりの経験をもつ
授業方法	講義
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　レポート２０点、テスト８０点
教科書	寺見陽子編　「乳幼児保育の理論と実際」　ミネルバ書房　2008 保育所保育指針
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理A						
担当教員	山口　照代						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	今、求められている「保育士像（資質と役割）」
授業の概要	保育士や幼稚園教諭は倫理観に基づく専門的な知識や技術及び判断を備えた専門職である。そのようなプロの、保育者になっていくためには、どのような経験と資質が必要かについて実践例などを交え指導する。
到達目標	保育者として働く自分の姿がイメージし、自己課題を明確にする。
授業計画	１回目：序論＝「保育者になるということ」（動機・資格・免許等）・「授業計画や指導方針」 ２回目：「保育者になるための学び」 ３回目：「保育者に求められる資質とは」 ４回目：「職場で学びあう専門家として」 ５回目：「子どもの育ちの危機と子育て支援」・「学びの振り返り（小テスト）」 ６回目　「現代社会の変化と教育することの意味」①「子育て支援と地域・家庭の教育力 ７回目：　②実践研究能力の向上 ８回目：　③組織的活動能力の向上 ９回目：　④「異文化理解保育」「特別支援教育」「ジェンダー」等 １０回目：保育者の職務と生活①保育の倫理 １１回目：　②権利と研修 １２回目：　③危機管理 １３回目：　④演習 １４回目：「日本の保育者の歩み」・「保育者になる人へのメッセージ」（ビデオ他） １５回目：まとめ「保育者の専門性って何だろう（自己課題）」「最終試験」
授業外における学習（準備学習の内容）	現場体験（保育所や幼稚園の見学やボランティア）と保育・幼児教育関係図書（月刊誌）、研究事例等での学び 保育・幼児教育における社会の流れ（情報）を収集する。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	毎回授業後の気づき（提出と内容）　２０％ 小テスト　２０％ 「保育者になる私」（自己課題）　２０％ 最終試験　４０％
教科書	新時代の保育双書「今に生きる保育者論（第２版）」（株）みらい　（秋田喜代美　編集代表） その他必要な資料、レジメは配布
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理B						
担当教員	寺見　陽子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保育所における保育の実践的なあり方と保育者の役割を理解する
授業の概要	テーマ：保育所保育の目的、方法、内容を踏まえた計画・実践のあり方について学理解する。 到達目標：保育における目的、方法、内容について具体的に理解し、計画立案（Ｐ）及び実践（Ｄ）、反省・評価（Ｃ）・見直し（Ａ）のあり方を学ぶとともに、保育の専門性を生かした保育を実現する力量を身につける。 概要：保育実践事例を通して、保育の実践的な展開の仕方を学ぶ方法やあり方、環境構成などについて考える
到達目標	保育における保育の計画立案と実践、保育の記録と省察・評価のあり方を知る。
授業計画	第１回　保育所の役割と保育所保育の目的ー保育所保育の意義と特性 第２回　保育の基本とその原理 第３回　保育の内容と方法、環境の構成 第４回　保育の計画と実践ー保育課程と指導計画 第５回　保育の実践と展開① 第６回　保育の実践と展開② 第７回　保育の実践と展開③ 第８回　保育の記録と省察・評価① 第９回　保育の記録と省察・評価② 第10回　保育カンファレンスと保育の見直しに 第11回　保育士の役割と援助（２）－３歳以上児を中心に 第12回　保護者支援と子育て支援ー家庭・地域との連携 第13回　保育の計画と評価 第14回　保育士の専門性と保育の質の向上 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	保育所にボランティアで出かけるなどして、子どもや保育の様子、保育者の姿の触れて学ぶ機会を多く持つように心がけてください。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　レポート２０点、テスト８０点
教科書	寺見陽子編　「乳幼児保育の理論と実際」　ミネルバ書房　2008 保育所保育指針
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	山口　照代						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	今、求められている「保育士像（資質と役割）」
授業の概要	保育士や幼稚園教諭は倫理観に基づく専門的な知識や技術及び判断を備えた専門職である。そのようなプロの、保育者になっていくためには、どのような経験と資質が必要かについて実践例などを交え指導する。
到達目標	保育者として働く自分の姿がイメージし、自己課題を明確にする。
授業計画	１回目：序論＝「保育者になるということ」（動機・資格・免許等）・「授業計画や指導方針」 ２回目：「保育者になるための学び」 ３回目：「保育者に求められる資質とは」 ４回目：「職場で学びあう専門家として」 ５回目：「子どもの育ちの危機と子育て支援」・「学びの振り返り（小テスト）」 ６回目　「現代社会の変化と教育することの意味」①「子育て支援と地域・家庭の教育力 ７回目：　②実践研究能力の向上 ８回目：　③組織的活動能力の向上 ９回目：　④「異文化理解保育」「特別支援教育」「ジェンダー」等 １０回目：保育者の職務と生活①保育の倫理 １１回目：　②権利と研修 １２回目：　③危機管理 １３回目：　④演習 １４回目：「日本の保育者の歩み」・「保育者になる人へのメッセージ」（ビデオ他） １５回目：まとめ「保育者の専門性って何だろう（自己課題）」「最終試験」
授業外における学習（準備学習の内容）	現場体験（保育所や幼稚園の見学やボランティア）と保育・幼児教育関係図書（月刊誌）、研究事例等での学び 保育・幼児教育における社会の流れ（情報）を収集する。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	毎回授業後の気づき（提出と内容）　２０％ 小テスト　２０％ 「保育者になる私」（自己課題）　２０％ 最終試験　４０％
教科書	新時代の保育双書「今に生きる保育者論（第２版）」（株）みらい　（秋田喜代美　編集代表） その他必要な資料、レジメは配布
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育指導法						
担当教員	春　豊子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもと共に創る保育の方法
授業の概要	保育内容や保育方法についての基本的な考え方を学び、子どもを主体とした保育のあり方について、自分なりの考えを深めていく。また、具体的事例を通して、理論と実践との融合を図っていく。
到達目標	保育者として理解しておくべき基礎的知識を習得し、保育を構想する力や総合的に指導する力を培うことを目指す。
授業計画	第１回　オリエンテーション　：授業概要の説明、幼稚園教育要領と保育所保育指針 第２回　保育の基本と保育方法　：保育の基本 第３回　環境の構成と保育の展開　：「環境による保育」とは 第４回　一人一人に応じた保育　：「幼児にとってふさわしい生活」とは 第５回　遊びの指導　：「遊びを通しての指導」とは 第６回　生活の指導　：道徳性の芽生え 第７回　発達に応じた指導　：発達の特徴を生かす 第８回　さまざまな保育形態　：保育形態と保育方法 第９回　学び合い、育ち合うクラスづくり　：個と集団の関係 第１０回　園内外の環境を生かした保育　：身近な環境とのかかわり 第１１回　指導計画の立て方　：長期指導計画、短期指導計画 第１２回　記録と評価　：保育活動と保育評価の関連 第１３回　幼児期の教育と小学校教育　：小学校教育との連携 第１４回　保育者に求められる専門性（１）　：保育活動における保育者の役割 第１５回　保育者に求められる専門性（２）　：絵本の読み聞かせ（ゲストスピーカー招聘）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に沿って、教科書の該当するところを読んでおく。 授業後学習：授業当日に配布するレジュメに沿って、学んだところを整理しておく。
授業方法	講義形式　演習形式　など
評価基準と評価方法	授業参加態度（意欲・関心・意見発表　など）３０％ 提出物（毎回提出する「私の気づき」　指導案を含むレポート　など）３０％ 授業内容の理解度を確認する小テスト　　４０％　を総合して評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行う。
教科書	新保育シリーズ　「保育方法」　神長美津子・塩美佐枝　編著　光生館
参考書	文部科学省　幼稚園教育要領解説　平成２０年１０月　フレーベル館 厚生労働省編　保育所保育指針解説書　フレーベル館

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育指導法						
担当教員	春　豊子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもと共に創る保育の方法
授業の概要	保育内容や保育方法についての基本的な考え方を学び、子どもを主体とした保育のあり方について、自分なりの考えを深めていく。また、具体的事例を通して、理論と実践との融合を図っていく。
到達目標	保育者として理解しておくべき基礎的知識を習得し、保育を構想する力や総合的に指導する力を培うことを目指す。
授業計画	第１回　オリエンテーション　：授業概要の説明、幼稚園教育要領と保育所保育指針 第２回　保育の基本と保育方法　：保育の基本 第３回　環境の構成と保育の展開　：「環境による保育」とは 第４回　一人一人に応じた保育　：「幼児にとってふさわしい生活」とは 第５回　遊びの指導　：「遊びを通しての指導」とは 第６回　生活の指導　：道徳性の芽生え 第７回　発達に応じた指導　：発達の特徴を生かす 第８回　さまざまな保育形態　：保育形態と保育方法 第９回　学び合い、育ち合うクラスづくり　：個と集団の関係 第１０回　園内外の環境を生かした保育　：身近な環境とのかかわり 第１１回　指導計画の立て方　：長期指導計画、短期指導計画 第１２回　記録と評価　：保育活動と保育評価の関連 第１３回　幼児期の教育と小学校教育　：小学校教育との連携 第１４回　保育者に求められる専門性（１）　：保育活動における保育者の役割 第１５回　保育者に求められる専門性（２）　：絵本の読み聞かせ（ゲストスピーカー招聘）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に沿って、教科書の該当するところを読んでおく。 授業後学習：授業当日に配布するレジュメに沿って、学んだところを整理しておく。
授業方法	講義形式　演習形式　など
評価基準と評価方法	授業参加態度（意欲・関心・意見発表　など）３０％ 提出物（毎回提出する「私の気づき」　指導案を含むレポート　など）３０％ 授業内容の理解度を確認する小テスト　　４０％　を総合して評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行う。
教科書	新保育シリーズ　「保育方法」　神長美津子・塩美佐枝　編著　光生館
参考書	文部科学省　幼稚園教育要領解説　平成２０年１０月　フレーベル館 厚生労働省編　保育所保育指針解説書　フレーベル館

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（施設）						
担当教員	吉田　隆三						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	児童福祉施設の保育士のあるべき姿を学ぶ
授業の概要	児童福祉施設で実際に子どもや利用者と生活を共にするなかで、子どもや利用者の理解 施設で働く保育士の職務、職員間の連携・施設の役割や責任などの理解、家庭環境の理解 などを実践的に学ぶ。
到達目標	施設で過ごす子どもや、利用者さんとの共感的、応答的なかかわり方や援助技術・態度 を身につける。 保育士としての職業倫理を身につける。
授業計画	授業は実習先である児童福祉施設において行われる。１０日間にわたる概要は次の通りであるが実習先の事情により、内容が多少変化する場合もある。 ●実習前段階として： 　＊学内での事前指導（実習の心得、諸注意、実習意義・目的・内容・保法等、それぞれの施設の対象児・者の特徴やかかわり方、児童福祉施設に関係する制度・法律・社会背景に関する理解を深める。） 　＊実習事前訪問（施設の理念、方針、担当に関して、注意事項等の確認） ●第１段階（１～７日目）： 　観察実習（実習施設の組織・種類・特性の理解、職員の職種（専門家）の働きと役割・連携の取り方、子どもや利用者のニーズ、施設の一日の流れなどを理解する。） ●第２段階（８～１０日目）： 　観察に加え部分的な参加を伴う参加実習（子どもや利用者へのサポートやかかわりを実際に保育士の補助しながら体験する。また、環境整備や教材準備等を補助する。援助計画を理解する。） ●実習事後段階として： 　＊事後指導（自己評価・反省、感想・レポートの提出、実習報告会への出席、実習記録の提出、自己課題の達成度確認等） 　＊実習全体を通して、実習の記録をする。
授業外における学習（準備学習の内容）	●児童福祉施設の見学、施設でのボランティアを体験する 　＊現代の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、子どもたちの育ちの様子等に関する情報をまとめる。 　＊児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。
授業方法	評価方法： 　実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる）　２０％ 　自己課題の明確化　２０％ 　諸手続きへの取り組み　２０％ 　施設先の実習評価（出席含め）　４０％
評価基準と評価方法	評価方法： 　実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる）　２０％ 　自己課題の明確化　２０％ 　諸手続きへの取り組み　２０％ 　施設先の実習評価（出席含め）　４０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（事前事後指導）						
担当教員	山口　照代・吉田　隆三						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	実習に臨むための学び
授業の概要	保育所と児童福祉施設での実習に際して、その教育効果を高めるべく実習の意義、目的、方法や内容に関して指導する。保育所・児童福祉施設に関して、その目的や役割、内容と機能等の理解を図る。知識と技術をどのように実践に活用するか。子どもとかかわるための心構えや態度等を習得する。事後の指導では実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。
到達目標	・実習に前向きに取り組むために自己課題を明確にする ・次週の目的、意義、方法など全般にわたって理解する。 ・実習に入るための手続きを手順に従ってする。 ・実習計画を知り、準備（技術・態度）する。
授業計画	事前指導 第　１回目　保育所実習の意義・目的・方法・内容の理解 第　２回目　施設実習の意義・目的・方法・内容の理解 第　３回目　保育士や職員の職務内容に関する理解と心構えについて（保育所） 第　４回目　（施設） 第　５回目　児童福祉施設とは（療育・養育の実際） 第　６回目　実習の実際：ビデオ教材による保育所実習 第　７回目　：ビデオ教材による施設実習 第　８回目　子ども理解と保育士のかかわり（保育所） 第　９回目　（施設） 第　９回目　実習記録について（意義、種類、目的、内容等）→保育所・施設 第１０回目 第１１回目　指導計画について（保育計画・指導計画・援助計画）→保育所・施設 第１２回目　模擬実習① 第１３回目　模擬実集②　直前指導（自己課題の明確化・諸手続等） 第１４回目　直前指導（自己課題の明確化） 第１５回目　実習報告会、（体験のまとめと振り返り、達成度自己評価）保育所・施設
授業外における学習（準備学習の内容）	事前：保育所、児童福祉施設に関する概要とそこで働く保育士やその他の職員に関する情報を関係図書等で整理する。 現在の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、環境等に関する動きを整理し、自分なりの思いをまとめる 保育所や児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。 事後：実習先へのお礼状。実習記録の受け取り。実習レポートの提出
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	実習目的や方法等に関する理解度（小テスト）３０％ 実習に向う自己課題の明確化　３０％ 資料作成への取り組み　２０％ 事務手続き　２０％
教科書	「実習の手引き」・プリント資料
参考書	「保育所保育指針」（解説書）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）						
担当教員	山口　照代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	保育所・園の環境に溶け込み、保育士や子どもと直接的、具体的にかかわり保育を体験する。
授業の概要	保育所の生活に参加する。
到達目標	・乳幼児への理解を深める ・保育所や役割と機能、保育の流れ、そこで働く保育士や他の職員の職務について学ぶ。 .
授業計画	授業は、保育所現場での実習の形で進められる。１０日間の実習期間における概要は次のとおりであるが、実習先の事情により内容が多少変化する場合もある。 実習前段階：　（学　内）実習事前指導（実習の心得、諸注意、実習目的・内容・方法、保育所や保育士、子ども理解など） （保育所）オリエンテーションを受ける （諸注意、心得、実習施設の概要・理念、保育方針・指導方針、援助計画の確認、指導者との打ち合わせ等） 第１段階（１～７日目）・保育観察実習 実習保育所の組織、職員のチームワーク力、保育の流れと子どもの生活のようす、保育士の子ども及び保護者へのかかわりと指導・援助の実際、環境への気配りや役割、教材準備保育所の環境等 第２段階（８～１０日目）・観察に加え部分参加実習 保育士の補助業務や自ら子どもとかかわる、指導計画立案のもと部分的に遊びや生活面での指導を実践をする、自己評価反省をする等 保育所での実習全体を通して・実習の記録をする 実習体験の記録、児童理解のための記録、気づき、自己評価・反省の記録、指導計画立案、自己課題の達成確認等 実習後段階：　（学　内）実習全体を通した自己評価・反省、体験レポートの提出、実習報告会での振り返り、「実習記録」の提出、今後の学習への課題の明確化等
授業外における学習（準備学習の内容）	実習前：保育所・園でのボランティア活動を積極的にするなどにより、保育所の環境に馴染んでおく。 子どもの好きな絵本や紙芝居、手遊びやゲーム、子どもへの語りかけなど保育指導の具体的な資料を収集する。 漢字力、文章表現力などを身につける
授業方法	保育所・園における実習
評価基準と評価方法	課題の明確化　　２０％ 保育所の評価　　５０％ 実習記録の内容　　２０％（部分指導計画・実習日誌・エピソード記録） 自己評価（達成度）　１０％
教科書	「実習の手引き（冊子）」・事前指導（授業）で配布した資料
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習II（保育所）						
担当教員	山口　照代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	保育実習Ｉの体験を踏まえた、総合的実習を行い「保育実習」を集大成する。
授業の概要	指導計画を立て、その指導計画をもとに、半日あるいは前日の保育を実際に責任を持って、主体的に実践する。 家庭や保護者、地域の実態にふれる。
到達目標	・保育士として求められている資質・能力・技術を習得する。 ・家庭や地域での子どもの生活実態に触れ、家庭福祉ニーズに対する理解力。判断力を養う。 ・子育てを支援する具体的な技術、能力を養う。 ・将来の自身の「保育士像」をイメージする。
授業計画	授業は、保育所での実習を通して行われ、１０日間の実習期間中の概要は次の通りである。実習先の事情により内容が多少変化する場合もある。 実習前・・・・・・・保育所でのオリエンテーションを受ける 実習内容・・・・・・観察・参加（部分・全体）実習 ①部分指導・・・・・４～５回（保育実習Ｉでの経験を踏まえ） ②全体（責任）指導・１～２日（保育士に代わって指導計画を立案し、半日または終日にわたる保育を実践する保護者とかかわる等） ②地域子育て支援事業を経験する・・期間中をとおして経験する ③子どもに関する観察を深める・・・期間中を通して、ねらいをもって事例をあげて検証し記録する。 ④実習の記録をする・・・・・・・・期間中を通して、自己課題に沿った活動、日々の実習内容、自己評価反省、指導者からの指導・助言内容、気づき、実習全般にわたる感想、自己課題達成について等の記録をする。 ⑤指導計画を立案する・・・・・・・部分および責任実習に際して、指導内容、教材準備、環境への配慮、子どもへの個別配慮等を盛り込み計画を立てる。担任保育士から指導を受ける。 ⑥実践の評価反省をする ⑦実習反省会に参加し、指導助言を受ける。 ⑧実習中、教員の訪問指導を受ける。 実習後・・・・・・・実習報告会に参加し、振り返りをする。実習記録・レポートを提出する。保育士になる姿をイメージして今後の学習課題を明確にする。
授業外における学習（準備学習の内容）	保育所や地域で実施される子育て支援事業へのボランティア参加 保育実習Ｉを踏まえた学習課題への取り組み、研究
授業方法	実習保育所における実習
評価基準と評価方法	課題の明確化　２０％ 実習保育所からの評価　４０％ 実習記録内容、レポートの提出等　３０％ 達成度（自己評価）　１０％
教科書	「実習の手引き」（冊子）、事前指導で配布したプリント
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習III（施設）						
担当教員	吉田　隆三						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	保育実習Ｉ（施設）の経験を踏まえ、総合的に実習する。
授業の概要	療育・養育のあり方や地域の中での施設の役割などを理解する、保育士やその他の専門職員の働きの実態に触れ連携の大切さや専門性について理解する、援助計画や支援計画を立案し指導する、子どもや利用者、保護者とのかかわりを通して理解を深める。
到達目標	児童福祉施設で、保育士として、職務を果たすための基本的な能力、態度を身につける
授業計画	授業は、施設での実習の形で進められる。１０日間にわたる概要は次のとおりであるが、実習先の事情により内容が多少変化する場合もある。 実習前段階：　オリエンテーションを受ける （諸注意、心得、実習施設の概要・理念、運営方針・指導方針、援助計画の確認、指導者との打ち合わせ等） 実習中　　：部分参加 主体性を持って、養護、療育の実際参加する。子どもや利用者とかかわる。 施設の組織、職員のチームワーク力、環境への留意などの観察 ①援助計画の立案 ②計画に基づいて実践する ③実践の評価反省をする ④施設が行う地域におけるイベント、事業などに参加する ⑤研究的な視点をもって子どもや利用者とかかわる ⑥実習体験の記録、子どもや利用者理解のための記録、気づき、実践の自己評価・反省の記録、課題の達成確認等 ⑦教員による訪問指導を受ける 実習後段階：　実習報告会に参加する、全体を通した自己評価・反省・レポートの提出、実習の振り返り、「実習記録」の提出、施設で働くことをイメージし、今後の学習への課題の明確化等
授業外における学習（準備学習の内容）	実習前：施設でのボランティア活動をする
授業方法	施設における実習
評価基準と評価方法	課題の明確化　　３０％ 施設の評価　　４０％ 実習記録の内容　　２０％ 自己評価（達成度）１０％
教科書	実習の手引き・授業に使用したプリント
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導I						
担当教員	山口　照代・吉田　隆三						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	実習に臨むための学び
授業の概要	保育所と児童福祉施設での実習に際して、その教育効果を高めるべく実習の意義、目的、方法や内容に関して指導する。保育所・児童福祉施設に関して、その目的や役割、内容と機能等の理解を図る。知識と技術をどのように実践に活用するか。子どもとかかわるための心構えや態度等を習得する。事後の指導では実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。
到達目標	・実習に前向きに取り組むために自己課題を明確にする ・次週の目的、意義、方法など全般にわたって理解する。 ・実習に入るための手続きを手順に従ってする。 ・実習計画を知り、準備（技術・態度）する。
授業計画	事前指導 第　１回目　保育所実習の意義・目的・方法・内容の理解 第　２回目　施設実習の意義・目的・方法・内容の理解 第　３回目　保育士や職員の職務内容に関する理解と心構えについて（保育所） 第　４回目　（施設） 第　５回目　児童福祉施設とは（療育・養育の実際） 第　６回目　実習の実際：ビデオ教材による保育所実習 第　７回目　：ビデオ教材による施設実習 第　８回目　子ども理解と保育士のかかわり（保育所） 第　９回目　（施設） 第　９回目　実習記録について（意義、種類、目的、内容等）→保育所・施設 第１０回目 第１１回目　指導計画について（保育計画・指導計画・援助計画）→保育所・施設 第１２回目　模擬実習① 第１３回目　模擬実集②　直前指導（自己課題の明確化・諸手続等） 第１４回目　直前指導（自己課題の明確化） 第１５回目　実習報告会、（体験のまとめと振り返り、達成度自己評価）保育所・施設
授業外における学習（準備学習の内容）	事前：保育所、児童福祉施設に関する概要とそこで働く保育士やその他の職員に関する情報を関係図書等で整理する。 現在の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、環境等に関する動きを整理し、自分なりの思いをまとめる 保育所や児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。 事後：実習先へのお礼状。実習記録の受け取り。実習レポートの提出
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	実習目的や方法等に関する理解度（小テスト）３０％ 実習に向う自己課題の明確化　３０％ 資料作成への取り組み　２０％ 事務手続き　２０％
教科書	「実習の手引き」プリント資料
参考書	「保育所保育指針」（解説書）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導I						
担当教員	山口　照代・吉田　隆三						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	実習に臨むための学び
授業の概要	保育所と児童福祉施設での実習に際して、その教育効果を高めるべく実習の意義、目的、方法や内容に関して指導する。保育所・児童福祉施設に関して、その目的や役割、内容と機能等の理解を図る。知識と技術をどのように実践に活用するか。子どもとかかわるための心構えや態度等を習得する。事後の指導では実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。
到達目標	・実習に前向きに取り組むために自己課題を明確にする ・次週の目的、意義、方法など全般にわたって理解する。 ・実習に入るための手続きを手順に従ってする。 ・実習計画を知り、準備（技術・態度）する。
授業計画	事前指導 第　１回目　保育所実習の意義・目的・方法・内容の理解 第　２回目　施設実習の意義・目的・方法・内容の理解 第　３回目　保育士や職員の職務内容に関する理解と心構えについて（保育所） 第　４回目　（施設） 第　５回目　児童福祉施設とは（療育・養育の実際） 第　６回目　実習の実際：ビデオ教材による保育所実習 第　７回目　：ビデオ教材による施設実習 第　８回目　子ども理解と保育士のかかわり（保育所） 第　９回目　（施設） 第　９回目　実習記録について（意義、種類、目的、内容等）→保育所・施設 第１０回目 第１１回目　指導計画について（保育計画・指導計画・援助計画）→保育所・施設 第１２回目　模擬実習① 第１３回目　模擬実集②　直前指導（自己課題の明確化・諸手続等） 第１４回目　直前指導（自己課題の明確化） 第１５回目　実習報告会、（体験のまとめと振り返り、達成度自己評価）保育所・施設
授業外における学習（準備学習の内容）	事前：保育所、児童福祉施設に関する概要とそこで働く保育士やその他の職員に関する情報を関係図書等で整理する。 現在の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、環境等に関する動きを整理し、自分なりの思いをまとめる 保育所や児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。 事後：実習先へのお礼状。実習記録の受け取り。実習レポートの提出
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	実習目的や方法等に関する理解度（小テスト）３０％ 実習に向う自己課題の明確化　３０％ 資料作成への取り組み　２０％ 事務手続き　２０％
教科書	「実習の手引き」プリント資料
参考書	「保育所保育指針」（解説書）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導II						
担当教員	山口　照代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	保育実習１の経験を踏まえ、より深く保育全般に参加する（保育実習Ⅱ）ための学び。
授業の概要	・実習に臨むにあたって、より深く保育所（園）に求められている役割と機能、保育士に求められている資質（専門的知識や技術および判断力）等に関する指導を行う。また、学生自身の自己理解をさせるとともに、保育士の倫理観、人間性などと対比させ指導する。 ・実習の計画と具体的な準備（教材研究他）をさせる。
到達目標	・実習課題を明確にし、具体的に実習内容を計画できる。
授業計画	第　１回目：実習日誌の記録について① 第　２回目：　　②演習 第　３回目：指導計画案立案について① 第　４回目：　　②演習 第　５回目：　　③演習 第　６回目：エピソード記録について① 第　７回目：　　②演習 第　８回目：実習内容研究① 第　９回目：　　②演習（教材作成含め） 第１０回目：　　③演習（　　同　　） 第１１回目：保育士の、新たな役割、倫理観等の理解 第１２回目：危機管理、育児支援に関する理解 第１３回目：解題の明確化、学びの確認 第１４回目：直前手続きの確認
授業外における学習（準備学習の内容）	・保育現場体験（ボランティア他）、関係図書（月刊誌含む）、地域子育て支援コミュニティールーム（まつぼっくり）への積極的な参加などによる気づき ＊全般的に保育実習Ｉに準じる
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	・実習課題の明確化　　５０パーセント ・演習内容・提出　　３０パーセント ・事務手続き、態度他　２０パーセント
教科書	・「実習の手引き」（冊子）・そのた必要な資料、レジメは配布
参考書	・「実習における遊びの援助と展開」（萌文書林）他

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導II						
担当教員	山口　照代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	保育実習１の経験を踏まえ、より深く保育全般に参加する（保育実習Ⅱ）ための学び。
授業の概要	・実習に臨むにあたって、より深く保育所（園）に求められている役割と機能、保育士に求められている資質（専門的知識や技術および判断力）等に関する指導を行う。また、学生自身の自己理解をさせるとともに、保育士の倫理観、人間性などと対比させ指導する。 ・実習の計画と具体的な準備（教材研究他）をさせる。
到達目標	・実習課題を明確にし、具体的に実習内容を計画できる。
授業計画	第　１回目：実習日誌の記録について① 第　２回目：　　②演習 第　３回目：指導計画案立案について① 第　４回目：　　②演習 第　５回目：　　③演習 第　６回目：エピソード記録について① 第　７回目：　　②演習 第　８回目：実習内容研究① 第　９回目：　　②演習（教材作成含め） 第１０回目：　　③演習（　　同　　） 第１１回目：保育士の、新たな役割、倫理観等の理解 第１２回目：危機管理、育児支援に関する理解 第１３回目：解題の明確化、学びの確認 第１４回目：直前手続きの確認
授業外における学習（準備学習の内容）	・保育現場体験（ボランティア他）、関係図書（月刊誌含む）、地域子育て支援コミュニティールーム（まつぼっくり）への積極的な参加などによる気づき ＊全般的に保育実習Ｉに準じる
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	・実習課題の明確化　　５０パーセント ・演習内容・提出　　３０パーセント ・事務手続き、態度他　２０パーセント
教科書	・「実習の手引き」（冊子）・そのた必要な資料、レジメは配布
参考書	・「実習における遊びの援助と展開」（萌文書林）他

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（環境）						
担当教員	上中　修						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「環境を通して行う教育」の意義と援助法の理解
授業の概要	幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や学習の基盤を培います。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学びます。 さらによき共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化などについて学び、実際に演習を行って実践的な力を養成していきます。
到達目標	幼児の生活の場となる環境および幼児と環境とのかかわりについて理解を深めます。さらに、この理解をもとに、個々の幼児にとって望ましい環境とは何かについて自分なりに考えをまとめることができることを目指します。
授業計画	第１回 保育内容環境の意義 第２回 保育内容環境と幼児理解 第３回 好奇心・探求心を育てる指導 第４回 思考力の芽生えを育む指導 第５回 人的環境としての友達、保育者 第６回 物的環境としての園具・遊具・素材 第７回 前半授業のまとめと試験 第８回 自然環境としての動植物 第９回 日常生活の中での興味や関心 第10回 地域・行事との関わり 第11回 環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第12回 乳幼児の安全環境 第13回 保育内容環境からみた実践的課題 第14回 食農教育・食育 第15回 後半授業のまとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の中で示す課題を次の授業までに調べて授業に臨んで下さい。 授業後学習：教科書だけでなく、配布したプリントもしっかりと読んで学びを定着させて下さい。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30% 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。
教科書	『新保育ライブラリー 保育内容環境』 小田豊編著 北大路書房 ISBN978-4-7628-2655-9
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（環境）						
担当教員	上中　修						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「環境を通して行う教育」の意義と援助法の理解
授業の概要	幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や学習の基盤を培います。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学びます。 さらによき共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化などについて学び、実際に演習を行って実践的な力を養成していきます。
到達目標	幼児の生活の場となる環境および幼児と環境とのかかわりについて理解を深めます。さらに、この理解をもとに、個々の幼児にとって望ましい環境とは何かについて自分なりに考えをまとめることができることを目指します。
授業計画	第１回 保育内容環境の意義 第２回 保育内容環境と幼児理解 第３回 好奇心・探求心を育てる指導 第４回 思考力の芽生えを育む指導 第５回 人的環境としての友達、保育者 第６回 物的環境としての園具・遊具・素材 第７回 前半授業のまとめと試験 第８回 自然環境としての動植物 第９回 日常生活の中での興味や関心 第10回 地域・行事との関わり 第11回 環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第12回 乳幼児の安全環境 第13回 保育内容環境からみた実践的課題 第14回 食農教育・食育 第15回 後半授業のまとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の中で示す課題を次の授業までに調べて授業に臨んで下さい。 授業後学習：教科書だけでなく、配布したプリントもしっかりと読んで学びを定着させて下さい。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30% 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。
教科書	『新保育ライブラリー 保育内容環境』 小田豊編著 北大路書房 ISBN978-4-7628-2655-9
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（健康）						
担当教員	倉　真智子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの健康教育
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体つくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康において様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。
到達目標	幼児が健康で安全な生活が営めるとはどういうことなのかを考える。そのためには幼児期の発育・発達を捉え、援助する能力をつけなければならない。また、生活習慣や運動遊びが幼児に健康にどのような影響を及ぶすのかを考え、健康を支援する保育者としての資質を高める。
授業計画	１回　オリエンテーション ２回　領域「健康」のねらいと内容 ３回　子どもの身体的発育 ４回　子どもの精神的発達 ５回　基本的生活習慣（食事、排泄） ６回　基本的生活習慣（睡眠、清潔） ７回　基本的生活習慣（衣服の着衣脱） ８回　運動の発達的意義 ９回　子どもの運動遊びの変化を考える 10回　成長・発達段階による遊びの特徴(0～3歳) 11回　発達段階による遊びの特徴(4～5歳) 12回　運動遊びの指導のポイント 13回　運動遊びと心理的要因 14回　安全教育(リスクとハザード) 15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高めておく。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点(40%)、レポート(20%)、試験(40%) 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の観点で行なう。
教科書	「保育内容　健康」　建帛社　河邉貴子
参考書	「保育と幼児期の運動遊び」　岩崎洋子　萌文書院

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（健康）						
担当教員	倉　真智子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの健康教育
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となること健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康において様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康にどのような影響を及ぼすのかを考え、健康を支援する保育者としての資質を高めていく。
到達目標	幼児が健康で安全な生活を営めるとはどういうことなのかを考える。そのためには幼児期の発達・発育を捉え、援助する能力をつけなければならない。また、生活習慣や運動遊びが幼児の健康にどのような影響を及ぼすのかを考え、健康を支援する保育者としての資質を高める。
授業計画	１回　オリエンテーション ２回　領域「健康」のねらいと内容 ３回　子どもの身体的発育 ４回　子どもの精神的発達 ５回　基本的生活習慣（食事、排泄） ６回　基本的生活習慣（睡眠、清潔） ７回　基本的生活習慣（衣服の着衣脱） ８回　運動の発達的意義 ９回　子どもの運動遊びの変化を考える 10回　成長・発達段階による遊びの特徴(0～3歳) 11回　発達段階による遊びの特徴(4～5歳) 12回　運動遊びの指導のポイント 13回　運動遊びと心理的要因 14回　安全教育(リスクとハザード) 15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高めておく。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点(40%)、レポート(20%)、試験(40%) 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の観点で行なう。
教科書	「保育内容　健康」　建帛社　河邉貴子
参考書	「保育と幼児期の運動遊び」　岩崎洋子　萌文書院

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（言葉）						
担当教員	和田　典子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもが言葉を獲得していくプロセスを理解し、豊かな言葉を育む教材を使って、適切な援助ができるように実践力をつける。
授業の概要	○子どもが言葉を獲得していくプロセスを理解する。 ・幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容を理解する。 ・子どもの言葉を豊かにする保育者の援助、また教材について考え実践力を身につける幼児教育の目標の一つである領域、「言葉」の内容について理解を深め、子どもが主体的に言葉を獲得し心豊かに発達していくために、保育者はどのようにかかわっていけばよいかを探っていく。子どもは周囲のさまざまな環境（人的・物的、その他）とふれあう中で言葉を獲得するが、保育者はその言葉をよりよく育むことができるように援助することが求められる。そこで、本授業では子どもが獲得する言葉のプロセスを捉え、より豊な言葉を育むための理論と具体的な実践方法を学ぶ。
到達目標	子どもの年齢別に言葉獲得のプロセスを理解し、年齢に応じた援助の具体的な方法を学ぶ。 絵本を読み聞かせる技術、ペープサート、紙芝居などを演じる方法を、実践を通して理解し、体得する。
授業計画	第１回　保育内容「言葉」とは何か 第２回　幼稚園教育要領・保育所保育指針にみる「言葉」 －教育要領・保育指針に示される総則、各年齢の子どもの保育の内容を理解する－ 第３回　言葉の果たす役割、また機能について 第４回　子どもが言葉を獲得するプロセス　－誕生直後から1歳まで 第５回　1歳児の言葉を豊かにする教材　　－絵本の種類と読み方（１）－ 第６回　子どもが言葉を獲得するプロセス　－2歳～3歳－ 第７回　2～3歳児の言葉を豊かにする教材　　－絵本の種類と読み方（２）－ 第８回　子どもが言葉を獲得するプロセス　－3歳から4歳まで－ 第９回　３～4歳児の　言葉を豊かにする教材－視聴覚教材（紙芝居） 第10回　子どもが言葉を獲得するプロセス　　－4歳から5歳まで－ 第11回　４～5歳の言葉を豊かにする教材　　－視聴覚教材（ペープサート） 第12回　子どもが言葉を獲得するプロセス　　－5歳から小学校入学まで－ 第13回　5歳児以上の言葉を豊かにする教材　－書き言葉を中心にした言葉環境作リ－ 第14回　言葉の育ちが気になる子ども－吃音・口蓋裂・難聴などから子どもの言葉を考える－ 第15回　まとめ、および確認試験の実施
授業外における学習（準備学習の内容）	絵本に関する理解を深めるために、図書館などを利用して多くの絵本に触れる。また、授業内で読み聞かせができるように準備する。 子どもの実態を、テレビや教室以外の場所（電車の中や公園、図書館など）で観察する。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	評価は、平常点（授業参加度、レポート、実践能力）２０％と試験８０％による総合評価とする。履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	濱名浩編　新時代の保育双書『保育内容　言葉』　（株）みらい　2000円（税別） 和田典子著　ワークノート　（授業中に指示します）
参考書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』チャイルド社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（言葉）						
担当教員	和田　典子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもが言葉を獲得していくプロセスを理解し、豊かな言葉を育む教材を使って、適切な援助ができるように実践力をつける。
授業の概要	○子どもが言葉を獲得していくプロセスを理解する。 ・幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容を理解する。 ・子どもの言葉を豊かにする保育者の援助、また教材について考え実践力を身につける幼児教育の目標の一つである領域、「言葉」の内容について理解を深め、子どもが主体的に言葉を獲得し心豊かに発達していくために、保育者はどのようにかかわっていけばよいかを探っていく。子どもは周囲のさまざまな環境（人的・物的、その他）とふれあう中で言葉を獲得するが、保育者はその言葉をよりよく育むことができるように援助することが求められる。そこで、本授業では子どもが獲得する言葉のプロセスを捉え、より豊な言葉を育むための理論と具体的な実践方法を学ぶ。
到達目標	子どもの年齢別に言葉獲得のプロセスを理解し、年齢に応じた援助の具体的な方法を学ぶ。 絵本を読み聞かせる技術、ペープサート、紙芝居などを演じる方法を、実践を通して理解し、体得する。
授業計画	第１回　保育内容「言葉」とは何か 第２回　幼稚園教育要領・保育所保育指針にみる「言葉」 －教育要領・保育指針に示される総則、各年齢の子どもの保育の内容を理解する－ 第３回　言葉の果たす役割、また機能について 第４回　子どもが言葉を獲得するプロセス　－誕生直後から1歳まで 第５回　1歳児の言葉を豊かにする教材　　－絵本の種類と読み方（１）－ 第６回　子どもが言葉を獲得するプロセス　－2歳～3歳－ 第７回　2～3歳児の言葉を豊かにする教材　　－絵本の種類と読み方（２）－ 第８回　子どもが言葉を獲得するプロセス　－3歳から4歳まで－ 第９回　３～4歳児の　言葉を豊かにする教材－視聴覚教材（紙芝居） 第10回　子どもが言葉を獲得するプロセス　　－4歳から5歳まで－ 第11回　４～5歳の言葉を豊かにする教材　　－視聴覚教材（ペープサート） 第12回　子どもが言葉を獲得するプロセス　　－5歳から小学校入学まで－ 第13回　5歳児以上の言葉を豊かにする教材　－書き言葉を中心にした言葉環境作リ－ 第14回　言葉の育ちが気になる子ども－吃音・口蓋裂・難聴などから子どもの言葉を考える－ 第15回　まとめ、および確認試験の実施
授業外における学習（準備学習の内容）	絵本に関する理解を深めるために、図書館などを利用して多くの絵本に触れる。また、授業内で読み聞かせができるように準備する。 子どもの実態を、テレビや教室以外の場所（電車の中や公園、図書館など）で観察する。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	評価は、平常点（授業参加度、レポート、実践能力）２０％と試験８０％による総合評価とする。履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	濱名浩編　新時代の保育双書『保育内容　言葉』　（株）みらい　2000円（税別） 和田典子著　ワークノート　（授業中に指示します）
参考書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』チャイルド社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（人間関係）						
担当教員	寺見　陽子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	領域「人間関係」の保育内容の理解
授業の概要	テーマ：人とのかかわりによって育つ自我の発達過程と、その育ちを支える子どもの内的能力の発達、保育環境や保育者の役割について理解する。 到達目標：①子どもの心の育ちとその育ちを支える人の関わりのあり方について理解する ②領域人間関係の意義と保育内容について理解する ③人のかかわりを育てる保育のあり方と実践方法について理解する ④保育者としての感性やかかわりのセンス、実践に生かせる力を身に付ける 概要：保育実践事例を通して、年齢に応じたかかわりの変化を具体的に明らかにしながら、 保育における子どもとのかかわりの基本と子どもの育ちを促す人間関係、保育の内容、保育者の援助のあり方について理解を深める。
到達目標	領域「人間関係」に示された保育の内容と実践について理解する。
授業計画	第１回　保育内容「人間関係」の意義と内容 第２回　乳幼児期の人間関係と心の育ち①－生活 第３回　乳幼児期の人間関係と心の育ち②－遊び 第４回　３歳未満児の人間関係と保育①－乳児 第５回　３歳未満児の人間関係と保育②－１，２歳児 第６回　３歳児の人間関係と保育 第７回　４歳児の人間関係と保育 第８回　５，６歳児の人間関係と保育 第９回　生活・遊びと人間関係－個の育ちと集団 第10回　多様な人間関係と保育－地域交流 第11回　育ちの気がかりな子どもと人間関係 第12回　豊かな人間関係を育てる保育の環境 第13回　人とのかかわりを育てる保育者の役割 第14回　人とのかかわりを育てる実践と計画 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	フィールドでの子どもとのかかわり
授業方法	事例をもとにした演習を行います。 事例をもとに、子どもの内面理解と援助、保育の方法やあり方、解釈に関連する理論を説明していきます。 また、ＤＶＤ等を用いて具体的な子どもの姿や保育者の関わりを学んでいきます。
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　小レポート２０点　テスト８０点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行います。
教科書	寺見陽子編　「子どもの心の育ちと人間関係」　保育出版　2009 プリント配布
参考書	必要に応じて紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（人間関係）						
担当教員	寺見　陽子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	領域「人間関係」の保育内容の理解
授業の概要	テーマ：人とのかかわりによって育つ自我の発達過程と、その育ちを支える子どもの内的能力の発達、保育環境や保育者の役割について理解する。 到達目標：①子どもの心の育ちとその育ちを支える人の関わりのあり方について理解する ②領域人間関係の意義と保育内容について理解する ③人のかかわりを育てる保育のあり方と実践方法について理解する ④保育者としての感性やかかわりのセンス、実践に生かせる力を身に付ける 概要：保育実践事例を通して、年齢に応じたかかわりの変化を具体的に明らかにしながら、 保育における子どもとのかかわりの基本と子どもの育ちを促す人間関係、保育の内容、保育者の援助のあり方について理解を深める。
到達目標	領域「人間関係」に示された保育の内容と実践について理解する。
授業計画	第１回　保育内容「人間関係」の意義と内容 第２回　乳幼児期の人間関係と心の育ち①－生活 第２回　乳幼児期の人間関係と心の育ち②－遊び 第３回　３歳未満児の人間関係と保育①－乳児 第５回　３歳未満児の人間関係と保育②－１，２歳児 第６回　３歳児の人間関係と保育 第７回　４歳児の人間関係と保育 第８回　５，６歳児の人間関係と保育 第９回　生活・遊びと人間関係－個の育ちと集団 第10回　多様な人間関係と保育－地域交流 第11回　育ちの気がかりな子どもと人間関係 第12回　豊かな人間関係を育てる保育の環境 第13回　人とのかかわりを育てる保育者の役割 第14回　人とのかかわりを育てる実践と計画 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	フィールドでの子どもとのかかわり
授業方法	事例をもとにした演習を行います。 事例をもとに、子どもの内面理解と援助、保育の方法やあり方、解釈に関連する理論を説明していきます。 またＤＶＤ等を用いて実際の子どもの姿や具体的な保育者の関わりを学んで行きます。
評価基準と評価方法	2/3以上の出席　小レポート２０点　テスト８０点 履修カルテ評価は、「意欲」「知識」「適正」の3つの観点で行います。
教科書	寺見陽子編　「子どもの心の育ちと人間関係」　保育出版　2009 プリント配布
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現I）						
担当教員	奥村　正子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。
授業の概要	幼稚園教育要領の目標を達成するための具体的な内容を理解し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。 幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。 楽器遊びや、弾き歌いによる指導など、具体的・実践的な音楽技能を習得する。 音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う中で、自らの技能、表現力の拡充を図る。
到達目標	領域「表現」が示すねらいと内容を学び、幼児の「表現」の特性とその発達を理解する。幼児の音楽的な表現を援助できるようになるための具体的・実践的な知識と技能を身につける。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明・領域「表現」のねらいと内容 第２回　幼稚園教育における領域「表現」の歴史的変遷　　弾き歌い実習１ 第３回　幼児期の「うたう」表現活動と発達１ 　　幼児の音楽表現活動の実際の姿（VTR視聴を含む） 第４回　幼児期の「うたう」表現活動と発達２　　弾き歌い実習２ 第５回　幼児期の「ひく」表現活動と発達 　　幼児の音楽表現活動の実際の援助の姿（VTR視聴を含む） 第６回　子どもの楽器を使った合奏実習 第７回　幼児期の「きく」「つくる」表現活動と発達　　弾き歌い実習３ 第８回　幼児期の「うごく」表現活動と発達 第９回　領域「表現」における指導計画・シミュレーション指導案の作成に向けて 第１０回　担当学生第１組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１１回　担当学生第２組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１２回　担当学生第３組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１３回　担当学生第４組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１４回　担当学生第５組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	指定したテキストの箇所は、次回までに読んでおくこと。 弾き歌いの課題曲について、各自、平素からよく練習しておくこと。
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	平常点60点　（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験　40点 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 ISBN4-87136-710-X C3073
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現I）						
担当教員	奥村　正子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。
授業の概要	幼稚園教育要領の目標を達成するための具体的な内容を理解し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。 幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。 楽器遊びや、弾き歌いによる指導など、具体的・実践的な音楽技能を習得する。 音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う中で、自らの技能、表現力の拡充を図る。
到達目標	領域「表現」が示すねらいと内容を学び、幼児の「表現」の特性とその発達を理解する。幼児の音楽的な表現を援助できるようになるための具体的・実践的な知識と技能を身につける。
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の方法の説明・領域「表現」のねらいと内容 第２回　幼稚園教育における領域「表現」の歴史的変遷　　弾き歌い実習１ 第３回　幼児期の「うたう」表現活動と発達１ 　　幼児の音楽表現活動の実際の姿（VTR視聴を含む） 第４回　幼児期の「うたう」表現活動と発達２　　弾き歌い実習２ 第５回　幼児期の「ひく」表現活動と発達 　　幼児の音楽表現活動の実際の援助の姿（VTR視聴を含む） 第６回　子どもの楽器を使った合奏実習 第７回　幼児期の「きく」「つくる」表現活動と発達　　弾き歌い実習３ 第８回　幼児期の「うごく」表現活動と発達 第９回　領域「表現」における指導計画・シミュレーション指導案の作成に向けて 第１０回　担当学生第１組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１１回　担当学生第２組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１２回　担当学生第３組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１３回　担当学生第４組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１４回　担当学生第５組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第１５回　まとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	指定したテキストの箇所は、次回までに読んでおくこと。 弾き歌いの課題曲について、各自、平素からよく練習しておくこと。
授業方法	講義・演習
評価基準と評価方法	平常点60点　（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験　40点 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 ISBN4-87136-710-X C3073
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現II）						
担当教員	奥　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究
授業の概要	乳幼児の造形表現を指導・援助するために必要な理論と実践の方法を学びます。造形表現の理念、乳幼児の発達との関係、指導に必要な造形表現の素材・用具・表現技法を身につけ、実践的な造形指導に活用できるように導きます。実技や教育・保育現場の資料を通して造形保育を構想し、幼児が主体的に活動できる環境構成や一人ひとりにあった指導・援助について学びます。
到達目標	造形表現の指導法につながる乳幼児の造形表現の特質と発達的特徴の理解、造形素材・用具・表現技法を習得することを目標とします。
授業計画	第1回　幼児の造形表現の実際と特質・幼稚園教育要領、保育所保育指針「領域表現」の理解 歳2回　造形表現が生まれる道筋・乳幼児の造形活動の実際 第3回　乳幼児の造形表現の発達 第4回　幼児と描画材(1)：多様な描画材と出会う 第5回　幼児と描画材(2)：いろいろな遊び・いろいろな表現 第6回　「もの」とかかわる（1）：ものと出会う（感触教材） 第7回　「もの」とかかわる（2）：行為や操作の遊び（紙・粘土） 第8回　五感と描画表現 第9回　五感と描画表現 第10回　「領域表現」と保育 第11回　造形活動の指導の原理：保育の構想・環境構成・評価 第12回　造形保育の構想（1）指導計画と指導案 第13回　造形保育の構想（2）指導案作成と保育の試行 第14回　描いたり造ったりして遊ぶ（2）：ごっこの中の造形（他領域との関連） 第15回　子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をしてください。 授業後学習：各授業のテーマ毎にノートの整理をすること。特に実技的内容の授業回は、 経験した実技と指導の関連について整理しておいてください。
授業方法	講義・演習・実技
評価基準と評価方法	受講態度・プレゼンテーション等30%、作品・活動に関わるレポート等の提出物40%、最終時のレポート30%。意欲・知識・適性の３観点を持って評価します。
教科書	花篤實、岡田懋吾編著『新造形表現』三晃書房　ISBN978-4-7830-8000-B 幼稚園教育要領 保育所保育指針
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現II）						
担当教員	奥　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究
授業の概要	乳幼児の造形表現を指導・援助するために必要な理論と実践の方法を学びます。造形表現の理念、乳幼児の発達との関係、指導に必要な造形表現の素材・用具・表現技法を身につけ、実践的な造形指導に活用できるように導きます。実技や教育・保育現場の資料を通して造形保育を構想し、幼児が主体的に活動できる環境構成や一人ひとりにあった指導・援助について学びます。
到達目標	造形表現の指導法につながる乳幼児の造形表現の特質と発達的特徴の理解、造形素材・用具・表現技法を習得することを目標とします。
授業計画	第1回　幼児の造形表現の実際と特質・幼稚園教育要領、保育所保育指針「領域表現」の理解 歳2回　造形表現が生まれる道筋・乳幼児の造形活動の実際 第3回　乳幼児の造形表現の発達 第4回　幼児と描画材(1)：多様な描画材と出会う 第5回　幼児と描画材(2)：いろいろな遊び・いろいろな表現 第6回　「もの」とかかわる（1）：ものと出会う（感触教材） 第7回　「もの」とかかわる（2）：行為や操作の遊び（紙・粘土） 第8回　五感と描画表現 第9回　五感と描画表現 第10回　「領域表現」と保育 第11回　造形活動の指導の原理：保育の構想・環境構成・評価 第12回　造形保育の構想（1）指導計画と指導案 第13回　造形保育の構想（2）指導案作成と保育の試行 第14回　描いたり造ったりして遊ぶ（2）：ごっこの中の造形（他領域との関連） 第15回　子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をしてください。 授業後学習：各授業のテーマ毎にノートの整理をすること。特に実技的内容の授業回は、 経験した実技と指導の関連について整理しておいてください。
授業方法	講義・演習・実技
評価基準と評価方法	受講態度・プレゼンテーション等30%、作品・活動に関わるレポート等の提出物40%、最終時のレポート30%。意欲・知識・適性の３観点を持って評価します。
教科書	花篤實、岡田懋吾編著『新造形表現』三晃書房　ISBN978-4-7830-8000-B 幼稚園教育要領 保育所保育指針
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現III）						
担当教員	倉　真智子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの表現力を読み取る
授業の概要	幼児の表現活動は、最も基本的な心の表れである。感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から幼児の表現力を高めるための援助の仕方や指導法、技能の習得をする。
到達目標	学生自身が自らの身体表現能力を養い、生活行動から見える幼児の心の動きを読み取る能力を養う。また、幼児の発達や特性に応じたリズムあそびや指遊び等の指導法を習得する。
授業計画	第１回　保育内容（表現Ⅲ）の授業のねらいと計画 第２回　領域「表現」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）の理解 第３回　律動運動（基本的なステップ） 第４回　表現活動（身近な生き物） 第５回　表現活動（身近な事象） 第６回　遊び文化の理解：伝承遊び 第７回　遊び文化の理解：世界の伝承遊びと表現 第８回　イメージの世界で遊ぶ：ノンバーバルコミュニケーション 第９回　歌を媒介としたリズム遊び 第10回　音楽を媒介としたリズム遊び 第11回　年齢や発達に応じた指導法 第12回　手遊び等の模擬保育１ 第13回　手遊び等の模擬保育２ 第14回　幼児のリズム体操 第15回　幼児のリズムダンス
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな場面における幼児の表現活動を、身近な場面において気づき、その意味を読み取れるよう意識しておくこと。また、子どもの歌などに親しんでおくと授業がより有効になる。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	受講態度(50%)、模擬保育発表(30%)、課題(20%)
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針
参考書	適宜紹介し、必要に応じて配布する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現III）						
担当教員	倉　真智子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの表現力を読み取る
授業の概要	幼児の表現活動は最も基本的な心の表れである。感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から幼児の表現力を高めるための援助の仕方や指導法、技術の習得をする。
到達目標	学生自身が自らの身体表現能力を養い、生活行動から見える幼児の心の動きを読み取る能力を養う。また、幼児の発達や特性に応じたリズムあそびや指遊び等の指導法を習得する。
授業計画	第１回　保育内容（表現Ⅲ）の授業のねらいと計画 第２回　領域「表現」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）の理解 第３回　律動運動（基本的なステップ） 第４回　表現活動（身近な生き物） 第５回　表現活動（身近な事象） 第６回　遊び文化の理解：伝承遊び 第７回　遊び文化の理解：世界の伝承遊びと表現 第８回　イメージの世界で遊ぶ：ノンバーバルコミュニケーション 第９回　歌を媒介としたリズム遊び 第10回　音楽を媒介としたリズム遊び 第11回　年齢や発達に応じた指導法 第12回　手遊び等の模擬保育１ 第13回　手遊び等の模擬保育２ 第14回　幼児のリズム体操 第15回　幼児のリズムダンス
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな場面における幼児の表現活動を、身近な場面において気づき、その意味を読み取れるよう意識しておくこと。また、子どもの歌などに親しんでおくと授業が有効になる。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	受講態度(50%)、模擬保育発表(30%)、課題(20%)
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針
参考書	適宜紹介し、必要に応じて配布する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論／保育内容（表現）						
担当教員	寺見　陽子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保育における保育の内容とその考え方を理解する
授業の概要	保育所保育の基本と保育の全体構造を理解しながら、保育の内容とは何か、保育のねらいを達成し、具体的な実践を展開するための方法としての保育の内容、その展開、保育の形態、多様な保育ニーズに応じる内容とその実際を考える。
到達目標	①保育における保育内容とは何か ②保育のねらいと実践の展開－目標達成の手立てとしての保育の内容 ③子どもする経験と保育の内容－子どもの活動と内的経験のとらえ方
授業計画	第１回　保育所保育の特性と基本 第２回　保育の内容とは 第３回　保育の内容の変遷① 第４回　保育の内容の変遷② 第５回　保育の内容とその構造① 第６回　保育の内容とその構造② 第７回　保育の内容と展開① 第８回　保育の内容と展開② 第９回　多様な保育の展開とその内容① 第10回　多様な保育の展開とその内容② 第11回　保育の計画と実践① 第12回　保育の計画と実践② 第13回　保育の記録と省察・評価 第14回　保育の内容と小学校との接続 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	保育場に出かけて、保育の実際を理解する機会を積極的にもってください。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト　30点　テスト70点
教科書	保育士養成講座編纂委員会編　「保育内容総論」新保育士養成講座第11巻　全国社会福祉協議会
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論／保育内容（表現）						
担当教員	寺見　陽子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	保育における保育の内容とその考え方を理解する
授業の概要	保育所保育の基本と保育の全体構造を理解しながら、保育の内容とは何か、保育のねらいを達成し、具体的な実践を展開するための方法としての保育の内容、その展開、保育の形態、多様な保育ニーズに応じる内容とその実際を考える。
到達目標	①保育における保育内容とは何か ②保育のねらいと実践の展開－目標達成の手立てとしての保育の内容 ③子どもする経験と保育の内容－子どもの活動と内的経験のとらえ方
授業計画	第１回　保育所保育の特性と基本 第２回　保育の内容とは 第３回　保育の内容の変遷① 第４回　保育の内容の変遷② 第５回　保育の内容とその構造① 第６回　保育の内容とその構造② 第７回　保育の内容と展開① 第８回　保育の内容と展開② 第９回　多様な保育の展開とその内容① 第10回　多様な保育の展開とその内容② 第11回　保育の計画と実践① 第12回　保育の計画と実践② 第13回　保育の記録と省察・評価 第14回　保育の内容と小学校との接続 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	保育場に出かけて、保育の実際を理解する機会を積極的にもってください。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト　30点　テスト70点
教科書	保育士養成講座編纂委員会編　「保育内容総論」新保育士養成講座第11巻　全国社会福祉協議会
参考書	必要に応じて示します。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	養護原理						
担当教員	吉田　隆三						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	社会的養護について理解を深める
授業の概要	現下、家庭の養育機能の脆弱化が進むなか、子どもの権利擁護・発達保障・自立支援が大きな社会的課題となり社会的養護体系の見直し,及び制度の再構築作業が大きく動いています。 　そのような制度改革の現状を認識しつつ,私たちは養護問題の発生の背景を学ぶとともに、社会的養護の体系と役割や施設養護の実際を理解し、それを深める。
到達目標	子どもの最善の利益に関わり、寄り添う専門職（保育士）としての職員像を確立し、施設養護のあり方を追求する。
授業計画	①　社会的養護の体系とその役割 ①養護問題の発生の背景について ②　　家庭養育機能の脆弱化 ③　　親権意識の変化 ④子どもの人権、権利擁護と子育て支援について ⑤　　「育ち合い」と「個別養育」 ⑥　　「子育て支援」と「子育ち支援」 ⑦社会的養護の体系とは ⑧　　施設養護の基本理念 ⑨　　施設養護の体系 ⑩　　家庭代替機能・家庭機能と補完 ⑪　　親指導・家庭養育支援の課題 ②　福祉施設の運営 ⑫福祉施設運営とは ⑬児童福祉施設の社会的役割の変化 ⑭契約・選択の施設と措置の福祉施設 ⑮児童福祉施設専門職員に求められるもの
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ等で報道されるニュース等の、家庭のあり方・親子のあり方・子育て等に関心を持ち、自分なりの意見・考えをまとめる学習に努める。
授業方法	講義・演習　形式 授業の一環として学外見学・研修を実施することもある。
評価基準と評価方法	小レポート・期末試験等で総合的に評価し、欠席した場合は減点とする。 評価割合　　平常点　20%　小レポート　30%　期末試験　50%
教科書	児童養護の原理と内容　監修　吉田宏岳　（株）みらい その他、レジメ等の資料を適宜配布する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	養護内容演習						
担当教員	吉田　隆三						
学期	後期　後半	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	子育ちには何が大切なのかを追求する
授業の概要	施設養護の役割が子どもの生活保障から,子どもの権利擁護・発達保障・自立支援とその役割機能が大きく変わり、子どもの生活養育を基本としながらも、より治療的・教育的な専門的関わりが重要な課題となってきた。 施設養護の専門性を求め、傷つき心身の発達の課題を多く抱えた子ども理解と治療的・教育的関わりを追求するとともに,「安心・安全」な生活を整えることの大切さとともにその構築の課題を学ぶ。 また、児童養護には、保護者との「共同子育て」が大きな課題になるがその課題についても学びたい。
到達目標	保育士として、子育て支援するとはどういうことなのかを確立する。
授業計画	１　施設養育とは ①　なぜ社会的養護が求められるのか ②　養育を決める子ども観(子ども理解) ③　家庭養育の課題(家庭養育と子どもの人格形成) ④　施設養育に求められるもの(施設養育の社会的責任) ⑤　家庭的養育(里親)に求められるもの ２　施設養育の実際(日常生活を築く) ⑥　そだち直しをするために(子どもの基本的ニーズ) ⑦　集団生活と生活リズム(そだち合う仲間) ⑧　生活習慣の形成と生活技術の習得(基本的生活習慣の自立) ⑨　発達課題と日常生活（治療的関わりにつなげる） ３　養育効果を高める親指導をめざした ⑩　家庭養育機能の脆弱化といわれて ⑪　あえて問う,「親権」とは何 ⑫　養育の「負の連鎖」を見つめる ４　養育専門職員として ⑬　職員の資質と子ども ⑭　ケースワーク・グループワークの概要 ⑮　関わりの「説明責任」を果たすため 子ども最善の利益を「代弁者」とは
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ等で報道されるニュース等の、家庭のあり方・親子のあり方・子育て等に関心を持ち、自分なりの意見・考えをまとめる学習に努める。
授業方法	講義　グループ討議 授業の一環として学外見学・研修を実施することもある。
評価基準と評価方法	小レポート・期末試験等で総合的に評価し、欠席した場合減点とする。 評価割合　　平常点　20%　小レポート　30%　期末試験　50%
教科書	児童養護の原理と内容　監修　吉田宏岳　（株）みらい その他、レジメ等の資料を適宜配布する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	養護内容演習						
担当教員	吉田　隆三						
学期	後期　前半	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	子育ちには何が大切なのかを追求する
授業の概要	施設養護の役割が子どもの生活保障から,子どもの権利擁護・発達保障・自立支援とその役割機能が大きく変わり、子どもの生活養育を基本としながらも、より治療的・教育的な専門的関わりが重要な課題となってきた。 施設養護の専門性を求め、傷つき心身の発達の課題を多く抱えた子ども理解と治療的・教育的関わりを追求するとともに,「安心・安全」な生活を整えることの大切さとともにその構築の課題を学ぶ。 また、児童養護には、保護者との「共同子育て」が大きな課題になるがその課題についても学びたい。
到達目標	保育士として、子育て支援するとはどういうことなのかを確立する。
授業計画	１　施設養育とは ①　なぜ社会的養護が求められるのか ②　養育を決める子ども観(子ども理解) ③　家庭養育の課題(家庭養育と子どもの人格形成) ④　施設養育に求められるもの(施設養育の社会的責任) ⑤　家庭的養育(里親)に求められるもの ２　施設養育の実際(日常生活を築く) ⑥　そだち直しをするために(子どもの基本的ニーズ) ⑦　集団生活と生活リズム(そだち合う仲間) ⑧　生活習慣の形成と生活技術の習得(基本的生活習慣の自立) ⑨　発達課題と日常生活（治療的関わりにつなげる） ３　養育効果を高める親指導をめざした ⑩　家庭養育機能の脆弱化といわれて ⑪　あえて問う,「親権」とは何 ⑫　養育の「負の連鎖」を見つめる ４　養育専門職員として ⑬　職員の資質と子ども ⑭　ケースワーク・グループワークの概要 ⑮　関わりの「説明責任」を果たすため 子ども最善の利益を「代弁者」とは
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ等で報道されるニュース等の、家庭のあり方・親子のあり方・子育て等に関心を持ち、自分なりの意見・考えをまとめる学習に努める。
授業方法	講義　グループ討議 授業の一環として学外見学・研修を実施することもある。
評価基準と評価方法	小レポート・期末試験等で総合的に評価し、欠席した場合減点とする。 評価割合　　平常点　20%　小レポート　30%　期末試験　50%
教科書	児童養護の原理と内容　監修　吉田宏岳　（株）みらい その他、レジメ等の資料を適宜配布する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児理解						
担当教員	春　豊子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	保育者に求められる幼児理解
授業の概要	第一に、子どもを理解するために幼児理解の基盤となるものについて学ぶ。第二に、視聴覚教材等を活用ら、具体的な事例を通して、保育者としてどのように幼児の行動や内面理解を図ればよいかを考える。第三に、環境としての保育者、援助者としての保育者の役割を考える。
到達目標	幼児一人一人に即した見方や、捉え方、対応の仕方などを学び、多面的に幼児を理解していく力を培っていく。
授業計画	第１回　オリエンテーション　：授業概要の説明 第２回　子どもを理解するために　：保育の始まりとしての幼児理解、絵本や実践から学ぶ子どもの姿 第３回　幼児期にふさわしい生活　：幼児理解の基盤となるもの 第４回　幼児理解と発達の理解　：保育における幼児理解　発達過程の捉え方 第５回　幼児理解と援助　：幼児理解の方法（観察、かかわり、記録など） 第６回　幼児理解の方法　：ビデオを活用して 第７回　幼児の行為の意味　：子どもの内なる世界の理解 第８回　幼児理解と保育の援助（１）　：保育者の役割 第９回　幼児理解と保育の援助（２）　：ビデオ視聴から幼児のよさや可能性を捉える 第１０回　幼児理解と保育の援助（３）　：保育者の役割 第１１回　カウンセリングマインドと保育臨床（１）　：カウンセリングマインドと保育の関係 第１２回　カウンセリングマインドと保育臨床（２）　：障碍のある幼児の保育 第１３回　子育て支援・家庭支援とカウンセリングマインド：子育て支援の必要性 第１４回　子ども理解を深める保育カンファレンス　：園内研修の必要性 第１５回　まとめと授業評価　：質疑応答と筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に沿って、当日までに教科書の該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだところを簡単に整理しておくと復習になり、理解が深まる。授業内で配布された資料は、きちんと綴じて保存しておくと、後々役に立つ。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	筆記試験による評価　５０％　　授業態度（意欲・関心）、レポートなど提出物による評価５０％　を総合して評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行う。
教科書	森上史朗・浜口純子　編　「幼児理解と保育援助」　ミネルヴァ書房　２００５年
参考書	文部科学省　幼稚園教育指導資料第３集「幼児理解と評価」　フレーベル館 文部科学省　幼稚園教育指導資料第４集「一人一人に応じる指導」　フレーベル館

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科研究						
担当教員	加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	理科のおもしろさを知り、伝える
授業の概要	学習指導要領における理科の目標とその趣旨、「エネルギー、粒子」、「生命、地球」の各領域について教材の構成と考え方を述べる。特に、小学校理科の現状調査をもとにその課題と解決に結びつくポイントについて考察する。展開としては学習指導要領における理科の目標とその趣旨、学習指導要領における各領域の内容及びポイントについて、理科と環境教育、理科と情報教育、理科と生活科、理科と社会科等との関連、中学校理科へのつながり、理科教育の動向と課題をその内容とする。
到達目標	理科の歴史や事象について興味を持って調べて、それを説明できる
授業計画	第１回　理科研究について 第２回　科学の歩み 第３回　発表と検討（科学史） 第４回　理科の構造（生命　第３学年、第４学年） 第５回　理科の構造（生命　第５学年、第６学年） 第６回　理科の構造（地球　全学年） 第７回　発表と検討（生命、地球） 第８回　理科の構造（エネルギー　第３学年、第４学年） 第９回　理科の構造（エネルギー　第５学年、第６学年） 第１０回　発表と検討（エネルギー） 第１１回　理科の構造（粒子　第３学年、第４学年） 第１２回　理科の構造（粒子　第５学年、第６学年） 第１３回　発表と検討（粒子） 第１５回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	発表のための調べ学習
授業方法	講義と学生による発表
評価基準と評価方法	定期試験(70%)と個人発表(20%)の成果を主資料として、授業への取り組みの姿勢(10%)も加味する。
教科書	小学校学習指導要領解説　理科編 教科用図書（理科３年生用～６年生用）（啓林館）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科研究						
担当教員	加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	理科のおもしろさを知り、伝える
授業の概要	学習指導要領における理科の目標とその趣旨、「エネルギー、粒子」、「生命、地球」の各領域について教材の構成と考え方を述べる。特に、小学校理科の現状調査をもとにその課題と解決に結びつくポイントについて考察する。展開としては学習指導要領における理科の目標とその趣旨、学習指導要領における各領域の内容及びポイントについて、理科と環境教育、理科と情報教育、理科と生活科、理科と社会科等との関連、中学校理科へのつながり、理科教育の動向と課題をその内容とする。
到達目標	理科の歴史や事象について興味を持って調べて、それを説明できる
授業計画	第１回　理科研究について 第２回　科学の歩み 第３回　発表と検討（科学史） 第４回　理科の構造（生命　第３学年、第４学年） 第５回　理科の構造（生命　第５学年、第６学年） 第６回　理科の構造（地球　全学年） 第７回　発表と検討（生命、地球） 第８回　理科の構造（エネルギー　第３学年、第４学年） 第９回　理科の構造（エネルギー　第５学年、第６学年） 第１０回　発表と検討（エネルギー） 第１１回　理科の構造（粒子　第３学年、第４学年） 第１２回　理科の構造（粒子　第５学年、第６学年） 第１３回　発表と検討（粒子） 第１５回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	発表のための調べ学習
授業方法	講義と学生による発表
評価基準と評価方法	定期試験(70%)と個人発表(20%)の成果を主資料として、授業への取り組みの姿勢(10%)も加味する。
教科書	小学校学習指導要領解説　理科編 教科用図書（理科３年生用～６年生用）（啓林館）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科指導法						
担当教員	加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	理科教育の得意な女性教員を目指す
授業の概要	理科離れをつくらない理科指導を求めて、実験・観察を通した楽しい理科教育の指導をテーマとする。小学校理科の指導法の基礎知識と技能を身に付ける。そのために教科書を活用し、教材の選択と配列及び授業の展開方法を指導し、模擬授業などを行う。特に児童の興味関心を引き出す実験方法や観察方法を安全の視点を大切にし、具体的に体験を通して身に付けさせる。展開としては分野別の理科教育の流れ、授業の展開、認知と科学概念の形成、指導案の作成と模擬授業、理科の教材開発、理科の評価と評定などを内容とする。
到達目標	理科の模擬授業ができる
授業計画	第１回　学習指導要領と小学校理科の構造 第２回　生活科と３学年学習内容と展開及び学習指導案の作成 第３回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　３学年(Ⅰ) 第４回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　３学年(Ⅱ) 第５回　４学年学習内容と展開及び学習指導案の作成 第６回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　４学年(Ⅰ) 第７回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　４学年(Ⅱ) 第８回　５学年学習内容と展開及び学習指導案の作成 第９回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　５学年(Ⅰ) 第10回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　５学年(Ⅱ) 第11回　６学年学習内容と展開及び学習指導案の作成 第12回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　６学年(Ⅰ) 第13回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　６学年(Ⅱ) 第14回　観察実験の注意事項と事故防止 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	実験の準備と予行、授業の資料づくり
授業方法	講義と実習
評価基準と評価方法	定期考査(70%)と模擬授業実習(20%)を主資料として、授業への取り組みの姿勢(10%)も加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	小学校理科教科用図書(４学年～６学年用)　啓林館 小学校学習指導要領解説　理科　　文部省
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科指導法						
担当教員	加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	理科教育の得意な女性教員を目指す
授業の概要	理科離れをつくらない理科指導を求めて、実験・観察を通した楽しい理科教育の指導をテーマとする。小学校理科の指導法の基礎知識と技能を身に付ける。そのために教科書を活用し、教材の選択と配列及び授業の展開方法を指導し、模擬授業などを行う。特に児童の興味関心を引き出す実験方法や観察方法を安全の視点を大切にし、具体的に体験を通して身に付けさせる。展開としては分野別の理科教育の流れ、授業の展開、認知と科学概念の形成、指導案の作成と模擬授業、理科の教材開発、理科の評価と評定などを内容とする。
到達目標	理科の模擬授業ができる
授業計画	第１回　学習指導要領と小学校理科の構造 第２回　生活科と３学年学習内容と展開及び学習指導案の作成 第３回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　３学年(Ⅰ) 第４回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　３学年(Ⅱ) 第５回　４学年学習内容と展開及び学習指導案の作成 第６回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　４学年(Ⅰ) 第７回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　４学年(Ⅱ) 第８回　５学年学習内容と展開及び学習指導案の作成 第９回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　５学年(Ⅰ) 第10回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　５学年(Ⅱ) 第11回　６学年学習内容と展開及び学習指導案の作成 第12回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　６学年(Ⅰ) 第13回　模擬授業実習(観察・実験を含む)と指導　６学年(Ⅱ) 第14回　観察実験の注意事項と事故防止 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	実験の準備と予行、授業の資料づくり
授業方法	講義と実習
評価基準と評価方法	定期考査(70%)と模擬授業実習(20%)を主資料として、授業への取り組みの姿勢(10%)も加味する
教科書	小学校理科教科用図書(４学年～６学年用)　啓林館 小学校学習指導要領解説　理科　　文部省
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	レクリエーション概論						
担当教員	山崎　清治						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	レクリエーション活動の理解と実践
授業の概要	健康な生活に欠かせない創造的な身体活動をさまざまな実践を通して学ぶ。仲間との活動から、健康に対する認識や生涯スポーツに親しむ態度を習得する。レクリエーションの歴史、基本的な考え方・理念、支援者の役割、支援の目指すもの、組織と運営など、広く習得するとともに、個性的なアイデアを用いた新しいレクリエーション種目の創作と指導力の習得を課題とする。またコミュニケーションスキルを身につけ、人と共感し協力して活動できる態度を養う。
到達目標	指導現場のみならず、日常生活のなかに生かすことの出来るレクリエーションやコミュニケーションの感覚を身につけることが出来ます。
授業計画	1　レクリエーションって何だろう 2　レクリエーション体験　〜頭を使いましょう〜 3　レクリエーション体験　〜体を使いましょう〜 4　子どもとレクリエーション（１） 5　子どもとレクリエーション（２） 6　高齢者とレクリエーション（１） 7　高齢者とレクリエーション（２） 8　レクリエーションとコミュニケーション（１） 9　レクリエーションとコミュニケーション（２） 10　レクリエーションとグループワーク（１） 11　レクリエーションとグループワーク（２） 12　レクリエーションを企画する 13　レクリエーションを実施する 14　日常生活とレクリエーション 15　福祉とレクリエーション
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：いろんな人とレクリエーションやコミュニケーションのワークを行うので心の準備をお願いします。 授業後学習：家族や友人に授業で培った感覚を実践してください。
授業方法	講義形式と全員参加型のワークショップ形式で行う。
評価基準と評価方法	授業時間中に行う小テスト、小課題、作品を中心に評価する。 小テスト30%　小課題40%　作品30%
教科書	特に定めない。
参考書	